法學士 上村耕作 著

勞働保險論

東京　森江書店發行

明治
39 4 30
内交

序

個人的法律ノ研究ハ、我國ニ於テ、近年頗ル精緻ノ域ニ達シ、之ガ立法及ビ施行モ、亦漸ク完成シタリト雖、謂ユル、社會的法律ハ、未ダ大ニ朝野ノ學者政治家ノ注意ヲ惹クニ至ラズ、特ニ新興工業國トシテノ我國ニ向テ、焦眉ノ急務タルベキ、勞働者保護ノ問題ノ如キ、目前ノ小利ニ、眩惑セル企業者輩ハ、之ガ立法ヲ以テ、却テ工業ノ發達ヲ壓抑沮害スルモノト誤認シ、政黨者流、多クハ之ニ附和雷同シ、當

局者亦此虚妄ナル輿論、暗愚ナル民説ニ顧慮シテ、頗ル法案提出ニ踟蹰スルノ態アルハ、慨嘆ノ至ニ堪ヘザル所ナリ、夫ノ工場法案ノ如キ、政府ノ胎内ニ在ル、蓋シ既ニ十年ノ久キヲ經テ、猶未ダ其初聲ヲ揚グルヲ聞カザルハ何ゾヤ、勞働者強制保險法ノ如キモ、政府既ニ定案アルモノヽ如シ、嗚呼外寇ヲ掃蕩シ、内紛ヲ鎮壓スルニ果斷ナリシ政府ハ、何故ニ社會問題ノ解決ニ向テ、逡巡スルコト斯ノ如クナルヤ、

頃者、法學士上村耕作子、一論文ヲ草シ、題シテ、勞働保險論トイフ、其論ズル所ロ、歐米諸國民ニ向テハ、固ヨリ陳套ニ非ザレバ、大簡ノモノニ過ギザルベシト雖、勞働者保護問題ニ就テ、歐米國民ヨリ、一世紀乃至半世紀ヲ後ル、我國民ニ向テハ、則チ必讀ノ新書タルヲ失ハザルベシ、子來テ余ニ序ヲ需ム、乃チ欣ンデ、卑見ヲ卷首ニ題スト云爾、

明治三十八年十一月上浣京都ニ於テ

法學博士　田島錦治

序

拜啓益々御清健奉賀候、陳者貴著『勞働保險論』ニ序セヨトノ御高意、僕未ダ白面ノ一書生ノミ、豈濫リニ人ノ書ヲ汚スニ忍ビンヤ、然レドモ、君ト僕トハ數年間京都帝國大學ニ在リテ、研鑽ヲ倶ニセシノミナラズ、特ニ本論ハ僕ガ君ニ勸奬シテ研究ヲ促セシモノ、今其著成ルニ及ンデ、一言ヲ禁ズル能ハザルハ、人情然ル處ニ候。

抑現世紀ニ於テ、識者ノ注意ヲ喚起ス可キモノ、一

二ニ止マラザル可シト雖、所謂勞働問題ハ、其重要ノ一タルヤ、蓋疑ナケン、人或ハ曰ク、勞働問題ノ如キ、歐米諸國ノ特有ニシテ、少クトモ、本邦ニ於テハ、數十年後ノ事ノミ、目前幾多ノ急務アリ、此等ノ閑事ハ他日ヲ期シテ可ナリト、然リ歐米諸國ニ於テ、此問題ガ國家識者ノ憂ヲ專ラニスルハ言ヲ俟タズ、然リ而シテ僕ガ親シク觀察スル所ニ依レバ、現下本邦勞働者ノ狀態ハ、實質ニ於テ、歐米ニ於ケルモノヨリ、或ハ困弊ヲ極メツヽアルガ如シ、啻ダ本邦未ダ歐米ニ於ケル如ク、貧富ノ懸隔甚シカラズ、隨テ勞働者ノ狀態モ、比較的緩裕ナルガ如キ觀アルノミ、是レ既ニ識者ノ注目ニ値セズヤ、況ンヤ、比年特ニ戰後商工業ノ發達ハ、大組織ノ產業勃興シ、以テ資本集中ノ勢ヲ馴致シ、國民ノ多數ハ、相率ヒテ勞働者ノ群ニ入ラザル可ラザル機會ニ遭遇セルニ於テオヤ。

或程度迄ノ大組織產業ハ、國際的經濟競爭ノ、日ニ益々激甚ナラントスル今日是認セザルヲ得ズ、然

レドモ又一方ニ於テ、生産ノ最要素タル勞働保護ニ努メザル可ラズ、若シ然ラズシテ、生産能力ノ根源ヲ枯渇セシメンカ、人間ト謂フ廣キ問題ハ措キ、國家夫レ何ニ賴テ立タン、是レ歐米諸國特ニ近來經濟上并ニ政治上大野心アリト稱セラルヽ、獨逸ガ頻リニ商工業ノ發達擴張ヲ計ルト同時ニ、又勞働者ノ保護奬勵ニ力ヲ盡シテ、日モ足ラザルガ如キ所以ナリトス。

所謂勞働保險ナルモノハ、主トシテ國家ノ強制ニ基キ、勞働者階級ノ老衰、疾病、傷害、等ノ場合ニ應ズル爲ニ設ケラレタル保險ナリ、現ニ獨逸ハ此方法ニ依テ、至大ノ美果ヲ收メツヽアリ、今君之ヲ論ズルコト詳細ニシテ誤ラズ、特ニ其原則ノ說明ニ止ラズ、進ンデ本邦ニ於ケル實行方法ヲモ案出シテ、世ニ示サル、世人之ニ依テ納得スル所多カル可キハ、僕ガ信ジテ疑ハザル處ナリ、然レドモ事ハ啻ニ是ニ止マランヤ、尙ホ幾多ノ研究要目アラン、是亦僕ガ世人ト俱ニ君ノ將來ニ待ツ所タリ。

終リニ臨ンデ、僕今ヤ笈ヲ負フテ遠ク此地ニ來リ、統計學及經濟學特ニ勞働問題ニ就キ、之ヲ先儒ニ聽キ、之ヲ實際ニ見聞シツヽアリ、然レドモ一歩ヲ進ムレバ、一歩暗ク、一ヲ得レバ、則チ十ヲ憂フ、學路夫レ何レノ時カ明ナラン、曾テ大家フオンチユヲーンハ言ヘリ「凡ソ無識ト誤解トハ萬事ニ害ヲ與フルモ、勞働問題ニ於ケルガ如ク然カク顯著ナルモノハアラジ、何者天下最大多數ノ幸福ト、安寧トガ直接ニ是ニ繫レバナリ」ト、僕勞働問題ヲ思念スル毎ニ、常ニ此至言ヲ懷ハザルヲ得ズ、然レドモ一徹ノ精神亦聊カ安ンズル所ナクンバアラズ候、幸ニ省慮ヲ給ハレ。拜具

明治三十八年十二月上旬

獨逸國民邊市　イサツク清流ニ枕シテ

廣部周助

上村學兄

硯地

勞働保險論

緒言

生産機關ノ要素ニシテ、物質的進歩ノ源泉トモ云フ可キ、勞働者ノ狀態ヲ改善シテ、彼等ニ經濟的觀念ヲ啓發シ、教化ヲ普及シ、貧困ヲ未發ニ防止シ、以テ社會ノ安寧、秩序、幸福ヲ、增進セシムルハ、目下ノ急務ニシテ經世家ノ意ヲ勞セザル可ラザル所ナリ、今ヤ我國ノ商工業ハ駸々乎トシテ進歩スルト共ニ、經濟上ノ變動ハ、著シク社會組織ニ大變化ヲ

與ヘタリ、余ハ這般憐ム可キ勞働者ノ境遇ニ關シ、其日常生活上避ク可ラザル急樞ニ應ズル經濟上ノ保護ヲ完カラシムルノ方法トシテ、刻下ノ現狀ニ鑑ミ、勞働保險制度ニ關シテ、聊カ論究ヲ試ミ、私見ヲ陳述シ、世人ノ一顧ヲ仰ガントス。

明治三十八年十一月

奈良寓居ニ於テ

著者　上村耕作識

勞働保險論目次

緒言

第壹章　保險ニ對スル一般概念

第貳章　勞働保險本論

第壹節　總論

第貳節　疾病保險

第參節　災厄保險

第四節　老癈保險

第參章　獨逸强制保險

第壹節　獨逸强制保險ノ由來
第貳節　疾病保險
第參節　災厄保險
第四節　老癈保險
第四章　我國ニ於ケル工業勞働者一般狀態
第壹節　最近ニ於ケル工場工業ノ變遷
第貳節　勞働者ト貯金
第參節　勞働者ト生命保險
第四節　各種工場ニ於ケル一般救濟法
第五節　勞働者ト同盟罷業
第五章　結論

勞働保險論

法學士　上村耕作　著

第壹章　保險ニ對スル一般概念

人ノ此世ニ處スルヤ常ニ危險ノ中ニ彷徨ス、其ノ危險ノ發生スルヤ、之レニ伴フ財産上ノ損害ヲ免ルコトヲ得ズ、故ニ豫メ之レニ對スル防禦ノ途ヲ講ズルハ人生ニ於テ最モ緊要ノ事ニ屬ス、若シ危險ノ原因ヲ除去スルコトヲ得バ、吾人ノ幸福之レヨリ大ナルナシト雖、其ノ原因タルヤ、之レヲ排除スルコト絶對的ニ不能ノ者アリ、或ハ全然ナシ得ザルニアラザルモ、殆ンド其ノ効ヲ收ムル能ハザルモノアリ、人智如何ニ進ミ、社會如何ニ開明ノ域ニ達スト雖、天然幷ニ人爲ノ災害ヲ悉ク防禦シ盡スハ、不可能ノ事ニ屬ス、夫レ保險ハ之レ等損害ノ賠償額ヲ補償シ危險ニ對スル吾人ノ恐懼ヲ安セシム。

保險ナル語ハ、英吉利語ニテハ、Insurance 又ハ Assurance 獨逸語ニテハ Versicherung 又ハ Assekuranz 佛蘭西語ニテハ、Assurance ト云ヒ孰レモ皆確實ナルコト、又ハ請合フト云フ、意味ヨリ來レルモノニシテ、人ノ心ヲ確固ニシ、安全ナラシムルノ効アルヲ以テ、附シタル語ナランカ。

保險ノ原理ハ數理ニアリ、故ニ之レガ原理ヲ知ラント欲セバ、深ク數理ノ研究ヲ試ミザル可カラズ、保險ハ保險者被保險者相互ノ契約ニヨリテ成立ス、故ニ各自相互ノ權利關係タル法律ヲ知ラザル可ラズ、保險ハ社會政策上頗ル重要ノモノナリ、故ニ複雜ナル社會上ノ組織ニ向テ、研究ヲ試ミザル可ラズ、或ハ醫學ノ力ニヨリテ生死ノ關係ヲ研究セズンバアル可ラズ、

憶フニ文明社會ノ經濟的要素ヲ形成セル保險制度ノ起源ニ就キテハ學者ノ說、未ダ區々ニシテ、確タル定說ヲ得ズト雖、保險ナル觀念ヲ微細ニ觀察スル時ハ、遠ク希臘羅馬ノ時代ニ、其萠芽ヲ發生セリト云フヲ得ベシト雖、第十世紀ノ頃獨逸ニ於テ火災ニ對スル救濟組合、又ハ死者ノ葬式費用ヲ作ル組合ノ如キモノアリテ、漸ク保險思想ヲ發現セシメタリト雖、今日ノ所謂保險ナル形態ヲ備ヘタルハ、十四世紀ノ頃、伊太利ニ於テ研究セラレ、漸次歐洲大陸ニ傳播シ、第十五世紀ノ中葉ニ至リ、一定ノ學理ニヨリテ、組織セラレ、諸般ノ經濟的活動ノ上ニ利用セラレ、其ノ學理ニ基テ運轉セラルヽニ至リタルハ、實ニ最近ノ事ナリト云フ可シ、卽チ生命保險トナリテハ人生ノ不幸、困窮ヲ慰安シ、火災保險トナリテ、都市ノ頹廢ヲ防止シ、海上保險トナリテハ、航海業ノ發達ヲ助長シ、農業保險ニアリテハ農業者ノ安全ヲ計リ、勞働保險ニアリテハ勞働者ノ困弊ヲ防ギ、其他債權保險、信用保險アリテ、今ヤ殆ンド保險ヲ以テ、其災厄ヲ救濟セントノ傾向ヲ現出スルニ至レリ。

彼ノギルドヨリ、發達シタル相互保險モ第十世紀ノ頃ヨリ、獨立ノ形體ヲ備ヘ來リテ、歐洲各國ニ傳播シ、死亡、疾病、災厄及負傷等ニ對シテ、會員相互相救フノ方法ヲ設ケ、彼ノ英吉利ニ於ケル、其濟組合ノ如キ、次デ獨逸ニ於テ、相互主義ノ保險ヲ形成シテ、千八百八十二年勞働保險法出デ之レヲ公的經營トシ、政府ハ之レニ向テ、必要ナル資金ヲ投シテ、以テ社會改良ノ手段ニ供セリ

憶フニ偶然ノ災厄ハ、時トシテハ、吾人ノ生命ヲ絶チ或ハ吾人ノ財産ヲ盡滅セシム、其ノ發生ヤ豫測ス可ラズ、危險ハ常ニ吾人ノ身邊ニ圍繞セリ、斯ク悲觀的ニ人生ヲ觀察スレバ、吾人ハ瞬時モ安ンジテ、其ノ業務ニ從事スルコト能ハズ、故ニ若シ其ノ不測ノ危險ヲ豫ジメ之レヲ排除シ得ベクバ、之レヲ排除シ、排除シ得ベカラズトセバ、其度ヲ輕減センコトヲ務メザル可カラズ、人智如何ニ進ムモ、豫メ不測ノ災厄ヲ防禦シ盡スハ、至難ノ事ニ屬ス、故ニ之ニ對スル經濟的損害救濟ヲ求ムルハ、一ニ保險ニアルノミ、昔時人智未ダ進歩セザル未開ノ時代ニ於テハ、未ダ完備セル保險制度ノ組織ナキヲ以テ、不測ノ災厄ニ遭遇シ、經濟的損害ヲ蒙ルコトアルモ、天ナリ命ナリトシ、之レヲ宗教的觀念ニ訴ヘテ、安心立命セシモノアラン、既ニ遭遇セル財産ノ盡滅ハ、之レヲ再ビス可ラズ、既ニ死スルノ生命ハ、同生ス可ラズト雖、其ノ死亡ノ爲ニ他ノ方面ヨリ觀察セバ、危險ノ更ニ恐ル可キモノアルヲ發見スルニ難カラザルナリ、卽チ一人ノ死亡ハ、或ハ妻子眷族ヲシテ饑餓ニ瀕セシメ、或ハ離散セシムルノ悲境ヲ演ゼシムルハ、屢々吾人ノ見聞スル所、卽チ一人ノ死亡ハ、之レヲ救濟スルニ途ナシトスルモ、累ヲ他ニ及ボスヲ知レバ、豫ジメ之レヲ救濟スル途ヲ講セズシテ可ナランヤ。

保險ハ多數ノ人類ガ、團體ヲ構成シテ、其ノ一員ガ、蒙リタル危險負擔ヲ、多人數ガ、分擔シテ塡補スル行爲ナリ。

抑モ保險制度ハ、危險程度ヲ減少セシメ、經濟上ニ於ケル損害ノ缺陷ヲ補償スルモノナリ、今危險減少ノ理ヲ說明セントス、人一タビ危險ニ逢着センカ、其ノ實現ハ直チニ損害トナリテ發現スルモノナリ、若シ危險ガ人格ヲ有スルモノヽ、行爲能力ニ出デンカ、損害賠償ノ要求權アルハ、法典ノ見認ムル所ナリ、サレバ斯カル損害ニアリテハ、吾人ハ法律ノ力ニヨリテ、之レガ補償ヲ要求スルコトヲ得レドモ、其ノ他ノ危險ニシテ、不時ニ發生センカ、斯カル場合ニ於テハ、其ノ權利ヲ主張シ得ルニ途ナク、サレバ救濟ヲ受クルニ途ナク、經濟上悲ム可キ現象ヲ惹起ス、茲ニ於テカ、損害分擔ナル、保險制度ヲ利用シテ、其ノ危險ヲ輕減スルコトヲ得ベシ、損害分擔ナルモノハ、一人ノ損害ヲ、多人數ニ分擔スルモノナリ、故ニ保險ハ危險ヲ輕減セシムルモノ

ニアラズ、又之レヲ救濟スルモノニアラズ、危險ニ罹リテ、發生シタル損害ヲ、輕減賠償スルモノナリ、故ニ保險制度ナルモノハ被保險者、絶エズ定期ニ一定ノ保險料ヲ保險者ニ支拂ヒ、停止條件ヲ以テ、損害發生ノ場合ニ於テ、保險金ヲ受取ルコトヲ契約スルモノニシテ、保險ハ斯ノ如クシテ、危險ヲ救濟シ、而シテ經濟上ニ於ケル缺陷ヲ補フ。

方今文明ノ先驅ハ、常ニ危險的事業ニ胚胎ス、人固ヨリ生ヲ尊重セザル可ラズ、徒ラニ生ヲ重ンジテ、危險ヲ畏レ、逡巡之レヲナサヾレバ、何ゾ開明ノ發展ヲ期スルコトヲ得ンヤ、殊ニ勞働者階級ハ、他ノ一般人衆ニ比シテ、危險常ニ多シ、彼レ常ニ危險ヲ畏懼シ、危險的ノ事業ニ從事スルモノナカランカ、事業ノ萎靡期シテ知ル可キノミ、人誰レカ危險ヲ畏懼セザルモノナカランヤ、危險ヲ畏懼スル通態ヲ洞察スレバ、啻ニ自己ノ死ヲ恐ルヽニアラズシテ、後顧ノ患更ニ大ナルヲ恐怖スレバナリ、我レ死セバ、父母妻子眷族ハ如何、之レ誠ニ人情ノ然ラシムル所、擧世斯ノ如キ常態ニ纏綿セラレンカ、誰レカ危險事業ニ從フモノアランヤ、夫レ人ハ恒心アルヲ要ス、民ノ恒心ナキヤ、放辟邪曲至ラザルナシ、而シテ恒心アルモノハ、多クハ恒産アルモノニ求ム可シ、孟子曰ク『恒産アルモノハ恒心アリ恒産ナキモノハ恒心ナシ』ト之レヲ萬民ニ律シテ、違ハザルヲ必ス可ラズト雖、其ノ産ノ動搖ニヨリテ、其ノ心ノ動搖スルハ、一般衆民ニ免レザル通觀ナリ、彼ノ不慮ノ災害ニ遭遇シ、身命ヲ失フノ危險ニ遭遇スルガ如キハ、眞ニ其ノ人ノ不幸ナラズヤ、而シテ此不幸ニ遭遇シテ、爲ニ恒心ヲ失フニ至リテハ、更ニ憫然タル可キモノアリ、而シテ社會之レヲ救濟スルノ術ナケレバ、徒ラニ恒心ナキ人民ヲ增サンノミ、恒心ナキ人民ノ增殖ハ、社會騷亂ノ因タリ、保險事業ハ之レ等災民ヲ救濟スル最良方策ナリ。

更ニ吾人ハ保險料ノ性質ガ、經濟上如何ナル意味ヲ以テ組成セラルヽヤ、抑モ保險料ハ多クノ場合ニ於テ、被保險者ガ所得ノ一部ヲ割キテ、之レニ當テ、保險者ニ支拂フモノナリ、故ニ一タビ停止條件ニシテ、其ノ効力發生セバ、其ノ受領ス可キ保險金ハ、既存ノ財産ニアラズシテ、所得ノ一部ヲ以テ、貯蓄サレタルモノナルヲ知ル可シ、サレバ保險制度ハ、貯蓄ノ便法ニシテ、各國ガ競フテ頻リニ勸奬シツヽアル、貯蓄制

度ト相對シ、毫モ遜色アルヲ見ザルナリ。

或者、經濟界ノ不振ヲ見テハ、忽チ貯蓄ヲ勸奬シ、勞働者ノ困弊ヲ目擊シテハ、忽チ貯蓄ノ必要ヲ說ク、而シテ更ニ何等ノ貯蓄ヲ現實ニ力行スルヲ得ザルナリ、之レ貯蓄ナルモノヽ、觀念ヲ明ニ發揮セザルノ致ス所、抑モ貯蓄ハ社會上ヨリ說ケバ、人類進化ノ一現象ナリ、經濟上ヨリ說明セバ、消費少クシテ生產シ、支出少クシテ獲得ノ多大ナルコトニシテ、萬般事業ノ基礎タリ、何トナレバ、資本ナルモノハ、貯蓄シタル財貨ノ集積シタルモノナレバナリ。

スミス曰ク『重農學派ノ生產物モ、重商學派ノ財貨モ、皆人生ニ於ケル安寧幸福ノ根源ニアラズシテ、其ノ根源ハ主トシテ、勞働ヨリ來ル生產ニアリテ、此ノ生產ヲ增殖セシムルハ、貯蓄ニアリト』實ニ資本ノ成立ハ、貯蓄實現ノ結果ナリト說明シ、貯蓄ノ必要ナル、彼ノヘルマンガ貯蓄心ヲ國民義務ノ觀念ノ一ニ加ヘタル、太宰純ハ其著經濟錄ニ於テ、頻リニ勤儉貯蓄ヲ說キ、人生ノ主腦トシタルハ歷然トシテ見ル可ク、彼ノ管仲國富ノ一章ハ、彼ガ貯蓄論ノ一斑ヲ表示シ、彼レノ遠眼能ク太古ニアリテ、社會問題ニ着眼シ、當時貧民問題又ハ窮民保護問題ヲ論ジタルノ證ニアラズヤ、道義ノ說法ヲ以テ生涯ヲ送リタル孔丘ハ、諸侯ニ勸ムルニ『用ヲ節シテ人ヲ愛セ』ト云ヘルハ、蓋シ故ナキニアラザルナリ、而シテ能ク之レガ貯蓄ヲナスハ、克己勤勉自重ノ觀念ナカル可ラズ、然レドモ、人心是レ危ク、道心之レ微ナリ、克己ハ放縱ニ勝ツ能ハズ、勤勉ハ怠慢ヲ凌駕スル能ハズ、自重ハ弱行ヲ排除スル能ハズ、之レ人情ノ常態ニアラズシテ何ゾヤ、世ノ所謂經世家、熟心ニ貯蓄ヲ唱道シテ未ダ實蹟ノ著シカラザルハ、然ル所以カ、殊ニ下層ニ位スル無智ナル勞働者階級ニ於テ、貯蓄心ニ乏シキハ、蓋シ故ナキニアラザルナリ節約ト云ヒ、貯蓄ト云ヒ、之レヲ口ニスル甚ダ易ク、之ヲ實踐スルコト甚ダ難シ、何トナレバ之ヲ行フヿト否トハ、專ラ人ノ心事ニ屬シ、毫モ制裁ナケレバナリ、現今多數ノ諸國ハ、貯蓄勸奬ノ方法トシテ、郵便貯金ノ如キ、貯蓄債券ノ如キ、貯蓄銀行ノ如キ、設備アリト雖、之レ等ノ機關ニ向テ、貯蓄セラレタルモノハ、其ノ拂戾シノ自由ナル、敢テ損耗ヲ蒙ラザルヲ以テ、之レガ拂戾ヲ受クルニ易ク、遂ニ蓄積スルニ至ラズシテ已ムモノナリ、サレバ貯蓄ヲシテ眞ノ貯蓄タラシメ

ソト欲セバ、敢テ有害ナキ限リ、之レヲ强制シテ、之レガ拂戻シヲ制限スルカ、又ハ之レヲ防止セザレバ、何等ノ効力ナシ、然ルニ保險事業ハ、契約ノ結果、自ラ他ノ制裁ヲ受ケ、既ニ一タビ保險料ヲ保險者ニ拂込ミ積ンデ中途之レヲ廢スレバ、從來節約シテ積タル保險料ヲ失フノ愚ニ歸スルガ故ニ、計算上人ヲシテ節約ヲ行ヒ、貯蓄ヲ繼續セシメン、サレバ保險料ハ一種ノ强制貯蓄ノ一種ナリト云フモ、敢テ不可ナク、故ニ保險制度ニヨリテ、以テ貯蓄心ヲ奬勵シ、社會問題ノ解決ニ、最モ必要ナル、下級社會ノ思想ヲ健全、着實、安心、立命、ヲ得セシメ、他ノ一方ニ於テハ、下層社會ニ利殖ノ方法ヲ知得セシメ、不時ノ災厄ニ於ケル、安全ノ保證ヲ得テ、知ラズ識ラズ、國民ヲシテ經濟的生存ノ上級ニ、向進セシメ、教化ヲ普及シ、貧困ヲ未發ニ防止シ、社會ノ信用ヲ暢達セシメ、貧富ノ懸隔ヲ、平等ナラシムルニ効アリ。

更ニ吾人ハ保險ヲ、被保險者方面ヨリ、觀察シテ、生產的行動ナリト言ハントス、何トナレバ、保險料ハ零碎ノ資金ノ集合セルモノニシテ、生產ノ三大要素タル、大資本トナリテ、世ニ現ハレ、被保險者ガ既ニ蒙リタル、損害ヲ塡補シ得ルハ、勿論生產的行動ヲシテ、容易ナラシムルニアラズヤ、吾人ハ資本ノ生產ニ必要ナルハ論ナク、零碎ノ資金、動モスレバ、費消シ易ク、貯蓄シテ資本ノ成立ニ至ラザルヲ通弊トスルガ、保險ニアリテハ、保險料トシテ被保險者ヨリ蓄積セラレ、遂ニ資本ヲ形成シテ、生產的行動ヲ容易ナラシムルニアラズヤ。

又保險者ノ方面ヨリ觀察センニ、保險者ハ被保險者ヨリ一定ノ保險料ヲ徵收シ、被保險者危險ニ遭遇スルカ、又ハ停止條件ニシテ到來センカ、保險者ハ保險金ヲ拂渡スモノナリ、故ニ保險者ハ決シテ、無意味ニ他人ノ危險負擔ニ契約スルモノニアラズ、若シ無意味ニ他人ノ危險負擔ニ契約スルモノナランニハ、一種ノ射倖的ノモノナリ、然レドモ保險制度ハ決シテ射倖的ノモノニアラズ、保險金ハ保險料ノ割合ニ應ジテ打算セラレ、保險者ハ被保險者ニ向テ、保險金ヲ拂渡スモ、決シテ損失ヲ蒙ルコトナク、絶エズ保險料ヲ徵收シテ、恰モ金融機關ノ如ク之レヲ融通シテ、利殖ノ方法ヲ取レリ、此ノ如クシテ、保險ニヨリテ蓄積サレタル資本ハ、他ノ資本ノ如ク恣ニ還付ヲ求ム可ラズ、故ニ之レヲ利用スルニ於テ、最モ便利ヲ感ズレバナリ、彼ノ米西

戰爭ニ於テ、米軍ノ爲ニ其ノ軍資ヲ供給セル、米國生命保險會社ハ、四拾億圓以上ノ蓄積ヲ有シ、尙年々參四億ノ蓄積ヲ增加セリ、彼レガ軍資ノ供給ヲナシテ餘裕綽々タル、又以テ其ノ如何ヲ察知スルニ足ランカ。

既ニ述ブルガ如ク、保險事業ニシテ、個人ノ利益ヲ保護スルト共ニ、社會若クハ國家ノ平和ヲ維持スルガ爲ニ、之レヲ政務ノ一ニ置クヲ要ス、歐米諸國果シテ之レヲ政務ノ中ニ置ク例アリヤ、否ヤ、之レヲ按ズルニ、諸般ノ保險事業ヲ包轄シテ、殊ニ保險ヲ政務トスル國ハ、未ダ世ニ之レアルヲ見ズ、然レドモ保險事業ノ一部ヲ以テ政府自ラ之レヲ行ヒ、或ハ之レヲ營ミ、又會社ヲ監督保護スル國ハ、頗ル多キヲ致サントセルハ、刻下ノ現狀ナリ。

本邦及支那ノ歷史ヲ通覽スルニ、屢々常平倉ナルモノアルヲ見ン、余ハ稍々保險事業ニ類似スル所アルヲ信ズルモノナリ、何トナレバ其ノ趣旨ハ唯ダ貯蓄ニアルガ如シト雖、其平年ノ貯蓄ヲ以テ、凶年ノ危急ヲ救濟スル狀ハ、保險ト異ル所甚ダ少シ、常平倉ハ租稅トシテ、保險料ヲ一般ヨリ徵收シ、保險ハ契約ニヨリテ被保人ヨリ保險料ヲ收ム、常平倉ニアリテハ、救濟ヲ受クルモノハ、政府ノ認定スル所ニ限リ、保險ハ豫メ契約スルモノニ限ル、而シテ其ノ根據ヲ統計ニ取リテ、危險ノ程度ニ相當セシムルガ如キ、或ハ給與金ノ多寡ハ、各員拂込タル金額ノ多寡ニヨリテ、差異アルガ如キ、之レ其ノ異ル點ノミ、彼ノ本邦ニ行ハレシ、備荒儲蓄ノ如キハ、又タ常平倉ノ遺制ト謂ハザル可カラズ、但シ之レヲ貯蓄スル、個人ノ任意ニアラズ、其ノ賑救ヲ受クル、又自己ノ貯蓄ノ多寡ニヨルニアラズ、頗ル公平ヲ失ス、豫メ保險契約ニヨリテ、得ル所ヲ定ムルノ精確ナルニ如カザルナリ、其他、天然ノ危害ニ對シテ互ニ救濟スル方法ハ、昔日ヨリ發生スルコト疑ナシ、彼ノ町內ノ制度、組合ノ方法、又ハ賴母子講、伊勢講ノ類之レナリ、然レドモ眞ノ保險事業ハ、全ク外國ノ輸入物ニシテ、最近ノ事ニ屬ス、而シテ今ヤ漸ク發達ノ兆ヲ來スト雖、其ノ區域廣カラズ、中等階級以上ノ爲ニスルモノハ、幾多ノ私的經營ニヨリテナレルト雖、下層社會一般ニ及ボス保險ニ至リテハ、論ズル人サヘ稀ナリ、余ハ保險ノ恩澤ヲ下層社會一般ニ及ボスコトハ、我國將來國家ノ發達上、及ビ國民ノ安寧秩序ヲ保持增進スルニ於テ、極メテ必要缺ク可

ラザルコトヽ信ジテ疑ハザルナリ、彼ノワグナルハ、一時盛ンニ保險事業ノ國化主義ヲ唱道シタルモ、獨逸帝國ハ未ダ之レヲ官業トセザリシガ、鐵血宰相ビスマーク出テ、夙ニ國民ノ貧富懸隔、生存競爭ノ風浪、漸々險惡ヲ加ヘ、社會黨動モスレバ、現社會ノ制度ヲ破壞セントスルノ風アルヲ憂ヒ、之レヲ救濟スルノ最大手段ハ、保險ヲ以テ勞働者階級ヲ保護スルニアリト洞察シ、終ニ獨逸帝國ノ爲メニ、强制保險ヲ施行セリ、而シテ其効果ノ見ル可キモノ、頗ル多ク破壞黨ノ勢力ハ、頓ニ衰ヘ、彼ノ英吉利ニ於ケル勞働者罷工問題ノ聲ノ大ナラザル、又保險事業ガ該國ニ與ヘタル賜ニアラズシテ何ゾヤ。

第貳章　勞働保險本論

第壹節　總論

勞働者保險問題ハ、生産機關ノ要素タル、勞働者ノ狀態ヲ改善シテ、窮民ニ陷入ルコトヲ豫防スル救濟方法トシテ、現時ノ社會ガ頻リニ講究セル、廣汎ナル勞働問題ノ一部ヲ形成スル重要ナル問題ニシテ、其ノ目的トスル所種々アレドモ、彼レ等ニ經濟的觀念ヲ啓發シ、教化ヲ普及シ、貧困ヲ未萌ニ防グニアリ、卽チ勞働者ノ疾病、災厄、又ハ負傷ノ爲ニ、一時若クハ、永久勞働不能ノ場合ニ、之レニ保護及ビ損害ノ賠償ヲ與ヘ、又體質上老癈ニ際シ、勞働不能ニ及ンデ、之レニ年金ヲ給與スルコトヲ保證シ、餘年ヲ全カラシメ、死者ノ遺族ニ對シテ安慰ヲ與フルニアリ。

今勞働者ガ勞働能力ヲ減失スル、其ノ重ナルモノヲ上ンカ、

(一)疾病、

(二)業務災厄、

(三)老衰及癈疾、

疾病ハ人生ノ生活ニ於テ、一般何人ト雖、屢々發生スル事項ニシテ、決シテ勞働者獨リ特有ノモノニアラズ、然リト雖、勞働ノ種類ニヨリテ、特種ノ疾病ヲ釀スハ、能ク人ノ熟知スル所ナリ、彼ノ有害物、中毒ヲ取扱フ工場ニ於テハ、工場生活ノ爲ニ、特種ノ

疾病ヲ惹起シ、彼ノ紡績工場ニ於テハ、呼吸氣病ニ罹ルモノ多數ヲ占ムル等、枚擧ニ暇アラズト雖、勞働ノ種類ニヨリテ特種ノ疾病ヲ釀スハ明カナル事實ナリ。

業務災厄ハ、勞働ニ伴フ偶然ノ災厄ニシテ、殊ニ危險ナル有毒藥品ヲ使用スル工場又ハ危險ナル器械ヲ使用スル工場ニアリテハ勢ヒ免ル能ハザル所、近時文明進歩發達ニ伴ヒ、器械ノ應用益々勢力ヲ逞スルハ、能ク人ノ知ル所、此ノ災害ニシテ輕微ナル時ハ、勞働者自ラ療養ヲ加フ可シト雖、其ノ重大ナルモノニ至リテハ、勞働力ヲ減少シ、又ハ勞働不能ニ終ラシメ、他ノ救濟ヲ受クルニアラザレバ、其ノ生活ヲ支持スルコトヲ得ズ、一朝不幸ニシテ死亡センカ、勞働者ノ遺族ニ至リテハ、其ノ慘狀又更ニ憫然タルモノアリ。

老衰及癈疾モ、又一般人民ニ比スレバ、其ノ業務ノ種類ニヨリテ、老癈死亡ノ期ヲ早ムル機會他ノ一般人衆ニ比シテ、多ク其ノ原因ノ重ナルモノヲ上ンカ、

(一)職業其物ノ害、

(二)塵埃中黴菌ヲ吸收スルコト、

(三)藥品等ヨリ發スル有害ナル瓦斯ヲ吸收スルコト、

(四)賃錢ノ低廉ナル爲メ、知ラズ識ラズ、生活ノ困難ニヨレルコト、

(五)過度ノ勞働時間ニ服務スルコト、

等ハ一般ニ工場生活ニ伴フ弊害ニ外ナラズ、

憶フニ、疾病、業務災厄、及ビ老癈ノ場合ニ際シテ、勞働不能ヲシキニ渡ル時ハ、忽チ收入ノ途ハ絶エ、窮民ノ伍ニ入リテ、以テ之レガ救濟ヲ受クルニアラザレバ、生計ヲ支持スルヲ得ズ、一朝不幸ニシテ、死亡センカ、其ノ遺族ニアリテハ、其ノ慘狀又更ニ憫然見ルニ絶エザルモノアリテ存ス。

以上各種ノ場合ニ對スル豫防方法トシテ、施政家ハ國家社會ノ施設、經營ニ頗ル勤儉貯蓄ヲ唱導シテ已マズ、吾輩モ又前述ノ如ク、其ノ必要ヲ見認ムルモノナレドモ、一般ニ貯蓄奬勵方法、及ビ且ツ最モ確實ナルヲ保證スル、貯蓄機關ナキニ苦ムヨリハ、寧ロ保險制ヲ採用シテ、之ガ救濟方法ニ當ツルノ巧妙ヲ悟ラズンバアル可ラズ、今貯金制ト保險制ノ二者ヲ一言比較センカ、貯金ニアリテハ、勞働者ノ貯蓄ノミニ

テハ、到底其ノ金額ノ寡少ナル、充分ナル救濟ノ効果ヲ擧ルニ足ラザル場合ニ於テモ、保險制ニヨレバ、保險料ナル名ノ下ニ無數ナル、被保人ヨリ零碎ノ掛金ノ蓄積ヨリシテ、直チニ特種ノ事情發生ト同時ニ、既ニ支拂ヒタル、保險料金ノ多少ニ係ラズシテ、其ノ豫定ノ保險金ヲ受取ルコトヲ得、何時ニテモ、之ガ救濟ヲ充分ニ受クルコトヲ得ベケレバナリ、加之ニ勞働不能ハ、事々刻々、不時ニ遭遇スルモノナレバ、如何ニ貯蓄ヲ勸奬シ、又勞働者自ラ進ンデ、之レガ貯蓄ヲ斷行スルコトアリト雖、豫メ之レガ疾病災害ニ處スル貯蓄ヲナスコトハ、不可能ノ事ニ屬セリ、殊ニ人情ノ常態トシテ、勤儉貯蓄ハ、單ニ發作的一時ノモノニ止ル可ク、其ノ永續ヲ望ムニ難シ、而カモ保險制ニアリテハ、其ノ加入契約期限ノ滿了、被保人ノ死亡、若クハ、疾病、災厄及ビ老癈ニ至ルマデ、保險料ハ、絶エズ繼續シテ、之レヲ貯蓄セザル可ラザルヲ以テ、其ノ貯蓄ノ性質永續的ナルノミナラズ、抑モ保險制ハ貯蓄ノ便法ニシテ、之レニ强制力ヲ附加セルモノト見認ムルヲ得ベク、勞働不能ノ場合ニ於ケル、救濟方法トシテ、勞働者階級ヲ救濟シ、社會改良政策中、積極的方策トシテ、保險制ハ貯金制ヨリモ遙カニ、勝レル所アルヲ信ズルモノナリ、此ノ制度ニシテ完全ナル發達ヲ遂ンカ、現時勞働者階級ガ絶エズ享受シツヽアル、困窮ニ對シテ、疾病又ハ災厄ヲ恐怖スルノ要ナク、老癈ヨリ來ル、困苦缺乏モ顧慮スルノ要ナク、充分ナル救濟ヲ與ヘ安慰ヲ得セシムル最良方策ナリ。

此種勞働者保險ニ對シ、反對說ヲ唱フルモノヽ、言ニヨレバ、此ノ制度ヲ施行センカ、勞働者獨立自營自助ノ精神ヲシテ薄弱ナラシムルノ恐アリト、此ノ論題タルヤ、其ノ採用スル保險方法ノ如何ニヨリテ、之レガ豫防ヲ豫メ講ズルコトヲ得ベク、保險ノ純正ナル意義ニ於テハ、是レ等ノ非難ヲ容ル可キニアラザルヲ信ズルモノナリ。

今歐洲各國ニ行ハルヽ、勞働保險組織ノ重ナルモノヲ上グレバ、

(一) 單獨保險、
(二) 營業保險、
(三) 相互保險、
(四) 官業保險、

單獨保險トハ、工場主又ハ企業主ガ自己ノ經營スル業務ノ許ニ、雇傭セル勞働者ノ爲ニ單獨ニテ行フ組織ニシテ、公共心ニ富ミ、道義心ニ勝レル工場主、又ハ企業主ニヨリテ組織セラルヽ時ハ、實ニ完備セルモノニシテ、勞働者保險トシテハ、更ニ缺クル所ナキヲ以テ、余輩ハ大工場若クハ、大企業ノ下ニ於テハ、企業主自ラ競フテ、之レガ經營ヲ計ラバ、啻ニ勞働者保護ノミニ止マラズシテ、企業主ノ受クル利得ノ更ラニ大ナルヲ信ズルモノナレドモ、世上一般ニ此種ノ企業主ニ乏シク、眼前ノ營利ニ汲々トシテ、將來ノ大計ヲ企圖スルモノ少キハ、慨然ノ至リナラズヤ、サレバ勞働保險ノ組織トレテハ、一般ニ可ナルヲ信ズルモノニアラズ。

營業保險トハ、射利ヲ目的トシテ、成立スルモノニシテ、一般ニ株式會社組織ニシテ、會社タル保險者ハ一般勞働者ヲ被保險者トシテ保險契約ヲ締結シテ、之レガ損害ノ塡補ヲナシ、利益ヲ得タル時ハ、之レヲ株主ニ分配シ、損失ヲ生ジタル時ハ、會社ノ資産卽チ株主ノ資産ヲ以テ、之レニ充ツル一種ノ射利ヲ目的トスル組織ナレバ、從テ保險料ハ自然高キニ失シテ、被保險者ニ利ナラズ、例ヒ數多ノ同業者アリテ、之レガ競爭ノ結果比較的ニ保險率低廉ニ實施スルコトヲ得ルトスルモ、其ノ目的トスル所、射利ヲ以テ成立スルモノナレバ、勞働保險ノ如キ、本來ノ主義タル社會改良ヲ理想トシテ發現スルモノニハ、其ノ根柢ヨリ適セズシテ、又廣ク一般勞働者ニ普及セシムルコトハ難シトスル所ナリ。

相互保險ハ勞働保險トシテ、現今廣ク一般ニ行ハレ、保險沿革上古キ歷史ヲ有ス、今其ノ組織ヲ說明センニ、此ノ組織ニアリテハ、被保險者タル各人相互ノ關係ハ、組合員ノ關係ニシテ、各人ハ其ノ組合團體ノ財團ニ關シテハ、直接ノ利害關係ヲ有シ、組合員ノ一人ニシテ損害ヲ蒙ランカ、多數ノ組合員ハ其ノ損害ヲ塡補シ、利得アレバ之レガ分配ヲ受ク、サレバ組合員ハ悉ク被保險者ニシテ、他ノ一方ヨリ見レバ保險者ナリ、故ニ此種ノ保險ニアリテハ、組合員ハ各自出捐金ヲナシ、其ノ組合團體ノ財團ニ關シテハ、直接ノ利害關係ヲ享有ス。

此種ノ保險組織ニ三種アリ。

(一)勞働者工場主協同シテ組織スルモノ

(二)勞働者相ヒ互ニ救濟ノ爲メニ組織スルモノ、

(三)工場主ガ勞働者救濟ノ爲メニ組織スルモノ、

之レナリ、此ノ組織ハ多クハ、各組合員ガ事故ニ遭遇ス可キ危險ノ程度同ジキカ、又ハ同ジカラザルモ、稍々類比セルモノガ、各組合ヲ設ケテ、相互救濟ヲ目的トシテ成立シ、此種ノ組織ハ彼ノ營業組織ノ如ク、被保險者以外ニ營業者アリテ、利益ヲ占メラル、ヽ恐ナク、畢竟相互救濟ノ團體ヲ構成セルト、同一ノ結果ニ歸ス、然リト雖、此三種ノ保險組織ノ優劣ハ、保險ノ種類ニ從ヒテ、其ノ利害得失ヲ異ニセリ。

疾病保險ニアリテハ、多クハ第二種及第三種ノ組織ニヨリテ經營セラレ、災厄保險ニアリテハ、工場主又ハ企業主ガ、其ノ業務上ヨリ來レル災厄ニ對シテハ、之レガ救濟ノ義務ヲ負擔セシムルヲ以テ、第三種ノ組織ニヨリテ行ハルヽハ、一般ノ狀態ニシテ、小工場ニアリテハ、獨力之レガ經營ニ難キヲ以テ、更ニ工場主ガ、組合ヲ組織シテ、相互救濟ノ方法ヲ取レリ、老衰及癈疾ニ至リテハ、第一種ノ組織ニヨリテ經營セラル、此種ノ保險ハ、救濟方法トシテハ多額ノ一時金ヲ給與スルカ、又ハ終身年金ヲ給與セザル可ラザルヲ以テ、比較的多額ノ保險料ヲ支出セザル可ラズ、之レ到底勞働者ノ獨力ニテ應ジ難キハ、見易キノ理ニシテ、歐洲各國皆工場主勞働者協同シテ勞働者ノ爲メニ組織セル所以ナリ。

官業保險ハ國家ガ法令ヲ設ケ、政府自ラ之レヲ經營スル組織ニシテ、保險ノ目的ヲ迅速ニ、且ツ安全ニ、實施サルノミナラズ、其ノ組織方法ノ簡便ヲ庶幾シ得ベク、勞働保險ノ目的ヲ充實スルニ於テ、適當ナル決シテ相互保險ニ讓ルコトナシ、是ニ於テカ、官業保險ハ漸ク盛大ヲ極メントスルノ傾向ヲ生ズルニ至レリ、殊ニ老衰癈疾ニ對スル保險ニアリテ、其ノ費用頗ル巨額ニ達シ、工業主又ハ企業主及ビ勞働者ノ共力ニヨリテ、支辨スルコト難キハ、夙ニ識者ノ見認ムル所ニシテ、頗ル基礎ノ鞏固ナルコトヲ必要トスルモノナレバ、老癈保險ニアリテハ、余輩ハ官業經營ヲ以テ最トスルモノナリ、要之官業保險ハ信用及誠實ノ點ニ於テハ、恐クハ最確ノ源淵ナレバ、此種ノ保險ヲ實施スルニハ余輩ハ官設保險ヲ以テ、其ノ目的ヲ達スルニ最モ便益ナランカ。

勞働保險ヲ實施スルニ二個ノ形式アリ、

〔第一〕國家奬勵ノ下ニ任意保險ヲ行フ歟、

〔第二〕國家監督ノ下ニ强制保險ヲ行フ歟、

此ノ二主義ノ分ルヽ所ハ、政府ガ工場主又ハ勞働者ニ對シテ、强制的ニ勞働保險ニ加入スル義務ヲ負擔セシムルヤ否ヤニ存ス、故ニ强制保險ノ條件ハ强制加入ノ主義ヲ採ルニアリ、

此ノ二個ノ形式、孰レヲ採用スルヲ以テ適當ナリトスルカハ、各國特種ノ事情ニヨリテ決定ス可キモノナルヲ以テ、各般人情風俗、習慣及ビ法制等諸種ノ事情ヲ考察セザル可ラズ、彼ノ英米國民ノ如ク、自主獨立ノ精神ニ富ミタル國民ニ對シテハ、任意主義ハ、最モ適切ニシテ、現時英米兩國ハ任意主義ニヨリテ、勞働保險ヲ實施シ、日ニ月ニ盛大ノ域ニ進ミ、頗ル好果ヲ呈スト雖、之レト正反對ナル性格ヲ有スル獨逸國ニ於テ此ノ主義ヲ採用センカ、到底今日ノ盛大ヲ見ルコトヲ得ザルヤ必セリ、斯ノ如キ國民ニ對シテハ、强制主義ヲ採用スルヲ以テ適切ナリトス、鐵血宰相茲ニ觀ル所アリ、强制主義ヲ採用シ公的經營トシ、之レニ對シテ、必要ナル資金ヲ投ジ、此種保險ノ社會ニ及ボス、効果ノ大ナル獨逸帝國歷史上ニ、一大光彩ヲ放ツニ至リタルハ、其ノ主義採用ノ適切ヲ得タルニ因スルニアラザルカ。

强制保險ハ任意保險ニ比シテ、一般ニ保險ノ目的ヲ最モ迅速ニ、安全ニ、且ツ低廉ニ實施サルノミナラズ、其ノ組織方法ノ簡便ヲ庶幾シ得ベシト信ズルモノナリ、今ヤ中流社會以上ニアリテハ、保險ハ一家長ノ道義上ノ責任ナリト認識セラレントスルノ時代ニ達セリト雖、些少ノ災厄輕微ノ疾病ニテモ、直チニ多大ノ苦痛ヲ感ズル勞働者階級ニアリテハ、未ダ深ク保險ノ必要ヲ感知スルノ域ニ達セズ、サレバ彼等ヲシテ一般ニ絶對ノ安寧ヲ得セシメ、安慰ヲ得ルノ方法ヲ制定シ、之レヲ發達セシメントスルハ、任意保險ニ比シテ遙カニ利アルモノヽ如シ、今日ノ勞働者ハ徒ラニ他ノ慈惠的救恤ヲ受ケ甘ンズ可キニアラズ、自助ノ精神ヲ發輝セシメテ、一定ノ保險料ヲ規則正シク拂込マシテ自己ノ必要ナル場合ニ、豫メ之レニ對スル方法ヲ備ヘシムルニ、最モ簡易ナル方策ハ强制ニ加入セシメ、勞働保險ヲ施行シテ、充分嚴密

ナル監督ヲ施スヲ必要ナリト信ズルモノナリ、啻ダ此ノ主義ヲ採用スル場合ニ當リ、勞働者ヲシテ一般ニ保險ノ利益ヲ悟ラシムル迄、彼レ等勞働者階級ハ、其ノ强制加入ニ反抗シ、政府ノ命令ニ背反シ、法令ノ違反者ナキニシモアラザルモ、茲ハ一時的ノ事ニシテ施行後幾許モナクシテ、其ノ利益ヲ悟ルコト迅速ニシテ、勞働者階級一般ニ其ノ利益ヲ通曉セシムルコトハ、敢テ至難ノ事ニアラザルナリ、或者强制主義ノ弊ヲ論ジテ曰ク、彼レ工場主又ハ企業主ガ多少其ノ保險料ヲ負擔セルニ係ラズ、被雇人ガ雇主ニ對スル態度、極メテ冷々淡々ニシテ、企業主ヲ德トスルノ念ナシ、然ルニ任意保險ニアリテハ、其ノ思想ハ稍々强制保險ニ比シテ、多クハ勞働者相互救濟ノ爲メ、工場主及勞働者共同シテ、之レガ企畫ヲナスモノナレバ、企業者ト勞働者ト調和ヲ計リ、感情上ノ調和ヲ保持スルノ點ニ於テハ、任意保險主義ハ强制保險主義ニ勝ル所アリト。

現今歐米各國ノ制度ヲ通覽スルニ、强制保險ノ主義ヲ採用セルハ、獨逸、墺太利、伊太利、那威、ニシテ伊太利ハ保險ノ組織ニ、公私ノ二形式アリテ、政府ハ單ニ保險ヲ强制スルニ過ギザルモ、他ノ三國ハ保險ノ强制ト兼テ保險機關ノ設備ヲ强制ス、其他瑞典、佛蘭西、匈牙利、ハ强制保險制ヲ採用セントシ、目下審議中ニ屬シ、魯西亞ハ昨年社會黨ノ勃興ト共ニ、之レヲ鎭壓スルノ最良策ハ、保險ニアリトシテ、勞働保險法案ヲ發表セリ、任意主義ヲ採用セルハ、英吉利、及亞米利加等ナリ

勞働者保險ノ種類ハ分チテ四トス、

(一) 疾病保險、"Insurance against Sickness."

(二) 災厄保險、"Insurance against Accident."

(三) 老衰及癈疾保險(老癈保險) Insurance agansst Old age and Invalidity.

(四) 失業保險、Insurance against Un-Employment.

此ノ四者中、最モ勞働者ニ缺ク可ラザルモノハ、初メノ三者ナリ、而シテ失業保險ニ對スル保險ノ制度、制定ヲ熱心ニ主張セラルヽニ至リタルハ、輓近ノコトニ屬シ、且ツ此種ノ保險ハ、其ノ性質上全然特種ノモノニシテ、前三者ト同一ニ論究セントスルハ、當ヲ得タルモノニアラズ、吾人ガ論述セントスル、勞働者保險ハ疾病、災厄及老

癈ニ關スル三保險ニシテ、就中最モ古クヨリ行ハレタルハ疾病保險ナリ、然シテ勞働者保護ヲ目的トセル、死亡保險ニ至リテハ未ダ實施スルニ至ラズ。

勞働保險ニ關スル經營、費用及保險料負擔ニ就テハ、保險ノ種類及ビ保險ノ組織ニヨリテ其ノ趣ヲ異ニスレドモ、近時歐洲各國獨逸、墺太利、ウンガルン、伊太利、佛蘭西、ベルジユム、英吉利、那威、瑞西等ノ趨勢ヲ洞察スレバ、勞働者企業主及ビ國家ノ共同負擔トセリ、元來勞働保險ハ、勞働者直接ニ莫大ナル利得ヲ享受スルモノナレバ、其ノ勞銀ノ一部ヲ割キテ、保險料トシテ之レヲ支出セシメテ、以テ勞働者ニ保險料負擔ノ大部分ヲ課スルハ、之レ實ニ當然ノ義務ナリ、然リト雖、彼等ガ負擔スル保險料ノミニテハ、到底充分ナル救濟ヲ盡スコト能ハザルヲ以テ、工場主又ハ企業主ヲシテ、尚ホ幾分ヲ負擔セシメ、進ンデ國家ヲシテ、之レヲ補助セシムル必要起リ來ルハ、之レ勢ヒ已ムヲ得ザル所ナリ、彼ノ災厄保險ノ如キハ、近世ニ至リ國家ガ勞働者保險ニ對シ、之レヲ補助スル傾向一般ニ生ジ來リシハ、之レ實ニ社會政策ノ必要ニ出ヅ、憶フニ災厄保險ノ如キ、特別ノ理由ニ基クモノハ、單ニ其ノ保險料ノ負擔ハ、企業主及ハ、工場主ニ歸スルハ、其ノ機宜ヲ得タルモノタルヲ信ズ、元來災厄保險ノ目的トスル所ハ、業務ヨリ生ズル災厄ヲ救濟スルモノニシテ、業務災厄ノ原因ハ多クハ、工業自體ノ工程ヨリ發生シ來ルモノニシテ、器械ノ變調若クハ、工場ノ設備不完全等外部ノ事情ニ基ク偶然ノ災厄ニシテ、之レヲ統計ニ徵スルニ、傭主直接ノ過失ヨリ生ズル災厄ハ、百分ノ十二ヲ超エザルモ、職業固有ノ危險ハ百分ノ五十以上ニ達セルヲ見レバ、以テ其ノ一般ヲ知ルニ難カランカ、而シテ彼ノ疾病老癈ノ如キ、自然的狀態トシテ發作スルモノトハ、其ノ趣ヲ異ニス、サレバ、之レ等ニ對スル責任ハ、企業主又ハ工場主ヲシテ、其ノ責ニ任ゼシムルハ、之レ至當ノ事ニ屬ス、之レヲシテ被雇者ニモ、其ノ責任ノ幾分ヲ負擔セシムル如キハ、何ゾ酷ナル、今歐洲諸國ノ立法例ヲ見ルニ、多クハ此ノ制度ヲ採用セリ、唯墺太利ノミハ、勞働者ニモ小部分ノ負擔ヲナサシム、此レ除外例トシテ見ル可キカ。

社會ノ進步發達ハ、一方ニ富メルモノヲ生ジ、他方ニハ大ニ困苦窮乏セルモノヲ生ズ、一ハ斷エズ其ノ富ヲ加ヘ、他ハ不斷ニ窮厄ニ陷入ルモノヲ生ズ、彼ノ巍然トシテ

大工場ノ大空ニ聳ユルハ、工場主ノ日々刻々其ノ富ノ增加ヲ示シ、營々トシテ、孜々場内ニ勞働スルモノハ、家ヲ擧ゲテ夙夜工場ニ碎骨ス、然カモ饑餓ヲ救フニ難キヲ示ス、社會ノ進歩發達ハ、其ノ富ノ增進ト共ニ、又從テ各人モ富マザル可ラザルノ理ナリ、然ルニ却テ不合理ニ富ト共ニ、益々懸隔ヲ生ズ、彼ノ英米ノ如キ、其ノ產業ノ進歩發展ハ、他ニ其ノ比ヲ見ザル所、然リト雖、富ノ分配ノ現狀ニ至リテハ、實ニ酸鼻ヲ値スルモノアリ、スパール博士ハ、英國ノ富ノ分配ヲ計算シテ曰ク、英國人二百萬人ノ大多數ハ、僅ニ八億ノ財產ヲ有スルニ過ギザルモ、他ノ一面ニ於テ、十二萬五千人ノ少數者ハ、七十九億ノ巨額ノ資產ヲ占有セリ、而シテ全國住民四千有餘萬ノ中、四分ノ三以上ハ、全ク無資者ナリト、彼ノトーマス、シアマンハ、米國ノ富ノ分配ノ度ヲ算シテ曰ク、米國ノ富ノ七割ハ實ニ、人口ノ一厘四毛ノ少數者ノ占有スル所タリ、而シテ他ノ一割二分ノ富ハ、僅ニ九分二厘ノ人口ノ爲ニ占有セラレ、殘餘ノ人口卽チ八割九分四厘ノ多數人民ハ、僅ニ一割八分ノ富ヲ有スルニ過ギズト、之レ豈ニ驚ク可キノ偏重ニアラズヤ、啻ニ英米ノミナラズ、獨逸、墺太利、伊太利、佛蘭西、モ又然リ、現時財富ノ或ル階級ノ一部ニ集中スルハ、各國共ニ其ノ趨勢ヲ一ニセリ、而シテ我國ニ於テモ、產業ノ發展ト共ニ、富ノ分配ガ益々一部ニ偏集シテ貧富ノ懸隔益々大ナラントスルハ、爭フ可ラザル事實ナリ、彼ノ土地ハ益々兼併セラレ、資本ハ益々合同セラレ、國民全體ノ資產額ハ、頗ル增加ヲ來スニ係ラズ、多數ノ生民ハ、却テ產業發展以前ニ比シテ困厄ニ瀕スルニアラズヤ、單純ナル貧富ノ懸隔ハ、尙ホ忍ブ可キモ、遂ニ自ラ養フ能ハザルモノニ至リテハ、政府ノ力ヲ以テ之レヲ救ハザル可ラズ、茲ニ於テカ、國庫貧民救助費ハ、日ニ月ニ膨大シテ、遂ニ已ムナキニ至ラントス、之レ各國政治家、財政家ノ最モ苦心セル所、勞働保險ハ之レ等勞働者ヲシテ、窮民ノ伍ニ陷入ルコトヲ豫防スルニ、最モ効力アル良策ナリ、彼ノ獨逸ニ於テハ、强制保險法實施サレテヨリ以來、窮民減少ノ傾向現ハレ、從テ窮民國庫扶助費ハ、漸次減少ノ傾向ヲ生ゼリ、サレバ勞働者保險ノ爲ニ、國庫ハ幾多ノ補助ヲナセルモ、之レガ爲ニ、國庫扶助費ノ膨大ヲ防グヲ見レバ、一國財政上ニ於テ、損益スル所ナシト云ハザル可ラズ。

此ノ制度ニシテ、完全ナル發達ヲ遂ンカ、何人モ疾病災厄ヨリ來ル、苦痛ヲ豫想シテ、

恐怖スルノ必要ナク、老癈ニ伴フ困弊モ、忽チ一掃シ去ルヲ得ベシ、此制度ハ現時勞働者階級ガ享受シツヽアル困弊ニ對シテ、充分ナル救濟ヲ與フル所ノ最良方策ナリ、於是乎、此ノ問題ニ對シテハ、實ニ近來重要ノ變化ヲ齎ラシ來リ、從來純然タル私的問題ナリシモノガ、今ヤ政治上ノ大問題トナリ、政府監督ノ下ニ經營セラレタル私人的ノモノニアラズシテ、公的經營ニ變化セントスルノ傾向ヲ現シ來レリ。

憶フニ勞働保險ノ基礎ハ、純然タル經濟上幷ニ財政上ノ目的ヨリ研究ス可キモノニアラズシテ、寧ロ社會政策上ノ必要ヨリ研究ス可キ問題ナリ、一方ニ於テハ、其ノ結果トシテ、財政上貧民救助費等ヲ節約スルコトヲ得、卽チ消極的ニ財政ノ目的ヲ達スルコトヲ得ト云フ可シ、又同ジ理由ヨリシテ、經濟上ノ目的ヲ達スルコトヲ得ンカ、要之ニ勞働保險ノ基礎ハ、主トシテ社會政策上ニ重キヲ置カザル可ラズ。

今勞働者保險ガ社會ニ及ボス利益ノ重ナルモノヲ指摘センカ、

(一)勞働者ノ進取的氣象ヲ發揮スルコト、

勞働者ノ經濟的活動ガ、常ニ多クノ災厄ノ爲ニ進行ヲ妨ゲラレ、殊ニ工業的勞働者ハ他ノ一般人民ニ比シテ危險常ニ多シ、彼レ危險ヲ恐怖シ、逡巡退避センカ、到底開明ノ發達ヲ期スルコトヲ得ズ、勞働保險制度ハ以テ彼レ等ニ後顧ノ患ヲ除去シテ、進取ノ氣象ヲ發揮セシメ、從テ勞働力ヲ增加シ、冒險ノ企業ヲ行ハシムルニ實効アリ。

(二)勞働者ノ勤勉及貯蓄心ヲ養成シ、從テ勞働者階級ニ經濟的獨立ヲ確保セシム。

勞働保險ニアリテハ、疾病、不慮ノ災厄及老衰癈病ニ對シテハ、保險金ヲ受取ルコトヲ得ルノ利アル代リニ、常ニ少額ノ保險料ヲ支拂ハザル可ラズ、サレバ勞働者ハ之レニ充ツル爲メニ、勤勉思想發達ト共ニ知ラズ識ラズ、經濟的生存ノ上級ニ向進セシメ、遂ニ國家トシテハ健全ナル富强ノ基礎ヲ造リ、社會トシテハ幸福ノ源泉ヲ造ルコトヲ得ベシ。

(三)勞働者ノ智識ト道德ヲ增進セシム、

勞働保險思想ノ普及ハ、勞働者ヲシテ、先見ノ必要ヲ覺知セシム、恒産アルモノハ恒心アリ、從テ彼レ等經濟的維持ハ、秩序節制ヲ守ラシメ、道德ノ觀念ハ日ニ進捗

スルニ至ラシカ、

(四)社會貧富ノ大ナル懸隔ヲ防止スルコト、

開明ノ進歩ト共ニ、貧富ノ階級著シク懸隔ヲ生シ、此ノ二階級ヲ代表スルモノハ、卽チ資本主及勞働者ニシテ、此ノ二者ノ著シキ懸隔ハ遂ニ軋轢ヲ生ジ、延テ社會問題ヲ發生セシメ或ハ血ヲ流シ、干戈ヲ動カスニ至ルノ例ハ何レノ國家ニ於テモ屢々見ル所ナリ、此ノ窮貧者ノ發生增加ヲ防グノ効用ハ保險制度ニヨリテ之レヲ防止スルコトヲ得ベシ、彼ノ獨逸帝國ハ勞働保險法實施セラレテヨリ以來、既ニ二十有餘年其ノ効果ノ見ル可キモノ頗ル多ク、同保險局ガ勞働保險ト貧民ノ關係ヲ調査セル所ヲ見テモ保險制施カレテ以來窮民ノ數減少セリト、由是觀之明ニ貧富ノ懸隔ヲ減少スルモノト云ハザル可ラズ』

第貳節　疾病保險

疾病保險ハ勞働保險部類中、最モ古クヨリ行ハレ、最モ緊要ノモノニシテ、凡テノ勞働者ニ對シテ、保險ヲ完全ニ、且ツ滿足ニ實施スルヲ得ベク、此種保險ニ對スル豫定條件ハ、既ニ學者間ニ於テ殆ンド解決セラレ、尙今日務ム可キハ、凡テノ勞働者ヲ悉ク含有包括セシムルノ一アルノミ、抑モ疾病ハ前述ノ如ク人生ニ於テ何人モ遭遇スルモノニシテ、勞働者獨リ特有ノモノニアラザルモ、彼レ等ニシテ勞働不能、永久ニ渡ル時ハ、忽チ公共ノ救助又ハ私人ノ慈善ニ依賴セザル可ラズ、茲ニ於テカ、此種ノ保險ニヨリテ、各個人ハ重大ナル憂苦ヲ脫スルヲ得ベク、以テ將來ニ於ケル不測ノ命運ヲ瞻望スルコトヲ得テ、直接間接ニ市町村ニ於ケル救貧費ノ膨大ヲ豫防スル方策トシテハ、疾病保險ハ一般社會ニ對シテ必要缺ク可ラザルモノタリ、此種ノ保險ハ十八世紀ノ初期已ニ英吉利ニ於テ共濟組合(Friendly Society)ノ名ヲ以テ行ハレ、最モ古キ歷史ヲ有シ、其ノ範圍ハ他種勞働保險ニ比シテ遙カニ上位ヲ占ム、此種保險ガ任意主義ヨリ、强制主義ニ移リタルハ最近ノ事ニ屬シ、强制保險トシテハ獨逸、墺太利、ウンガルン等ニ行ハレ、任意保險トシテハ英吉利、瑞典、丁抹、亞米利加等ニ行ハレ、他ノ災厄、老衰及癈疾ニ比シテ、其發生ヤ頻繁ナルヲ常トスルヲ以テ、直接眼

前ニ利益ヲ得ルヲ以テ、勞働者ハ一般ニ此種保險ノ加入ヲ忌避スルモノ割合ニ僅少ニシテ、疾病保險ガ勞働保險ノ先驅ヲナシ、且ツ凡テノ勞働者ニ對シテ、比較的保險ヲ完全ニ、且ツ滿足ニ實施スルコトヲ得ルハ、之レ單ニ豫想ニヨリテ、疾病ノ數ト其ノ程度ヲ概算シ、之レニ從ヒテ、保險料ヲ決定スルコトヲ得テ、其ノ組織經營ニ於テモ、他種ノ勞働保險ニ比シテ、遙カニ容易ナル所以ナリ。

疾病保險ヲ強制的ニ實施セントセバ、保險料ハ工場主又ハ企業主ヨリ徵收スル方法ニ據リテ、唯ダ一工場又ハ一企業ノ下ニ使役セラルヽ、勞働者ニ對シテノミ實施シ、保險料ノ幾分ヲ工場主又ハ企業主ニ負擔義務ヲ負ハシムルニアラザレバ、完全ナル強制ヲ實施スルコトヲ得ズ、然レドモ此種保險ニ於テ保險料ノ大部分ヲ工場主又ハ企業主ニ負ハシメテ、之レニヨリテ、其ノ擔荷ヲ消費者ニ轉嫁スルガ如キハ、是レ決シテ正當ノ途ニアラズ、何トナレバ、疾病ハ主トシテ、工業工程、自體ヨリ發作スルモノニアラザレバナリ、サレバ勞働者ハ其ノ保險料ノ負擔ニ就テハ、企業主又ハ工場主ノ醵出義務ヨリモ、更ニ大ナル義務ヲ有セルモノナルコトハ明カナリ。

疾病保險組織ノ最モ適セルハ、相互組織ノ主義ニヨリ出來得ル限リハ、一工場又ハ一企業ノ下ニ或ハ一區域ヲ限定シテ、以テ此ノ組織ヲ實施スルニ利アリトセリ、何トナレバ、斯カル組織ニアリテハ、比較的危險ノ程度平均シテ、其ノ管理ノ點ニ於テモ、被保險者相互ニ督勵シテ、假病、僞疾ノ惡弊ヲ未發ニ防止スルコトヲ得、立法者ノ充分ナル監督ト、相俟テ初メテ完全ナル實施ヲ望ムコトヲ得可シ、獨逸、墺太利ノ疾病保險制度ガ最モ困難ヲ感ジツヽアルハ、假病僞疾ノ防壓ニシテ、如何ンセバ、此ノ惡弊ヲ完全ニ一掃シ得ベキヤノ問題ニシテ、現今一般ニ施政家ノ苦心セル所ナリ。

今歐洲各國ニ行ハルヽ、保險制ヲ見ルニ、分チテ二種トス、卽チ任意保險制及强制保險制之レナリ。

(一)任意保險、

疾病ニ關スル勞働保險ハ、相互救濟ヲ目的トシテ、勞働者ノ關係ヲ以テ、職工組合又ハ共濟組合ナル名義ノ下ニ組織セラルヽヲ見ルモノ多シ、元來職工組合ナルモノハ、地方組合若クハ區分組合ヲ有スル、內國組合ニシテ、國內ニ於ケル、同一工業部類ノ

勞働者ヲ一致セシムル爲メニ設立セラルヽモノニシテ動モスレバ、職工組合ハ團體ノ勞力ヲ以テ、資本主ニ對抗シ、組合員ノ爲ニ、其ノ勞働條件ノ滿足ヲ得ントスルモノナレバ、此ノ組合ノ下ニ、保險業ヲ兼ネシムルハ、職工組合ヲシテ、安固發達ヲ計ラシム可キ、一方法タルモノナル事ヲ余輩ハ信ズルモノナリ、近時伊太利、佛蘭西、ベルギ等ニ於テハ、相互保險ノ組織ニヨリテ、其濟組合法ヲ制定シ、地域ノ範圍ヲ限定シ、其ノ組合ノ下ニ、盛ンニ疾病保險事業ヲ營マシムル方針ヲ採用セリ、之レ疾病保險ヲ以テ、總テノ勞働者ニ普及セシムルニ、便利ニシテ、疾病危險比較的ニ平均存在シ、又其管理ヲ能クナシ得ルヲ以テ、會員互ニ善ク相ヒ識リ、怠惰ナル會員ガ疾病ヲ虛構シ、以テ救助ヲ得ントスルモノヲ匡正シ、得テ以テ疾病保險ノ目的ヲ達スルニ便益ナル所以カ。

疾病ニ關スル任意保險ハ、歐洲ニ於テ伊太利、佛蘭西、ベルヂユム、英吉利、瑞典、丁抹、フインランド等ニ行ハル。

英吉利、

疾病ニ關スル勞働保險ハ、相互救濟ヲ目的トシテ、其濟組合(Friendly Society)ノ名稱ヲ以テ、任意組織ニヨリテ行ハレタリ、其濟組合ハ疾病ニ對シテノミナラズ、癈疾及死亡ノ場合ニモ救濟ヲ施セリ、其他職工組合及種々ノ金庫モ又疾病保險ノ業務ヲ經營セリ、千八百七十五年八月ニ發布セラレシ其濟組合法ハ、最モ完備ノ域ニ進ミ、政府ハ其濟組合登記局ヲ設置シ、之レニ登記ヲ許シ、此ノ登記ヲ經タル組合ニハ、法人ノ資格ヲ與ヘ、種々ノ特點ヲ許容セシヨリ長大足ノ進歩ヲ呈シ、現時歐洲各國之レニ比ス可キモノナク、其範圍頗ル廣大ニシテ、一州若クハ數州ニ渡リ、又ハ一市町村及ビ工場内ニ從事セル勞働者及ビ同業者相互ニ組合ヲ設置シテ、十五歳乃至六十歳ノ勞働者階級ハ此組合ニ加入スルヲ得ベシ、而シテ疾病ノ場合ニ於ケル救濟ノ程度ハ之レヲ組織スル組合ニヨリテ異リ又ハ保險料ノ額ノ如何ニヨリテ其ノ救濟ノ程度ヲ異ニセリ。

千九百年ノ調査ニヨレバ

組合總數二萬五千有餘、此組合人員四百五十萬人ニ達シ、全國民ノ九分一ハ、此種保

險組合ニ加入セリ。

佛蘭西、

佛蘭西ニ於ケル勞働者疾病保險ハ、到底英吉利ノ盛況ニ比スヘクモアラザレドモ、政府ハ之レガ保護奬勵ニ努メ、千八百五十七年七月制定セラレ、九十八年四月ノ改定增補ニヨリテ、其濟組合公許ノ條件ヲ規定シ、之レニ特別ノ保護ヲ與ヘ、勞働者及其他職業ニ從事スル使用人ハ、此組合ニ加入スル義務アリトセリ、其他職工組合等種々ノ組合アリテ、疾病保險ノ業務ヲナスト雖、概シテ其ノ狀態完全ニアラズ、組合數及被保險者ノ數大ナリト雖、其管理宜シキヲ得ズ、最近ノ調査ニヨレバ組合總數一萬七百七十八ニ達シ、此組合人員百七十五萬五千有餘人、全國有賃勞働者ノ約五分一ニ達セリ。

伊太利、

伊太利ニ於テハ、千八百八十六年四月制定發布セラレ、法人ノ資格ヲ認許シ、之レニ特別ノ保護ヲ與フル事トナレリ。

千九百年ノ調査ニヨレバ、組合總數六千七百二十五、此組合員總數約一百萬ニ達シ、全國有賃勞働者ノ九分一ニ達セリ

丁抹、

疾病ニ對スル勞働保險ハ千八百九十二年四月ノ制定ニ係リ、爾來急進ノ發達ヲ呈シテ、其ノ組合ノ設備頗ル見ルニ足ル可キモノアリ、

最近ノ統計ニヨリ其濟組合ノ狀況ヲ示サンニ

組合總數千六百二十八、此組合人員二十九萬四千八百八十二、全國有賃勞働者ノ大部ハ、此ノ組合ニ加入セリ。

瑞典、

疾病ニ關スル勞働保險ハ、千八百九十一年十月、之レガ法律制定發布セラレ、政府ハ之レガ保險奬勵ニ力ヲ務メ其成蹟ノ見ル可キモノ頗ル多シ。

最近ノ調査ニヨレバ

疾病組合總數千五百七十二、此組合人員二十一萬五千有餘人、全國有賃勞働者ノ三分一强ハ此組合ニ加入セリ。

(二)强制保險

疾病保險ニ關スル强制保險ハ、現時歐洲ニ於ケル立法例ハ、强制加入主義ニ加フルニ、强制設備主義ヲ以テシ、法律適用ノ範圍內ニアル、勞働者階級ニ對シテ、此種保險ニ加入スル義務ヲ負擔セシムルモノトセリ、或ハ更ニ法律ヲ以テ相互保險ノ設備ヲナスコトヲ强制セリ。

疾病ニ關スル强制保險ハ、歐洲ニ於テハ、獨逸、墺太利、ウンガルン、瑞典等ニ行ハルニ過ギズ、實ニ獨逸ヲ以テ嚆矢トス、卽チ獨逸ハ千八百八十三年六月、墺太利ハ千八百八十八年三月、ウンガルンハ千八百九十一年四月、瑞典ハ千八百九十九年十月、疾病保險法制定セラル、今ヤ各國ニ於テ此種ノ法律制定セントスル企畫アリト雖、未ダ實施ノ域ニ達セズ、

獨逸、

疾病ニ對スル强制保險ノ最モ完備セルハ獨逸ニシテ、之レニ比ス可キモノヲ見ズ、後章ニ於テ、其組織適用ノ範圍、救濟方法等ニ就テ述ブル所アラントス、

墺太利、

墺太利ニ於ケル疾病保險法ハ、千八百八十八年三月、規定セラル、該法律ハ、全ク獨逸ニ則リ制定セラレシモノナレバ、其ノ組織及適用ノ範圍ニ於テハ、同一ノ主義ヲ採用セリ、今獨逸疾病保險法ト異ナル點ヲ指摘スレバ左ノ如シ、

(一)營業疾病組合、

通常ハ唯百人以上ノ保險義務アル者ヲ使役スル企業者ニ對スルモノトス、

(二)建築疾病組合、

(三)組合疾病金庫、

工業條例第百二十一條ニヨル

(四)兄弟組合、

(五)結社疾病組合、

千八百五十二年十一月二十六日ノ結社法ニ據ル

(三)(五)ハ現時法律ニ於テ制定セラレタル最小業務ヲ確實ニ經營セザル可ラズ、獨逸ニ於ケル地方組合、及市町村組合ノ代リニ、墺太利ニハ

(六)官立區疾病組合、

即チ勞働者ノ最下級ノモノヲ被保險者トスル下級組合ニシテ、各裁判所區ニ於テ設立セリ、區疾病組合ハ同盟組織ヲナシ區長官ノ監督下ニ屬ス、

最近ノ調査ニ據レバ、

組合總數三千二百、此組合人員總數、二百三十萬、全國有賃勞働者ノ四分一强ニ當レリ、

今歐洲各國ニ行ハルヽ疾病保險ノ範圍、救濟方法及救濟ノ程度ノ梗概ヲ述ブル所アラントス、

疾病保險適用ノ範圍ニ就テハ、大小工場ヲ主トシ、鑛山業、建築業等ニ從事スル有賃勞働者ヲシテ、被保險者タラシメ、賃銀額ヲ規定シ、一定ノ賃銀額以下ノモノハ、此種保險ニ加入ノ義務ヲ負ハシメ、或ハ任意ニ被保險者タラシム、或ハ賃銀ノ多少ヲ問ハズシテ適用スルモノアリ、或ハ一定ノ賃銀額以上ヲ受クルモノハ、範圍外ニ置キ、此種保險ノ適用ヲ除外セルモノアリ、殊ニ獨逸ハ其範圍頗ル廣大ニシテ、賃銀額二千コルヲ以下ノ有賃勞働者ハ勿論商店ニ使用セラルヽ業務使用人、及農業勞働者モ、之レニ加入セシメ、其力ノ許ス限リ凡テノ階級ニ保險ノ利益ヲ普及セシメントセリ。

救濟ノ條件及方法トシテハ各國ノ立法ハ、疾病ノ爲ニ、一定ノ期間、業務休態ヲ必要トス、獨逸、墺太利、ハ三日以上疾病繼續シタルモノニ對シテ、無料治療、又ハ無料給養ヲナシ、或ハ勞働者賃銀ノ幾割ヲ疾病金トシテ支給シ、以テ疾病補助ヲナシ、死亡ノ場合ニハ、勞働者ノ賃銀額ニ應シテ、相當ナル埋葬料ヲ遺族ニ支給シ、姙婦ハ疾病者トシテ、扶助料ヲ支給セラル、獨逸、墺太利、ハ四週間病人トシテ疾病補助金ヲ支給ス、救濟ノ程度ニ至リテハ、各國ノ立法例ハ、多クハ疾病金ノ最高額ヲ規定シ、之レニ基リテ、勞働者ノ負擔スル保險料ヲ定ム、埋葬料ニ就テモ、又最高額ヲ規定ス、

疾病補助期間ニ就テハ、最長期ヲ定メ、其ノ期ヲ過グルモ、未ダ平癒セザルモノハ、癒疾者トシテ之レヲ取扱フ、

保險料ノ負擔ニ就キテハ、工場主又ハ企業主及勞働者、之レヲ協同負擔シテ、勞働者ニ大部分ヲ負擔セシムル事トセルハ、各國立法ノ趨勢ナリ、而シテ其ノ掛金ニ就テハ、組合員ノ平均賃銀ヲ定メ、勞働者ヲシテ、同一ノ掛金ヲナサシメ、其掛金ニ對シテハ、限度ヲ定メテ、勞働者ノ負擔ヲ成ル可ク輕減セントセリ。

終リニ此種保險ノ機關ニ就テ一言センニ、組合ノ機關ハ、其組合ノ種類ニヨリテ異ナレリト雖、重役、委員會、總會、ヨリナル、總會ハ組合員タル工場主及勞働者ヲ以テ、組織ス、重役ノ選擧ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之レヲ行ヒ、百般ノ事務處理ノ任ニ當ル、國ニヨリテハ、重役ノミヲ置キテ、委員會ヲ省ケルモノアリ、時トシテハ委員會ノミヲ置キテ、重役ヲ缺クモノアリ、又特ニ仲裁役ナルモノヲ置キテ組合ト被保險者トノ間ニ於ケル爭議ノ決定ヲ司ル、其他、孰レノ組合モ、醵金係ト送金係トヲ置キテ、金錢ノ出納ヲ司リ被保險者ノ疾病狀態ヲ監視ス。

第參節　災厄保險

災厄保險トハ、業務ニ關聯スル外部ノ事情ニヨリテ起リ、直接ニ勞働者ノ身體生命ニ、危害ヲ及シタル時ニ際シ、其ノ經濟的結果ヲ供スルコト、即チ勞働者ガ其業務上ニ於テ、受タル災厄ニ對シ、保護ノ途ヲ講ズルモノニシテ、災厄ノ大部分ハ、偶然ニ發生スルカ、又ハ實際人類ガナシ得ル注意ノ範圍ヲ超脫シテ、發生スルモノ、若クハ勞働者自身ノ過失、又ハ怠慢ヨリ起ルコトナキニシモアラザルモ、工場ノ設備ノ不完全、又ハ器械ノ整調宜シキヲ得ズシテ、工業自體ノ工程ヨリ、災厄ニ遭遇スルコトハ、之レヲ統計ニ徵スルモ、其ノ危險ハ百中五十有餘ノ多キニ達セリ、此ノ事實ガ社會一般ニ認メラルヽヤ、工業自體ノ工程ヨリ來ル、災厄ノ損害ハ、何ガ故ニ、獨リ勞働者之レヲ負擔セザル可ラザルカトノ問題ヲ生ゼリ、此ノ問題タルヤ、法律ノ干涉アルコアラザレバ、其ノ解釋ヲ全ウスルコトヲ得ズ、彼ノマンチエスター學派ハ、絕對的ニ國家干涉主義ヲ此ノ問題ニ於テモ排斥スレドモ、此ノ如キ意見ハ有力ナル學者

ハ之レニ贊同ノ意ヲ表スルモノナク、又其ノ必要ヲ認メザルナリ、唯ダ其ノ干渉ノ種類及ビ範圍ニ於テ其ノ意見ヲ異ニスルノミ。

災害賠償法トハ、勞働ニ關聯セル外部ノ事情ニヨリ、業務災厄ノ爲ニ負傷セシモノニ賠償ヲ與フル特別法ナリ、此ノ法ハ普通法ニ於ケル、損害賠償義務ニ關スル、企業主ノ責任ヲ擴張シ、若クハ災厄保險ヲ公法的ニ規定スルニヨリテ、始メテ成立スルコトヲ得、此ノ問題ニ對スル過激ナル個人主義論者ハ、其ノ工場主ノ過失ニアラザル災厄負傷ニ對シテハ、法律上ノ義務ヲ負擔セシムル理由ナク、勞働者ハ自ラ貯蓄シ、又ハ災厄保險ニ加入シテ自助ノ方法ヲ取ラザル可ラズト云ヘリ、此ノ如キ個人主義ノ政策ヲ採用スル時ハ、例令確實善良ナル災厄保險會社アリト雖、勞働者ノ多數ハ災厄保險ニ加入セズシテ、公ノ救恤又ハ私人ノ慈善心ニ依賴スル事實顯ハレ來ルハ必然ノ勢ナリト云フ可シ。

災厄保險ナルモノハ、勞働ニ關聯セル外部ノ事情ニヨリテ起ル、業務災厄ニ對スル保險ナルコトハ、前述ノ如ク夫ノ疾病老癈ノ如キ、勞働者內部ノ事情ニ基クモノトハ、其ノ趣キヲ異ニセリ、サレバ其ノ結果トシテ、災厄ニ對スル責任ハ、勞働者自身ノ過失、又ハ怠慢ヲ除ク外ハ、企業主之レヲ負擔スルハ當然ノコトニ屬ス。

業務災厄ニ對スル責任ヲ企業主ニ歸シ、而シテ勞働者ヲ救濟スルニ至リタルハ、最近千八百七十年代ヨリ始マル、其レヨリ以前ニハ業務災厄ノ性質未ダ立法者間ニハ明確ナラズ、サレバ狹キ範圍內ニ於テ、勞働者ハ企業主ニ對シ、損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ルノミナリキ、卽チ工場主又ハ企業主、其他代理監督者ノ故意、又ハ過失ニ於ケル災厄ノ場合ニハ、勞働者賠償ヲ要求スルノ權利アルノミニシテ、其他ノ場合ニハ何等ノ原因アルモ、工場主又ハ企業主ニ對シ、損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ザリキ、サレバ勞働者ノ救濟ハ之レヲ求ムルニ由ナカリキ、

災厄負傷ノ原因ハ、種々アレドモ、今其ノ重ナルモノヲ列擧センカ、

(一) 企業者直接ノ過失、
(二) 監督者、其他企業者ノ代理過失、
(三) 勞働者自身ノ過失、

(四)第三者タル勞働者仲間ノ過失、

(五)業務上偶然ノ事故ニヨル災厄、

此レ等災厄ノ危險ハ、生産業ノ種類、企業及勞働ノ方法ニ從フテ、大ニ其ノ危險ノ度ヲ異ニスレドモ、如何ナル程度マデ、其ノ災厄ニ對シテ、補償要求ノ權利ヲ勞働者ニ許與ス可キヤ、而シテ此ノ權利ハ如何ニシテ實施セラル可キヤノ問題ナリ、元ヨリ勞働者故意ニナセシモノヽ外、凡テノ災厄ニ對シ、其ノ從來ノ所得ヲ標準トシテ、生存費ニ必要ナル補償ヲ必要ナリトシ、傭主對勞働者ノ訴訟爭議ヲ忌避スルコトハ、必要ノ事ナリ、民法ノ規定ニヨレバ、勞働者ガ工場主又ハ資本主ニ賠償要求權アルハ(第一)(第二)ノ場合ニシテ、他ノ場合ニハ、勞働者責任ヲ負ハザル可ラズ、第三ノ場合ニハ勞働者自己ノ過失ノ爲ニ、災厄ニ罹リタルモノナルヲ以テ、私法上ノ原則ニ從フテ、企業者ハ損害補償義務ヲ生ゼズ、而レドモ、此ノ場合ニモ左ノ事實アル時ハ勞働者ハ補償要求ヲ法律上是認ス、卽チ災厄ヲ蒙リタル事ガ、主トシテ勞働者ガ自己ノ力量ヲ過信シ、又ハ激度ナル職務熱心ニ基因シ、特ニ勞働者危險ニ接近シテ、遂ニ其ノ危險ヲ輕視スルコトニ原因シタル、斯カル災害ニ對シテハ、工業的生産ノ性質ニ基クモノナレバ、此ノ賠償要求ハ、是認スルヲ以テ至當ト見認ム、第四ノ場合ニ於テハ、被害者ガ仲間ノ勞働者ニ對シテ、賠償ヲ求ムル權利アルモ、唯名義上ノ事ニシテ、人道ノ上ヨリ同工場ニアリテ同ジク執業セルモノニ對シテ、其ノ過失ヲ理由トシテ、損害賠償要求ノ訴ヲナスハ許サヾル所、假令之ヲナスモ、彼レノ資力到底之レニ應ズル能ハザルヲ如何セン、第五ノ場合ハ最モ多數ヲ占メ、屢々工場ニ於テ起ル事項ニシテ、此ノ場合ニ於テハ、器械ノ設備又ハ工場ノ建築等ヲ完全ニセバ、或ハ之レヲ避クルコトヲ得ルナランモ、之レヲ以テ、直チニ企業主又ハ代理者ノ過失ト、見認ムルヲ得ザルハ明カナリ、

由是觀之、勞働者ガ企業主又ハ工場主ニ對シテ、損害ノ補償ヲ要求シ得ベキ場合ハ、一小部分ニ過ギズ、而シテ勞働者ガ工場主又ハ企業主ニ對シテ、損害賠償ノ訴訟ヲ提起スルモ、其ノ立證方法、複雜又ハ困難ニシテ、而カモ、訴訟ニ隨伴シ來ル判決ヲ得ル迄ニ要スル日子ヲ費シ、其ノ費用及訴訟勝敗ノ不確實等ノ事項ハ、彼等勞働者ノ

能ク堪ユル所ナランヤ、茲ニ於テカ已ムヲ得ズ、其ノ權利ヲ放棄セシムルニ至ラン、若シ不幸ニシテ、勞働者死亡ノ際ハ、更ニ立證ノ困難ヲ來シテ、其ノ權利ヲ放棄スル、蓋シ故ナキニアラザルナリ、茲ニ於テカ世人ハ、頗ル此ノ點ニ留意スルニ至リ、被傭人ノ災厄ニ對シテハ、現實ニ、此責任ヲ傭主ニ課セシメ、勞働者ノ地位ヲシテ、安寧ナラシメントノ意ヨリシテ、災厄、負傷、ニ關シテ、近來一ノ法律見解ヲ生ゼリ、卽チ勞働者ガ災厄負傷ノ場合ニハ必ズ企業者ニ對シテ、補償要求權ヲ有スト云フニアリ、其ノ理由トスル所ニヨレバ、災危負傷ハ、勞働者如何ニ注意ヲ怠ルコトナキモ、屢々現出スルヲ常トス、故ニ勞働者若クハ遺族ハ、補償上ノ權利要求ヲ得ルコトハ、正理ニシテ、此ノ權利要求ガ、法律上勞働者ノ爲メニ承認セラルヽコトハ、之レ當然ナリ、此ノ補償ノ費額ハ勞働者ノ災厄ニ對スル補償ハ、生産費中ニ包含セシム可キ充分ナル理由アリテ、國家經濟上ニ於テハ、貨物生産ノ必要費目ナリト見做シ、傭主ハ傷痍ヲ受タルモノ、自己ノ過失ニアラザル總テノ災厄ニ對シ、其ノ責任ヲ負擔ス可シト主張シ、此危險費用ヲ勞働者ニ負擔セシムルハ正當ニアラズト、但シ勞働者ガ故意ニ誘致シタル災厄ニ對シテハ、工場主賠償ノ義務ナキコトハ論ヲ俟タズ、茲ニ於テカ傭主ノ責任負擔ノ原則ハ、極度ニ擴張セラレタリト雖、事實上ノ結果ヨリ見レバ、未ダ其ノ効果ハ完カラザルモノアルヲ示セリ、學理上ヨリ論ズレバ、勞働者法律上ノ地位ハ産業革命以前ニ比シテ高メラレタルモ、實際ニ於テハ依然トシテ災厄ノ損害ニ困窮セザルヲ得ズ、茲ニ於テカ、保險制度ハ、實ニ此ノ情勢ニ適應シ得テ、法律問題ヨリ勞働保險ナル、一個ノ社會問題ニ遷移セリ、歐洲大陸諸國ニ於テハ、何レノ邦國モ災厄ニ對スル勞働保險擴張セラレ、社會問題解決唯一ノ手段トナセリ。

以上勞働者ノ損害賠償要求權ハ、實際法律的規定ニヨリテ、尙又災厄保險ノ公法的規定ニヨリテ、之レガ施行ヲ期シ得ベシ。

今歐洲各國ニ於ケル實際ノ政策ヲ見ルニ、

災厄賠償法ハ、目下獨逸、墺太利、英吉利、瑞典、等ニ於テ施行セラル、而シテ英吉利、及瑞西ニ於テハ、責任義務法ニシテ、獨逸、及墺太利ニ於テハ公法上ノ保險ナリトス、唯獨逸、及墺太利ノ立法ハ勞働者ガ故意ニナセシモノヽ外ハ、總テ災厄負傷ニ際シテ、勞

働者ニ補償要求權ヲ許與ス。

上述ノ如ク國家ハ法律ニヨリテ、工場主又ハ企業主ノ責任義務ヲ規定シ、災害賠償ノ種類及金額ヲ規定セリ、而シテ此ノ規定ハ、企業主ノ利益ヲ害スルコトナシ、何トナレバ、損害賠償ニ關スル負擔ハ、其ノ貨物ノ消費者ニ轉嫁スルノ途ヲ取リ得ルヲ以テナリ。

今歐洲各國ニ行ハルヽ、災厄保險制ヲ見ルニ、二種ニ大別ス、曰ク任意保險制及强制保險制之レナリ。

(一)任意保險。

災厄任意保險制ヲ見ルニ、分チテ二種トス、

(一)業務災厄ニ際シテ、勞働者ト企業者トノ權利義務ヲ規定シ、公的經營ヲ以テ企業主ヲシテ之レニ從ハシム、千九百一年瑞西ニ發布セラレタル法律ハ、此主義ニ依レルモノナリ

(二)法律ヲ制定シテ、勞働者ガ工場主ニ對シテ、要求ス可キ災厄ノ損害補償額ノ範圍ヲ規定シ、而シテ其ノ保險ノ方法ハ、企業主ノ意思ノ自由ニ放任スルモノニシテ、千八百九十七年英吉利ニ發布セラレタル法律、及ビ千八百九十八年四月、佛蘭西ニ發布セラレタル法律ハ、此ノ主義ヲ採レリ。

以上英吉利、佛蘭西、瑞西ノ法律ノ精神ヲ、見ルニ、多クハ業務災厄ニ於ケル企業主又ハ工場主ノ責任ヲ規定スルニ止ラズ、企業主又ハ工場主ヲシテ直接間接ニ保險ナルモノニヨリテ、其ノ企業主タルモノヽ、責任ヲ全クセシメントノ主義ヲ採用シタルハ、明ニ立法者ノ意思ヲ推知スルコトヲ得ベシ。

(二)强制保險制。

業務災厄ニ關スル、强制保險制ハ、千八百八十四年獨逸ニ於テ、初メテ起リ、墺太利、伊太利、ペルヂユム、那威、フインランド、瑞西、等此ノ制ヲ採用セリ而シテ此ノ種ノ保險制ニハ、其ノ種類二アリ、

(一)强制加入主義ヲ採用シテ、强制設備主義ヲ採用セザルモノ、卽チ千八百九十八年、伊太利ニ發布セラレタル、災厄保險法、及千九百一年和蘭災厄保險法ノ如シ。

(二)强制加入主義及强制設備主義ヲ兼ヌタルモノニシテ、千八百八十四年、獨逸ニ發布セラレタル災厄保險法ヲ嚆矢トシ、千八百八十七年發布セラレタル墺太利災厄保險法、及千八百九十八年、那威ニ行ハレタル災厄保險法ハ、此主義ヲ採用セリ。今歐洲各國ニ行ハルヽ、災厄保險適用ノ範圍、救濟ノ條件、救濟ノ方法、及ビ救濟ノ程度ノ梗概ヲ述ブル所アラントス。

災厄保險適用ノ範圍ニ就テハ、各國立法ノ趨勢ヲ見ルニ、大小工場ヲ主トシ、鑛山業、建築業、運輸業、其他危險ナル業務ニ從事スル勞働者、或ハ適用ノ範圍內ニアル業務使用人モ、其賃銀ノ多少ヲ問ハズシテ、之ヲ適用スルモノアリ、或ハ賃銀ノ額ヲ定メテ、賃銀額以上ヲ受クルモノハ、範圍外ニ置キ、此ノ保險ノ適用ヲ受ケザルモノトセリ、前者ハ瑞典、和蘭等ニシテ、後者ハ獨逸、伊太利、丁抹等ニシテ、其ノ適用ノ範圍最モ廣キモノハ、獨リ獨逸アルノミニシテ、之ヲ農業及林業ニ從事スル勞働者ヲモ包含セリ、獨逸、災厄保險ニアリテハ、後章ニ於テ述ブル所アラントス。

災厄救濟ノ條件トシテ、各國ノ立法ハ、業務災厄ノ爲ニ、休業期間一定ノ期間以上、業務休態ヲ必要條件トシ、獨逸ハ十三週間、墺太利四週間、伊太利五日間、英吉利二週間、佛蘭西四日間、瑞西二ケ月間以上トセリ、而シテ災厄ニ罹リタルモノガ、救濟ヲ受ケントセバ、故意ニ業務災厄ニ罹ラザルコトヲ、必要條件トスルハ、前述ノ如シ、就中獨逸、丁抹、英吉利、瑞典、ノ如キハ勞働者ノ故意ニ出デザルノミナラズ、重大ナル過失ヲ敢テセザルコトヲ要スル、規定ヲ附加セリ。

救濟ノ方法、及ビ程度ハ、業務災厄ノ、輕重ニヨリテ異ル、卽チ勞働不能ト死亡之レナリ、勞働不能ハ更ニ分チテ、一時全部不能ノ場合ト、一時一部不能ノ場合ト、永久全部不能ノ場合ト、永久一部不能ノ場合トニ分チ、此等ノ場合ニ對スル救濟方法ハ、國ニヨリテ異ナレリト雖、一時金及年金制ヲ採用シ、卽チ永久不能ノ場合ニハ、勞働者ガ從來ノ賃銀額ヲ標準トシテ、一時ニ多額ノ金ヲ支給スルカ、或ハ定期金、終身年金ヲ支給シ、一時不能ニ際シテハ、不能ノ期間、其賃銀額ヲ標準トシテ、定期金又ハ年金ヲ支給セリ。

業務災厄ノ爲メ勞働者死亡セル場合ニハ、遺族扶助方法トシテ、埋葬費ト遺族扶

助料ヲ支給シ、遺族扶助料ニ就キテハ寡婦、孤兒、宗系尊親族ニ分ツテ普通トセリ、遺族扶助方法ニ就テハ、其ノ賃銀額ヲ標準トシテ、一時金、定期金又ハ年金制ヲ採用セリ。

今歐洲各國ニ於ケル救濟ノ方法、及程度ノ梗概ヲ左ニ述ブル所アラントス。

墺太利、

(一)業務災厄ニ罹リタル時ハ、無料ニテ醫師ノ診察治療ヲ受ケ、幷ニ藥物ヲ支給ス

(二)勞働不能ノ場合ニハ左ノ如ク年金ヲ支給ス、

勞働不能一時全部不能ノ場合ニハ、賃銀年額ノ六割ノ定期金及醫藥料ヲ支給シ、

勞働不能一時一部不能ノ場合ニハ、賃銀減額ノ六割ノ定期金及醫藥料ヲ支給シ、

勞働不能永久ニ全部不能ノ場合ニハ、賃銀年額ノ六割ノ年金ヲ支給シ、

勞働不能永久ニ、一部不能ノ場合ニハ、賃銀減額ノ六割ノ年金ヲ支給ス、

(三)業務災厄ノ爲ニ被保人死亡シタル時ハ

埋葬料トシテ二十五フローリン以下ヲ支給シ、

死亡者ノ遺族ニ對シテハ、扶助料トシテ寡婦ニハ賃銀年額ノ二割ノ年金孤兒(十五歲以下)ニハ賃銀年額ノ一割五分、尊親族ニハ賃銀年額ノ二割ヲ支給ス。

伊太利、

(一)業務災厄ニ罹リタル時ハ、無料ニテ醫師ノ診察治療ヲ受ケ、幷ニ藥物ヲ支給ス。

(二)勞働不能一時全部不能ノ場合ニハ、賃銀日額ノ半額ノ定期金、勞働不能一時一部ノ場合ニハ、賃銀減額ノ半額ノ定期金。

勞働不能永久ニ全部不能ノ場合ニハ、賃銀年額ノ五倍ノ一時金、勞働不能一部永久不能ノ場合ニハ、賃銀全額ノ五倍ノ一時金。

(三)業務災厄ノ爲メニ、死亡シタル時ハ、

遺族扶助料トシテ、賃銀年額ノ五倍ノ一時金ヲ支給ス。

英吉利、

(一)業務災厄ニ罹リタル時ハ、無料ニテ醫師ノ診察治療ヲ受ケ、幷ニ藥物ヲ支給ス、

(二)勞働不能一時全部、又ハ一部勞働不能ノ場合、及ビ永久ニ全部、又ハ一部不能ノ場

合ニ於テハ賃銀同額ノ半額以下一ポンド以内ノ定期金ヲ支給シ、

(三)業務災厄ノ爲ニ死亡シタル時、

遺族ナキ時ハ、十ポンド以下ヲ埋葬費トシテ支給シ、遺族扶助ニ對シテハ、寡婦及孤兒(十五歲以下)ニ對シテハ、勞働者ノ最後三ヶ年間ノ賃銀總計、或ハ最後賃銀同額ノ百五十六倍ヲ支給ス。

佛蘭西、

(一)業務災厄ニ罹リタル時ハ、無料ニテ診察治療ヲ受ケ、幷ニ藥物ヲ支給ス。

(二)勞働不能一時全部、又ハ一部ノ場合ニハ、賃銀日額ノ半額ノ定期金及醫藥料ヲ支給シ、永久ニ全部勞働不能ナル時ハ、賃銀年額ノ三分ノ二、永久ニ一部勞働不能ノ場合ニハ、賃銀減額ノ半額ノ年金ヲ支給ス。

(三)業務災厄ノ爲ニ死亡シタル時ハ、

埋葬費トシテハ、一〇〇フラン以下ヲ支給シ、

遺族扶助料トシテ、寡婦ニハ賃銀年額ノ二割ノ年金、孤兒(十六歲以下)ニハ、其孤兒ノ數ニヨリテ、一割乃至四割ヲ支給シ、尊族親ニ對シテハ、又一人ニ付一割四人以上ハ三割ヲ支給ス。

那威

(一)業務災厄ニ罹リタル時ハ、無料ニテ醫師ノ診察治療ヲ受ケ、幷ニ藥物ヲ支給ス。

(二)勞働不能一時全部、又ハ一部不能ノ場合ニハ、賃銀日額ノ六割ノ定期金及醫藥料、永久ニ全部勞働不能ノ場合ニハ、賃銀年額ノ六割ノ年金、一部永久ニ勞働不能ノ場合ニハ、賃銀減額ノ六割ノ年金ヲ支給ス。

(三)業務災厄ノ爲ニ死亡シタル時ハ、

埋葬費トシテ、五クローネ、遺族扶助料トシテ、賃銀額ノ二割ノ年金、孤兒(十五歲以下)ニハ賃銀年額ノ一割ノ年金ヲ支給シ、尊族親ニハ賃銀年額ノ一割ノ年金ヲ支給ス。

瑞西

(一)業務災厄ニ罹リタル時ハ、無料ニテ醫師ノ診察治療ヲ受ケ、幷ニ藥物ヲ支給ス。

(一)勞働不能一時全部又ハ一部ノ場合ニハ、一クローンノ日給金、永久ニ全部勞働不能ノ場合ニハ、三百クローンノ年金、永久ニ一部勞働不能ノ場合ニハ、賃銀額ニ應シテ、隨時之レヲ定メ支給セリ。

(三)業務災厄ノ爲ニ死亡シタル時ハ、埋葬費トシテ、六十クローンヲ支給シ、遺族扶助料トシテ寡婦ニハ百二十クローン、子年金孤兒(十五歳以下)ニハ、一人ニ付六十クローンノ年金ヲ支給シ、尊親族ニハ、賃銀日額ノ三割ノ定期金ヲ支給ス。

和蘭

(一)業務災厄ニ罹リタル時ハ、無料ニテ醫師ノ診察治療ヲ受ケ、并ニ藥物ヲ支給ス。

(二)勞働不能一時全部、又ハ一部不能ノ場合ニハ、賃銀日額ノ七割ノ定期金及醫藥料、永久ニ全部勞働不能ノ場合ニハ、賃銀日額ノ七割ノ定期金、永久ニ一部勞働不能ノ場合ニハ、賃銀減額ノ七割ノ定期金ヲ支給ス、

(三)業務災厄ノ爲ニ死亡シタル時ハ、埋葬費トシテ賃銀日額ノ三十倍、遺族扶助料トシテ、賃銀日額ノ三割ノ定期金孤兒(十六歳以下)賃銀日額ノ一割五分、定期金ヲ支給ス。

第四節　老癈保險

老癈保險ハ勞働保險中、最モ至難ノモノニシテ、各種保險中、最モ重要ナル地位ヲ占ムルモノタリ、然ルニ其ノ發達ヤ、未ダ幼稚ニシテ、現今未ダ充分ノ解釋ヲ得ズ、思フニ之レ確實ナル統計的基礎ニ乏シク、爲メニ未ダ解決ノ域ニ進マザル所以カ。

抑モ保險料ハ、保險契約者ガ保險セラルヽ危險程度ニ比例シテ拂込マシムルヲ原則トス、彼ノ疾病災厄保險ニ於テハ、保險契約者ハ自己ガ拂込ミタル保險料ニヨリテ其ノ支拂ヲ受クルモ、老癈保險ニ於テハ、被保險者ハ遠キ將來ニ於テ、老癈事ニ耐ヘザル時ニ當リテ、年金又ハ一時金ヲ得ンガ爲メニ、豫カシメ預金ヲナスニ等シク、其停止條件遲ギニ從ヒテ其ノ要求額モ又增加ス可キ理ナリ、而ルニ疾病災厄ノ保險ニアリテハ、單ニ豫想ニヨリテ、疾病ト災厄ノ數ト其程度ヲ概算シテ、豫シメ保險

料ヲ決定スルコトヲ得レドモ、老癈保險ニアリテハ、疾病災厄保險ノ如キ單純ナル豫想ヲ以テ、之レヲ定ムルコトヲ得ザレバ、實ニ保險經營上、頗ル複雜ナル問題ニシテ、從テ保險金支拂豫算ノ決定モ、又困難ニシテ、毎年度ノ豫算ヲ確立セントスルガ如キハ、到底望ミ得ベキニアラズ、頗ル長期ヲ俟テ初メテ豫算ヲ定ムルコトヲ得ベク、之レヲ確立セント欲セバ、長期間各種ノ事情ヲ總合シテ、之レヲ基礎トシ、精確ナル統計ヲ材料トセザル可ラズ、殊ニ第一基礎トナル可キモノハ、死亡表ニシテ、其死亡表タルヤ、一般人民ヨリ區別セル、勞働者死亡表ヲ必要トスルモノニシテ、此種保險ノ目的ヲ達センニハ、凡テノ勞働者ニ對スル、生存上ノ凡テノ事故ヲ包含スル必要アリ、斯カル事情ノ許ニ於テ、諸種ノ統計表ヲ作製セントスルハ、頗ル困難ニシテ、到底短期ノ能クス可キコトニアラズシテ、精確ナル確立ヲ得ンニハ、充分精確ナル調査ヲ要シ、長期ノ平均ヲ俟タザル可ラズ、今日各國未ダ此種ノ統計的基礎ニ乏シク、老癈保險ガ、未ダ解決ノ域ニ達セザル、蓋シ故ナキニアラザルナリ、

抑モ老癈保險ナルモノハ、永久勞働能力ヲ喪失セル勞働者ニ對スル救濟ヲ目的トスルモノニシテ、其救濟方法タルヤ、一時多額ノ金額ヲ支給スルカ、又ハ終身年金ヲ支給スルカ、其孰レカ其一ヲ選定セザル可ラズ、サレバ其費額ハ比較的莫大ナル、基金ヲ必要トスルヲ以テ、從テ被保險者ニ對シテモ比較的多額ノ保險料ヲ徴收セザル可ラズ、之レ被保險者ノ堪ユル所ニアラズ、故ヲ以テ、其費用ノ一部ハ、工場主又ハ企業主ガ之レヲ補助シ、之レガ保護奬勵ヲ勉ムルハ、各國ニ於ケル立法ノ趨勢ニシテ、被保險者ハ直接ニ此種保險ノ爲ニ莫大ナル利益ヲ直接ニ享受スルヲ以テ、其ノ大部分ノ負擔ヲ課スハ元ヨリ理ノ然ル所ナリ、而シテ此種保險ハ窮民救助制ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ、國庫ガ之レガ爲ニ多少補助金ヲ支給スルニ至リタルハ、近來歐洲各國ニ於ケル立法ノ趨勢ナリ、國家ガ財力ノ許ス限リ此レ等ノモノヲ救助スルハ元ヨリ至當ノ事タルヲ信ズルモノナリ。

此種保險ノ費額ハ、他種保險ニ比シテ、頗ル巨額ニ達スル、結果トシテ、基礎ノ確固タル經營ヲナサント欲セバ、被保險者ノ數、多クシテ以テ計算ノ平準ヲ立テザル可ラズ、サレバ到底狹隘ナル地域内ニ於テハ、之レガ經營ヲ期ス可ラズ故ニ一工場又ハ

一區域內ニ於テ完全ナル經營發達ヲ遂シトスルハ、到底得ベキコトニアラザルナリ。

老癈ニ對スル救濟方法トシテハ、一時金制及年金制ノ二種アリ、一時金制トハ、老癈ニ際シテ被保險者ニ、一時ニ扶助料ヲ支給スル制ニシテ、年金制ハ、每年一定ノ時期ヲ定メ、終身被保險者ニ支給スルノ制ニシテ、二者ノ優劣ハ、既ニ識者ノ見認ムル所ニシテ、一時金制ノ弊害ヲ釀スコトハ、到底年金制ノ比ニアラザルナリ、何トナレバ一時勞働者ニ、巨額ノ金ヲ支給セバ、多クハ忽チ之レヲ浪費散逸シ、或ハ徒手坐食、又ハ一時ノ驕奢ニ長ジ、其用ヲナスモノハ少シ、故ニ老癈保險ニ對スル救濟方法トシテハ、年金制ヲ採用スルヲ以テ至當トス、而シテ此種保險ハ、被保險者死亡ニ至ルマデ、年々支給セザル可ラザルモノナレバ、斯ノ如キ負擔ヲナス、老癈保險組合ハ其基礎確固タルニアラザレバ、到底充分ニ、之レヲ經營スルコトヲ得ズ、サレバ啻ニ勞働者ノミニテ、之ヲ組織センコトハ不可能ノ事ニ屬ス、英國ハ其濟組合ノ事業トシテ此種保險ヲ實施セリト雖未ダ以テ、完全ノ域ニ達セリト云フヲ得ズ、老癈保險ガ官業トシテ、經營セザルヲ得ザル、蓋シ故ナキニアラザルナリ、彼ノ獨逸ニ於ケル、强制保險ノ如キモ、老癈保險ニ限リテ、一種特別ノ組織ヲ採用スルヲ見テモ、其經營ノ難事ヲ示スニアラズヤ、而シテ其ノ保險料ニ對シテ、凡テノ勞働者ニ對シテ、均一ニス可キヤ、又ハ勞働者ノ所得ノ程度ニ應ジテナス可キヤ、危險ノ程度ヲ參考ス可キカ、種々ノ點ニ關シテ、强制保險ハ正當ナリヤ、否ヤノ原則的疑問アリテ、未ダ解決スルニ至ラズ、然ルニ獨逸ハ此ノ解決ニ先チテ、大膽ナル施設ヲ施シ、社會政策ノ學理的及實際的解釋ヲ促ス因ヲナセシ點ニ於テハ、余輩ハ感謝ヲ表セザル可ラズ。

現今學者間ニ於テ、此種保險ニ對シテ、任意保險制ト、强制保險制ト、孰レカ正當ナル原則ナリヤニ就テハ、其意見未ダ區々ニシテ、强制保險ヲ辯護スルモノハ、任意保險制ヲ採用スル時ハ、縱令之レニ加入スル勞働者ハ、唯ダ僅少ノ費用ヲモ負擔セシメザルモ、尙ホ勞働者自ラ保險ニ加入シ、若クハ保險セラルヽモノハ、實際小部分ニ過ギズト、任意保險ヲ辯護スルモノヽ論據トスル處ハ、保險負擔醵出義務及組合ニ必要ナル基金ヲ正確ニ計算スル爲ニ、統計的基礎缺乏スルコト、更ニ任意保險論者ハ、

彼ノ企業者及勞働者ノ任意ニ組織セシ、或ル一部ガ得タル好結果ヲ引證シ、又勞働者自ラ組織セラレ經營セラルヽ組合ガ勞働者ヲシテ、道德上ノ昇進著シキコトヲ說キ、此種保險ニ對スル、强制任意ノ優劣ハ、未ダ學理上現今ノ狀態ニ於テハ、未ダ疑問ナリト云ハザル可ラズ、

今歐洲各國ニ行ハルヽ、老癈保險制ヲ見ルニ、二種ニ大別ス、曰ク任意保險制、及强制保險制之レナリ。

(一)任意保險

任意保險組織トシテハ、相互組織ヨリモ、寧ロ官業發達シテ老癈保險局ハ官業トシテ經營セラレ、强制加入ヲ行フコトナリ、法律ニ見認タル、資格ヲ有スルモノハ、任意ニ被保險者タルコトヲ得ト云フニアリ。

佛蘭西ニアリテハ、千八百五十年六月、老癈保險ノ目的ヲ以テ、初メテ國民貯蓄金庫ヲ設置シタリ、而シテ當時ノ疑問ハ掛金ヲ任意ニス可キヤ、强制ニス可キヤ、當局者間ニ論議アリシガ、任意トスルコトニ決シ、五分ノ利子ヲ附スルコトヽセシニ、每年金庫ハ損失ニ歸シ其營業ヲ維持スルニ困難ナレバ、千八百五十三年ニハ四分五厘ニ引キ下ゲ、千八百五十六年ニハ、年金ノ最高額ヲモ制限スルニ至レリ、千八百九十一年、更ニ老癈保險ノ新規定法案ハ、議會ニ提出セラレタリ、此法案ハ、參千フランク以下ノ勞働所得ヲ有スル、勞働者ノ爲メニセシモノニシテ、勿論任意主義ヲ採用セリ、而シテ工場主及ビ雇主ハ、醵出義務ヲ有シ、政府ハ工場主又ハ雇主及ビ勞働者ノ醵出額ノ三分ノ二ヲ醵出ス可キモノトセリ。

伊太利ニ於テハ、千八百九十八年法律ヲ以テ、發布セラレ、老癈保險局ハ中央政府ニ本局ヲ設置シ、各州市町村ニハ、支局ヲ設置シ、其被保險者ノ保險料ニ對シテ、國庫ヨリ、一定ノ扶助金ヲ支給シテ、保險ハ全ク各人ノ、自由意思ニ任セ、保險事業ノ管理ハ政府ノ手ヲ離レテ、之レヲ熟練ナル財政家ノ手ニ委任セリ。

英吉利ニ於テハ、千八百九十六年法律ヲ以テ、發布セラレ、勞働者ノ大多數ハ共濟組合ノ組織ニヨリ、保險任意ノ主義ニヨリ、勞働者ノ大多數ガ、保險セラレ、其盛況ハ獨逸帝國ヲ除キテハ、他ニ比類ヲ見ザル所ナリ、元來英吉利ニ於テハ、千八百三十三年

以來國立賦金、金庫、存立ス(但シ賦金ハ元來四ポンド乃至二十八ポンド)千八百五十三年ニ於テ、百ポンド迄ノ資金保險ヲ兼ネ營ミ、千八百六十四年ニ於テ、郵便貯金局ニ於テモ(賦金五十ポンド以下)及資金保險(二十ポンド乃至百ポンド)ヲ營ムニ至レリ、千八百八十二年ノ法律ハ、資金保險ノ最下限ヲ除キ、兩種ノ最高額ヲ百ポンドト定メタリ、而リト雖、此金庫ハ勞働者ノ爲ニハ効力少カリキ。

白耳義ニアリテハ、千八百六十五年三月ノ法律ヲ以テ、設立セラレ、全ク佛蘭西ノ組織ニ則リ、一般貯蓄積立金庫ノ如キモノアレドモ、此組織ハ勞働者ニハ殆ンド適セザル如キ感アリ。

今此等諸國立法ノ精神ヲ見ルニ、救濟年金ノ最高額、及保險料ノ最高額ヲ規定シテ、勞働者ノ老衰癈疾ニ對シテ、救濟ヲ目的トス、伊太利ハ勞働者以外ノ加入ヲ排除スレドモ、其他諸國ノ法律ニ於テハ、斯カル制限ヲ明示セズ、今左ニ保險料ノ負擔、救濟ノ條件、救濟ノ方法、及程度、機關ノ梗概ヲ述ブル所アラントス。

保險料ノ負擔ニ就テハ、被保險者タル勞働者ヲシテ、之レガ大部分ヲ負擔セシム、而シテ政府ハ特ニ之レニ相當ナル補助金ヲ被保險者ニ與フルヲ通例トス、又國ニヨリテハ、工場主幷ニ企業主ニ多少ノ負擔ヲ課セシム。

佛蘭西ニ於テハ、老癈保險ニ對シテハ、被保險者一定ノ期間以上、保險料ヲ拂込ミタルモ、被保險者ガ受領ス可キ、保險年金額三百六十フランニ滿タザル時ハ、國庫ヨリ不足額ヲ補助スル事トセリ。

白耳義ニ於テハ、國庫ハ老癈保險ニ對スル、國庫補助金トシテ、毎年千貳百萬フランヲ老癈保險局ニ支給シ、必要ノ場合ニ應ジテハ、國庫ハ尙ホ多額ノ補助金ヲ支給シテ、佛蘭西ノ如ク、被保險者ガ受領ス可キ、保險年金額參百六拾フランニ滿タザル時ハ國庫ヨリ不足額ヲ支給スルヲ常トセリ。

伊太利ニ於テハ、老癈保險ニ對スル、補助金ノ財源ヲ規定ス、卽チ郵便貯金ヨリ生ズル、純益金、及正統相續人ナクシテ、國庫ニ沒收セラレタル遺産ヲ以テ、保險局ノ基金ニ當テ、老衰癈疾ニ對スル被保險者ノ補助金ニ充當セリ。

救濟ノ條件ニ就テ、各國立法ノ趨勢ヲ見ルニ、保險局ハ老衰癈疾二種ノ場合ニ於テ、

救濟ヲ行フモノニシテ、老衰者ノ年齡ハ、國ニヨリテ、多少異同アリト雖、五十歲乃至六十五歲トシ、癈疾ノ場合ニ於テハ、年齡ノ如何ヲ問ハズ、其ノ條件ノ發生ヲ以テ、之レヲ救濟スル事トセリ。

老癈ノ場合ニ當リテ、救濟ヲ受ケントスルモノハ、被保險者ノ受クル可キ救濟ノ程度ニヨリテ、最低額ト最高額トヲ定メテ、定期ニ一定ノ保險料ヲ保險局ニ納付セシム、國ニヨリテハ、一定ノ期間以上、保險料ヲ納付セザレバ、老癈ニ至ルモ救濟ヲ受クル事ヲ得ザルヲ必要條件トセル處アリ。

救濟ノ方法、及ビ程度ニ就テ、佛蘭西、伊太利、白耳義、ノ立法例ヲ見ルニ、年金制ヲ採用スルヲ以テ通則トス、時トシテハ、一時金ヲ支給スルコトアルモ、之レ極メテ例外ノ事ニ屬ス、而シテ被保險者ガ年金ヲ受領スルニ及バズシテ死亡セル時ハ、既ニ拂込ミタル保險料ヲ放棄セシメ、保險局ノ基金ニ充當スルモノト、一ハ被保人ノ遺族ニ既ニ拂込タル保險料ヲ支給スルモノト二種アリ、佛蘭西、白耳義ニアリテハ、法律ヲ以テ、老癈ニ對スル年金ノ最高額ヲ規定シテ千貳百フランクトシ、老癈保險局ハ、勞働者以外ノ人ト雖、一定ノ金額ヲ定期ニ納付セシモノニハ、之レニ對シテモ、相當ナル年金ヲ受領シ得ルノ便アリ、伊太利ニアリテハ、老癈ニ對スル年金ノ最高額ニハ、何等ノ規定ナク、又勞働者以外ノ者ハ、老癈保險ノ被保險者タルコトヲ得ザルノ制限ヲ規定セリ。

終リニ老癈保險ニ對スル、機關ノ構成ヲ一言センニ、老癈保險局ハ、中央政府監督ニ屬シ、保險局ヲ管理スル爲メニハ、委員ヲ任命シテ、之レガ事務ヲ掌ラシム、獨リ伊太利ハ政府ノ任命セル委員ノ外ニ、經驗アル財政家ヲ加ヘ、之レガ經營ノ任ニ當ラシム、殊ニ附記ス可キハ、伊太利ノ老癈保險局ハ、他種ノ保險事業ヲ兼業スルコトヲ得セシム。

(二)強制保險、

老癈ニ對スル強制保險ハ、疾病災厄ニ對スル強制保險ノ如ク強制加入ノ主義ヲ採ルト、其ニ、又強制設備ヲ實行スル主義行ハル、而シテ其組織ニ至リテハ勞働者ト工場主トヲ以テ組織セル相互保險ニシテ、此種ノ保險ニ對シテハ、前述ノ如ク、巨額ノ

費用ヲ要スルモノニシテ、政府ハ特ニ補助金ヲ支給シ監督ヲ嚴重ニシ、多少他種ノ保險ト、其趣キヲ異ニセリ、救濟ノ條件及保險料ノ負擔救濟ノ方法及程度、機關ノ構成ニ至リテモ、其原則トシテハ、大體ニ於テ、任意保險ト異ルコトナシ、此種保險ニ對スル强制保險ノ實例ハ獨リ獨逸ニ於テ之レアルノミ、而シテ該法律ハ、千八百八十九年六月ノ創定ニ係リ、千八百九十一年ヨリ實施セラレ、日未ダ淺シト雖、其成績ノ見ル可キモノ頗ル多ク、近年漸ク盛大ノ域ニ達セリ、茲ハ後章ニ於テ述ブル所アラシトス。

千九百年度歐洲各國ニ於ル、住民及有賃勞働者總數ノ大約ヲ左ニ揭グ。

國名	住民總數	有賃勞働者總數
獨逸	五四、三〇〇、〇〇〇人	一四、〇〇〇、〇〇〇人
墺太利	二五、〇〇〇、〇〇〇	九、五〇〇、〇〇〇
ウンガルン	一八、〇〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇
伊太利	三一、六〇〇、〇〇〇人	九、〇〇〇、〇〇〇人
佛蘭西	三八、三〇〇、〇〇〇	九、五〇〇、〇〇〇
ベルヂユム	六、五〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
英吉利	四〇、〇〇〇、〇〇〇	一三、〇〇〇、〇〇〇
那威	二、〇〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇
瑞典	五、〇〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇
丁抹	二、三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
フインランド	三、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇

第參章　獨逸强制保險

第壹節　獨逸强制保險ノ由來

現今世界ニ於ル勞働保險事業中ニ於テ、其規模廣大ニシテ、其組織最モ完備セルモ

ノヲ、獨逸勞働保險トス、抑モ獨逸帝國ガ社會改良ノ手段トシテ、勞働保險ヲ實施スルニ至リタルハ、實ニ幾多ノ社會事情之レガ因ヲナセリ、彼ノフヒテーハ國家主義ヲ唱道シ、彼ノ唱フル所ニヨレバ、人生不幸ノ大部ハ社會上ノ關係ヨリ出デ、何人モ之レヲ左右スル力ヲ有セズ、サレバ之等ノ物ニ對シ、責任ヲ有スルモノハ、國家ニシテ個人ニアラズ、此ノ思想タルヤ、社會主義ノ勇將ラサールノ尊信スル所トナリ、之レニ次デ、シスモンデーハ、國家ノ力ヲ以テ、社會問題ノ解釋ヲ試ミントシ、シエーフエル及ビワグナー又國家社會主義ヲ唱道セリ、斯ノ如ク獨逸ニ於ケル國家主義ハ、哲學者初メ之レヲ唱ヘ、經濟學者之レヲ受ケ、終ニ政治家ヲシテ、之ヲ實行セシムルニ至レリ、按ズルニ、當時獨逸帝國ノ現狀ハ、急激ナル進歩ニ伴フ弊害トシテ、貧富ノ懸隔、甚シク彼ノマルクスガ資本ハ勞働ヨリ掠奪セルモノニシテ、資本家ハ盜賊ナリト論斷セシ、筆法ヨリシテ、社會主義者ヨリ、富豪者ハ敵視セラレ、當ニ不穩ノ傾向ヲ生ズルニ至レリ、茲ニ於テカ、賢明ナル獨逸皇帝ハ、國本培養ヲ施政ノ國是トシ、專ラ心ヲ勞働者社會ノ安寧幸福ヲ增進スルニ務メ、其施政改良ノ手段ハ、百般ノ政令ニ發現セザルハナシ、彼ノ鐵血宰相ビスマークガ、始メテ、強制保險法ヲ國會ニ提出スルヤ、保守主義ノ人ハ、之レヲ以テ社會主義ノ分子ヲ含有スルモノトシ、政府案ニ反對シテ、其通過ヲ妨害シタリシガ、皇帝ウイルヘルムハ、彼レニ援助ヲ與ヘ、千八百八十一年十二月、ライヒスタハアーノ議會ニ下シ給ヘル詔勅ヲ見ルニ、

『朕ハ勞働ニ從事スル所ノ、人民ノ安寧秩序幸福ヲ增進セシムル必要ヲ、帝國議會ニ表示スルヲ以テ、朕ガ責任ナリト思惟ス、朕ガ生前ニ於テ、國家ニ對シ、更ニ恒久平和ノ保證ヲ與ヘ、人民ニ對シテハ、當然彼等ノ享有シ得ベキ、扶助ヲナシ得タルノ實蹟ヲ見テ、後ニ墳墓ニ赴クコトヲ得バ、我ガ國家ニ冥護ヲ與ヘ給フ、上帝ノ幫助ニヨリテ、事業ヲ完成スルコトヲ得ルナリ、

此ノ目的ヲ達スル爲メ、朕ガ計畫ハ必ズ聯邦政府ノ協贊ヲ得ベシ、議會ノ諸員其黨派ノ如何ヲ論セズ之レヲ翼贊セヨ、』

人或ハ此ノ詔勅ヲ見テ、ビスマークノ强制ニ出デタルモノト疑フモノアラン、之レ決シテホーヘンツーオレン家ノ歷史ヲ知ルモノヽ言ニアラザルナリ、賢明ナル皇

帝及ビ鐵血宰相陽ニ勞働者保護ヲ以テ治者ノ天職ナリト宣言シ、社會改良ノ手段トシテ强制保險ヲ斷行セリ、今獨逸帝國ニ於ケル勞働保險ヲ促シタル事情ノ重ナルモノヲ見ルニ、

第一、千八百七十四年ノ大恐慌ハ、商工業界ノ大變動ヲ來シ、從テ一般勞働者階級ノ困弊ニ陷入ルモノ多ク、如何ニセバ勞働者ノ生活ヲ安全ニ保持スルヲ得ベキヤノ問題ハ、社會主義者及ビ經濟學者ノ思慮スル所トナレリ。

第二、十八世紀ノ末葉ニ於ケル、獨逸帝國ノ社會黨日ニ月ニ勢力ヲ加ヘ、ビスマーク宰相ノ鐵血政略ハ、最早其ノ効ヲ奏セズ、社會黨ハ、益々其ノ反抗ノ度ヲ高ム、茲ニ於テカ、積極的方針ニヨリ、勞働者ヲ保護スルノ途ヲ講ズルノ必要ヲ知リ、以テ社會黨ヲ鎭壓セントノ政策ヲ取ルハ目下ノ大急務ナリトシ、遂ニ强制保險ヲ案出スルニ至ル所以ナランカ。

ビスマークハ、各種保險法案ヲ議會ニ提出シタリシガ、順次決議ヲ經テ、千八百八十三年六月十五日、疾病保險法發布セラレ、千八百八十四年十二月ヨリ實施セラレ、其翌千八百八十四年六月六日、災厄保險法モ又法令トナリテ、現ハレ、千八百八十五年十月ヨリ實施セラレ、癈疾及ビ養老保險ハ、千八百八十九年六月二十二日、議會ヲ通過シ、茲ニ三種ノ保險、全國ニ行ハルニ至ル、何ゾ其ノ企畫ノ高遠、其手段ノ巧妙ナル勞働問題解釋ノ好模範ヲ世界ニ示シタル好例ニアラズシテ何ゾヤ、今次ヲ追フテ各種保險ノ大要ヲ概說ス可シ。

第二節　疾病保險

(Insurance against Sickness) (Krankenversicherung)

獨逸帝國ニ於テ、初メテ勞働者ニ疾病保險法ヲ制定發布シタルハ、千八百八十三年六月十五日ニシテ、之レヨリ先即チ千八百八十一年三月政府ハ災厄保險法案ナルモノヲ議會ニ提出シタリシガ、種々ノ反對者アリテ遂ニ委員附托トナリ、多少ノ修正ヲ加ヘ、國民議會ヲ通過セシガ、聯邦議會ニ於テ脆クモ廢案ノ不幸ニ遭遇セリ、ビスマークハ更ニ皇帝ノ熱心ナル贊助ヲ得テ、災厄保險法案ニ幾多ノ修正ヲ加ヘ、疾

病保險法案ト共ニ千八百八十二年議會ニ提出セリ、兩案トモ又委員附托トナリ、法案ノ性質上先ヅ疾病保險ヲ調査スル事トナレリ、當時ノ議會ハ災厄保險ヲ討議スルノ餘日ナク幸ニシテ疾病保險法案ハ無事通過シ、千八百八十四年十二月ヨリ實施セラル、其後千八百九十二年四月ニ公布セラレタル法律ヲ以テ更ニ之レガ改正增補ヲ行ヒタリ、之レ即チ現時ニ於ケル疾病保險法ナリ、而シテ此ノ法律ハ災厄保險法ト互ニ關聯シテ疾病救助法ヲ規定シタルモノナリ。

疾病保險法令ニヨリテ强制セラル可キモノハ、鑛山採掘業、鹽業、石坑、製鐵所、工場、水陸運輸業、建築業、其他原動力ヲ使用スル工業、及ビ手工業ニ傭使セラレタル勞働者、幷ニ公私ノ役員ニシテ、其ノ賃銀年額二千マーク以下ノモノハ此ノ法令ニヨリテ被保險者タラザル可ラズ、之レ實ニ國家ガ彼等ニ對シテ、一般ニ必要ナルヲ見認メタル所以ナルヲ以テナリ、其後千八百九十二年四月十日改正增補ニヨレバ、更ニ辯護士、公證人、執達吏、商店、幷ニ疾病保險組合ニ從事スルモノ、及ビ農業勞働者モ又當然被保險者タルノ義務ヲ有スルモノトセリ、其他一般收入貳千マーク以下ノ者ハ、加入ノ義務アリ、卽チ政府ハ其力ノ許ス限リ、如何ナル階級ニモ保險ノ利益ヲ普及セント欲セリ。

疾病保險組合ヲ分チテ左ノ七種トス、而シテ其組織ヤ錯雜ナリ、今之ヲ列擧スレバ、

第一、都市組合、"The Communal sick Association" "Gemeinde Krankenversicherung"

此ノ組合ハ、最モ不規則ニシテ、他ノ種類ノ組合ニ加入シ得ザル勞働者ハ、此ノ組合ニ加入シ得可キモノナリ、此組合ハ絕エズ都市ニ來住シ來ル勞働者ノ爲ニ、設置セラレタルモノナリ。

第二、地方組合、"The Local sick Association" "Orts Krankenkasse"

此組合ハ、組合中最モ重要ナルモノニシテ、地方ノ事情ニヨリ、小組合ヲ合併スル必要起リ、其需要ニ應シ、一大團體ヲ作ル場合少カラズ、又疾病保險ヲ多少自由ニ運用スル權利ヲ有スルヲ以テ、其便利又大ナリ。

第三、工場組合、"The Factory sick Association" "Betriebs Krankenkasse"

此組合ハ勞働者五十人以上ヲ使役スル、資本主ガ設タルモノニシテ、其職業ニ

シテ、危險ノモノナラシカ、斯ノ如キ危險多キ工場ニ於テハ、彼等ヲ危險少キ工場ニ働ケル、勞働者ト同一ノ組合ニ置クハ、其當ヲ得タルモノニアラズ、茲ニ於テカ、資本主ヲシテ各別ニ組合ヲ設置セシメ、其掛金モ又特別法ニヨル故ニ、工場組合ハ全ク特別ノ工場ニ限ラレタルモノナリ。

四、建築組合"The Building-Trade Sick Association" "Bau Krankenkasse"

此組合ハ、道路、修築、鐵道、敷設、溝渠、鑿等ノ危險事業ニ從事スル勞働者ヨリ、組織スルモノニシテ、彼等ヲ使役スル勞働者ノ爲ニ、特別ノ組織ヲ以テ作ラレタル保險組合ナリ。

第五、同業組合、"The Trade-Guild Sick Association" "Innungs-Krankenkasse

此組合ハ、職業ヲ同フスルモノガ團體ヲ組織シ、政府監督ノ下ニ、保險事業ノ會計ヲ特別ニ取扱フ。

第六、扶助組合及自由組合、"The Free Association or Friendlysoeiety" "Independentstate Association" "Hulfskasse; Landes richtliche Hulfs kasse"

此二ツノ組合ハ組合員ガ一團體ヲナシ、全ク强制保險法以外ニ立チ、政府ノ干與ヲ受ケズ、而シテ政府ハ此組合ニ對シテハ、扶助金ヲ下賜セズ、然シテ政府ハ此種ノ組合ノ存立ヲ忌ム傾向アリ、何トナレバ、此等ノ組合ハ、動モスレバ社會黨ノ集合體トナリ、往々政治運動ヲ起スコトアルヲ以テナリ。

第七、礦業組合、"The Miners Associations" "Knappsschafs kasse"

此組合ハ、千八百八十三年强制保險法制定以前ヨリ、强制的ノモノナリキ、何トナレバ、礦業ニ從事スルモノハ、他ノ組合ニ歸屬スル自由ナシ、全ク彼レ自ラ其ノ組合ヲ組織セザル可ラザレバナリ。

以上諸種ノ組合ヲ設ケ、地域ト職業ノ標準ニ基キ、狹隘ナル範圍内ニ於テ、組合ヲ設ク、之レ相互監督ヲ嚴ニスルニ便ニシテ、被保險者虛僞ノ請求ヲ防止スルニ利益アルヲ以テナリ。

今此等ノ組合ノ被保險者ガ疾病ニ罹リタル時ハ、其救助期間ハ少クトモ十三週間ニシテ、然シテ法律上救助ヲナス範圍ハ、下ノ如シ、

第一、三日以上疾病ニ罹リタル時ハ、無料ニテ醫師ノ診察治療ヲナシ、并ニ藥餌ヲ供給ス。

第二、三日以上、勞働シ能ハザル場合ニハ、發病三日目ヨリ其日給ノ半額ニ相當スル扶助金ヲ給與シ、且ツ必要ノ場合ニハ、無料ニテ病院ニ入院セシム、但シ此場合ト雖、家族ニ對シテ、日給ノ半額ノ扶助料ヲ支給スルヲ妨ゲズ、但シ日曜大祭日ニ當リシモ之レヲ支給スルコトアル可シ、

第三、死亡ノ際ハ、日給ノ二十倍ニ相當スル埋葬料ヲ支給ス、

第四、產婦ハ產後四週間之レヲ病人トシテ取扱ヒ、并ニ扶助料ヲ支給ス、

扶助料ハ、總テ平均日數ヲ標準トシテ定メ、十三週日ノ代リニ、一ケ年以內ノ救助ヲナシ、又發病後婦人ニ對シテハ、病褥後六週間ノ扶助ヲナスコトヲ許セリ、

而シテ毎日ノ扶助料ヲ五割以上七割迄增加シ、又埋葬料ヲ日給ノ二十倍ヨリ四十倍トナスコトヲ得、又病者家族及病後ノモノニ對シテモ、其救助ノ範圍ヲ擴張スルコトヲ得。

保險ヲ强制セラル可キ人ハ、其孰レカ組合ニ加入スルノ義務アリ、而シテ被保人ハ孰レニ加入スルモ可ナリ、若シ孰レニモ屬セザル時ハ、都市組合ニ加入セザル可ラズ、若シ雇主ニシテ、新ニ勞働者ヲ雇傭シタル時、又ハ解雇ノ場合ニハ、速ニ被雇者ノ屬スル組合ニ屆出デ、然シテ被雇者ハ決シテ、組合員トナルコトヲ拒ムコトヲ得ズ、若シ之ヲ拒絕スルコトアルモ、彼ノ掛金ハ雇主之ヲ立テ替ヘ、其賃銀拂渡ノ際之ヲ引去ルヲ以テ被雇者ニ於テハ、如何トモスル能ハズ、若シ被雇者ニシテ、自由組合ニ加入スルモノアランニハ、更ニ入會ノ手續ヲ要セザルモノナリ。

掛金ヲ定ムル方法ニ就テ見ルニ、組合員中ノ平均賃銀ヲ定メ、勞働者ナシテ同一ノ掛金ヲナサシム、其平均賃銀ハ如何ナル場合ニテモ、一日三マルクノ割合ヲ超エザルモノトス、然シテ其平均賃銀ヲ標準トシテ、掛金ハ組合ニヨリ其趣ヲ異ニスルモノアルヲ見認ム、卽チ都市組合ハ通常平均賃銀ノ百分一乃至百分一半ノ掛金ニシテ、百分ノ二ヲ越ユ可ラズ、工場組合若クハ地方組合ニテハ、危險ニ遭遇スルコト多キヲ以テ、其掛金ハ百分二若クハ百分三ナルヲ常トス、孰レノ組合ニテモ掛金トシ

テ賃銀百分ノ四半以上徴收ヲ許サズ、然シテ、掛金ノ拂込ハ一切雇主ヨリ拂込マシメ勞働者ニ拂フ毎週ノ賃銀ヨリ之レヲ引キ去ルナリ。

保險料ハ勞働者ト資本家共同シテ之レヲ負擔シ、勞働者其ノ三分ノ二ヲ負擔シ、企業者其ノ三分ノ一ヲ負擔ス、地方組合、工場組合、建築組合、及ビ同業組合ハ入會金ヲ請求スルコトヲ得然シテ其金額ハ毎週掛金ノ六倍ナリ、然レドモ入會者ニシテ既ニ他ノ組合ニテ十三週以上掛金ヲナセルモノハ、入會金ヲ要セズ。

疾病保險組合ノ機關ニ就テ一言セン、

組合ノ機關ハ、其組合ノ種類ニヨリテ異ナレリト雖概ヲ總會及重役ヨリナル、總會ナルモノハ、組合員タル企業主及勞働者ヲ以テ組織シ、而シテ總會ニ於ケル資本主ノ投票權ヲ制限シテ、勞働者ニ寛典ヲ附與シ、重役ノ選擧ハ總會ニ於テ、組合員中ヨリ之レヲ行ヒ、資本主及勞働者各別ニ之レヲ行ヒ、各其代表者ヲ選出シ以テ重要ナル百般ノ事務處理ノ任ニ當ラシム。

今茲ニ、獨逸帝國保險局ノ調査ニヨリ、千八百九十八年、疾病保險ニ關スル總成蹟ヲ見ルニ、

總成蹟

保險者	數	被保險者	疾病者	疾病日	收入額（マルク）	支出額（マルク）	財産
疾病組合 強制	二一、三〇〇	八、四三三、〇七三	三、〇〇七、八七二	五一、九五七、八九六	一五〇、一三三、二〇九	一三一、四三八、八九二	一四五、一〇七、一五四
疾病組合 自由	一、六九七	八〇六、八九三	二六八、六五二	五、一六〇、六三二	一五、七一四、二九九	一四、一八七、一四二	一八、八二一、八二六
合計	二二、九九七	九、二三九、九六六	三、二七六、五二五	五七、一一八、五二八	一六五、八四七、五〇八	一四五、六二六、〇三四	一六三、九二八、九八〇

千八百八十五年ヨリ千八百九十五年ニ至ル平均成蹟ヲ見ルニ、

一被保人ニ現出スル疾病ノ場合ニ於ケル百人ノ被保險者ニ對スル病人	百マルクノ疾病費用內譯												
負擔額		雇主	被雇人	疾病費用	官理費用	疾病期間數	費用	男	女	平均	藥價	醫師謝禮費	治療費
財産	內譯	三、九六	一〇、一九	一二、六一	〇、八五	一〇、八九	一六、四	三四、九八	三七、一	三一、九	三六、〇	四六、五六	二〇、四五

雜費	死亡費用	產褥費用
一六、六一	一〇、九七	四、〇〇	一、四一

第參節　災厄保險

疾病保險法既ニ發布セラレシモ、災厄保險法ノ制定ナクンバ、其目的ヲ達セザルヲ以テ、政府ハ頻リニ其完成ニ熱中セリ、千八百八十四年三月議會ニ向テ此議案ヲ提出シタリ、皇帝ノ勅諭中ニモ『當議會ハ此社會的政治法案ニ對シ、先ヅ專心一意之レガ討議ヲ望ム』トノ語アルニ徵シテ明カナリ、ビスマルクハ例ノ如ク本議案ノ說明ヲナシ曰ク『獨逸議會ハ、茲ニ社會的立法ノ端緒ヲ開キシモノナレバ、自ラ卒先シテ、歐洲列國ヲ誘導セザル可ラズ』トノ壯語ヲ述ベ、大ニ議員ノ注意ヲ喚起シ、遂ニ議會ノ反對黨モ、一歩ヲ讓歩シテ、委員附托トナリ、千八百八十四年六月六日法律トシテ發布セラレ、翌八十五年十月ヨリ實施セラレ、此法案ハ幾多ノ修正ヲ經テ、其範圍又頗ル廣大トナリ、製鹽業、鑛山業等ノ勞働者ニ限ラズ、建築業ニ從事シ、及ビ工場ニ働ク勞働者及ビ役員ニ限ラズ、郵便、電信、及ビ海陸軍所轄內ノ職員、及ビ勞働者ニシテ、一年收入二千マルク以下ノモノハ、必ズ之ノ條例ノ規定ニ從ヒテ、保險ヲナス可キモノトス、其他煉瓦職、大工、屋根職、石工、鑿井職ノ事業ヲ以テ營業トスル者ニ於テ、其事業ニ就キ、雇役スル職工、及ビ役員幷ニ烟筒掃除ノ營業ニ雇役スル職工、及ビ蒸氣汽鑵ヲ使用シ、又ハ天然力ヲ假リテ、運轉スル機械ヲ臨時使用スル事業ニシテ、本業ニアラザルモノヲ除ク外ハ、總テ一箇年ノ賃銀、又ハ俸給二千マルクヲ超エザルモノハ、保險ヲナス可キ義務アルモノトス、又製造所トハ此ノ災厄保險ノ條例ニ於テハ、重ニ物品ノ製造ヲ以テ、營業トシ常ニ二十人以上ノ職工ヲ雇役スル者、幷ニ爆發藥、爆發物ノ製造業ヲ營ムモノヲ云フ、此ノ外條例ノ意義ニ從ヒテ如何ナル營業所ヲ製造所ト見認ム可キカハ、帝國保險局之レヲ定ム、

營業所及ビ鐵道航海業ニモ、又此條例ヲ準用シ、此範圍ニ屬ス可キ事業ト雖、其職工等ニ災害ヲ被ラシムル恐ナキ者ニハ、聯邦議院ノ議決ヲ經テ、保險義務ヲ免除スルコトヲ得、又範圍內ニ屬セザル建築事業ニ從事スル職工幷ニ役員ハ、聯邦議院ノ議決ヲ以テ、保險義務ヲ負擔セシムルコトヲ得、

一ヶ年二千マルク以上ノ所得金アル役員ト雖、組合定款ヲ以テ保險義務ヲ負ハシ

ムルコトヲ得此場合ニ於テハ一ケ年所得金額ヲ以テ保險金額ノ標準トセリ此他保險ヲナス可キ事業ノ企業者ハ執務中ノ災害ニ對シテ保險ヲ受ケ又ハ保險ヲナス義務者ヲシテ之レヲナサシムルノ權アルコト幷ニ之レニ關スル必要條件ハ定款ニ規定セラル。

此災厄保險ハ以上述ブル外一般ノ商工業ニ從事スルモノ及ビ農業林業ニ從事スルモノ其他陸海軍ニ奉職セル文官兵卒ニモ適用スル事ヲ得ベシ實ニ此法律ノ行ハル可キ範圍モ又廣大ニシテ凡ソ國民中多少ノ賃銀ヲ受クルモノヽ大部ハ殆ンド洩ルヽコトナシ。

此保險ノ目的ハ被保人ガ業務災厄ノ爲ニ負傷シテ不具癈疾トナリ業務ヲ執ル能ハザル場合ニハ最初十三週間ハ病者トシテ疾病保險ノ保護ヲ受ケ其レヨリ以後ハ疾病ノ狀態ニ應シテ左記ノ給付ヲ受ク。

第一災厄ニ罹リタル時ハ無料ニテ醫師ノ診察治療ヲ受ケ幷ニ藥物ヲ支給ス。

第二勞働不能ノ場合ニハ下ノ如ク年金ヲ與フ。

(a)被保人ガ勞働不能ノ場合ニハ其期間平均賃銀額ノ三分ノ二ヲ終身年金トシテ支給ス。

(b)一部勞働不能ノ場合ニハ其期間勞働不能程度ニ應シテ終身年金ヲ支給ス。

第三罹災ノ爲メニ被保人死亡シタル時ハ。

(a)埋葬料トシテ所得金一日ノ平均額二十倍ヲ支給ス。

但其金額ハ三十マルクヲ以テ最下限トス。

(b)死亡者ノ遺族ニ本人死亡ノ日ヨリ手當金ヲ交付ス。

(イ)死亡者ノ妻ニハ終身又ハ再嫁マデ死亡者所得金ノ二割兒子ニハ十五歲ニ至ルマデ一割五分又母ナキ子ニハ二割。

但寡婦及ビ子女ノ手當金ハ合計ニテ死亡者所得金ノ六割以上ニ昇ルヲ許サズ又寡婦若シ再嫁スル時ハ其手當金額ノ二倍ヲ交付ス而シテ遭難後結婚シタル妻ハ右手當金ヲ請求スル權利ナシ。

(ロ)死亡者ノ宗系尊族ニシテ專ラ死亡者ノ奉養ヲ受タルモノニハ終身又ハ

手當金ヲ不要トスル迄、死亡者所得ノ二割トス。

但權利者數名アル時ハ、父母ヲ先ニシ祖父母ヲ後ニス。

從來獨逸ニハ、雇主責任法ナルモノアリテ、雇主ノ懈怠ニヨリテ、若シ勞働者災害ヲ蒙リタル場合ニ於テハ、其損害ノ補償ヲ法律ニ規定シ、以テ勞働者ノ利益ヲ保護シ來レリ、サレドモ勞働者保護ヲ受クル點ハ有名無實ノ感アリ、則チ被雇者ハ資力ナク、又其爭議ニ多數ノ日子ヲ要シ、之ガ災害ノ原因立證等種々ノ爭議ニ關シ、裁判所ノ法定ニ於ケル錯雜ナル辯論ヲ試ムル能ハザルト、其解雇ヲ恐レ、如何ニ民法ノ規定アルモ、勞働者ガ企業主ト爭議ヲ惹起スルノ不利ナル點頗ル多ク爲ニ其法律ハ有名無實ノ感アリ、其雇主責任法ノ規定スル一斑ヲ擧ンカ、此法律ハ雇主ガ勞働者ノ負傷ニ對シ、責任ヲ負フ可キ場合ハ、雇主ノ不注意過失アリタル場合ノミニシテ、勞働者自己ノ不注意ニヨリ負傷シタル時ハ、之ヲ雇主ノ責任ニ歸スルコト能ハザリシナリ、斯カル法律ハ一見公平ノ觀アリト雖、其實行ニ際シテハ、實ニ豫想外ノ結果ヲ生ジタリシハ、世人ノ熟知スル所ナリ。

要之勞働者ノ災害ニ對スル民法ノ條文ハ、多クハ徒法空文ニ終ラザルノ憾ナキ能ハズ、災厄保險ハ能ク此弊害ヲ知リテ、尚ク業務災厄ノ場合ニハ、其故意ニアラザル限リハ、一切之レガ救助ヲ與フルコトヽセリ。

今災厄保險ト疾病保險トノ關係ヲ見ルニ、

負傷者ト雖、初メ十三週間ハ病人トシテ疾病保險ノ保護ヲ受ケ、其レヨリ以後即チ十四週間目ヨリ、罹災保險法ノ保護ヲ受ク、之レト同シク普通ノ疾病モ十三週日ヲ經レバ、遂ニ災厄保險ノ下ニ來ルナリ、何故ニ斯カル制度ヲ設ケタルカト云フニ、災厄保險組合ハ單純ニシテ、重傷輕傷ヲ問ハズ、一ニ之ヲ收容センコトハ不利ナルヲ以テ、一應之ヲ疾病保險ニ取扱ハシメ、然ル後之ヲ災厄保險ニ移スヲ便利ナリトセシ所以ニ出ヅ、凡テ被保人ニシテ災害ニ遭遇シタル場合ニハ、二日以內ニ其地ノ警察ニ通告ス可シ、然ラバ警官企業者并ニ勞働者ヨリ出シタル代人立會檢査ヲ行ヒ、其事件ニシテ、錯雜紛糾ヲ極メ其解決シ難キ時ハ、裁判所ノ判決ヲ仰グコトヽセリ。

災厄保險ノ保險料ニ就テハ、工場主之レヲ負擔シ、毫モ勞働者負擔スル所ナシ、之レ

全ク資本主又ハ工場主ナシテ、自己ノ傭役スル勞働者ナシテ、自然災害ニ陷入ラシムル豫防ニ注意セシメ、從テ負傷者數ヲ減ゼシメントノ精神ヨリ出ヅルナラン、業務罹災負傷者ノ多少ハ、忽チ彼レ資本主ノ損害ニ關スル所ナレバ、雇主ガ進ンデ負傷豫防ノ方法ヲ講ズルハ當然ノ事ナリ。

災厄保險組合ノ機關ハ、彼ノ疾病ニ比スレバ、其機關ヤ、頗ル簡單ニシテ、組合重役、仲裁役、ヲ以テ構成セラレ、管ニ資本家若クハ工場主ノミニテ組織セラレ、勞働者ハ、特定ノ場合ヲ除ク外ハ、之レニ參與スルコトヲ得ズ。

今茲ニ、獨逸帝國保險局ノ調査ニヨリ、千八百九十八年ノ總成蹟ヲ見ルニ、左ノ如シ

保險者數		職業被保險人數	職業罹災賠償收入額（マルク）	支出額（マルク）	財産
職業組合	六五	四五六、三六六	六、三一六、八三四	六〇、七六四、二二六	五七、七七五、二三〇	一五三、二一六、二五六
地方組合	四八	四、六五四、一七六	二、一八九、〇七一	二〇二、八四八	二〇、三〇九、四九六	一九、六四九、九〇一	八、二八二、九八二
國家營業官廳	四〇九		二四〇、一〇八	二六、七六一	六、三〇六、八二七	六、三〇六、八二七	
總計		五、二二五、一一〇、五四三	一八、二四六、〇一三	四八六、六四五	八七、三八〇、五四九	八三、七三一、八五八	一六一、四九九、二三八

平均數

	一被保人ニ對スル	災害時ニ於ケル負傷ノ場合ニ於ケル收入	千人ノ被保險者ニ對シテ百マルクノ賠償內譯
年數	雇主負擔額	被雇人負擔額	賠償費	管理費	財産	收入	收入	寡婦	孤兒	兩親	負傷者年金	遺棄者年金	診察費	埋葬費
千八百九十年—五年間	二、九八	—	一、四〇	〇、四〇	五、五二	二〇〇、〇〇	六、三	一、〇	一、九	〇、一	六、六六	六、六六	八、六一	一、三八
	六、八六	—	六、四〇	〇、四〇	一三、七二	二〇〇、〇〇	二一、七	八、三	五、〇	〇、三	六七、四四	六七、四四	二、〇四	〇、三二

第四節　老癈保險

社會的改革ノ根本、國家的事業ノ最大任務トシテ、鐵血宰相ビスマルクハ、其理想トセシ、三策ノ中、疾病保險、及ビ災厄保險ハ既ニ議會ノ協贊ヲ經テ、帝國內ニ實現スル

コトヲ得タリ、他ノ一策トハ何ゾヤ、則チ老衰癈疾及ビ不具ノ場合ニ對シテ、適當ノ救濟方法ヲ目的トセルモノニシテ、千八百八十五年議院ニ提出セラレ、漸ク協贊ヲ經テ、茲ニ疾病災厄及ビ老癈ノ三保險國內ニ並ビ行ハルヽニ至レリ、此法律ハ千八百九十一年一月ヨリ、實施セラレタリ、此法律ハ其題目ニ示ス如ク二個ノ目的ヲ有セリ、

第一、勞働者ガ年齡ノ如何ニ係ラズ、不具癈疾トナリテ、一定ノ職業ノ最低限度ヲモナス能ハザル時ニ、相當ノ年金ヲ支給スルコト。

第二、勞働者ノ年齡七十歲ヲ終ル時ハ、規定ノ養老年金ヲ支給スルコト之レナリ。

老癈保險ノ組合ハ、疾病保險ノ如ク、勞働者及ビ雇主タル工場主ヲ以テ組織セラルレドモ、其範圍ニ於テハ、疾病保險ノ如クニ狹隘ナル地域ニ基カズシテ、頗ル廣大ナル組織ヲ採ルヲ主義トス。

此法令ノ下ニ强制セラル可キモノハ、年齡十六歲ヨリ保險義務アルモノト規定シ、勞働者、助手、徒弟、書記、僕婢、及獨逸國籍ノ船舶ニ乘組メル水夫等ニシテ、年給若クハ賃銀二千マルク以下ノ者ヲシテ、保險加入義務アルモノトシ、勞働者ガ得ベキ平均賃銀ノ三分ノ一ヲ得ル能ハザルモノハ、除外例トシテ保險加入ノ義務ナシ、然シテ老癈保險ノ組織ハ、勞働者ト企業主トヲ以テ組合員トセル相互保險組織ナリ、何トナレバ此保險ハ他ノ疾病災厄保險ニ比シテ、其經營ニ要スル費用莫大ナルヲ以テ、單ニ勞働者資本主又ハ工場主ノ保險料ノミヲ以テ、之ヲ支辨スルハ困難ナルヲ以テ、國庫ハ其幾分ヲ負擔シ、其缺ヲ補充スル事トナレリ。

老癈保險ニヨリテ、被保人ガ成規ノ保險金ヲ得ルニハ、其以前一定ノ期間繼續シテ、掛金ヲナシタルモノナラザル可ラズ、則チ老癈ノ爲メニ法定ノ救濟ヲ受ケント欲セバ、三十年間繼續シテ掛金ヲナシタルモノニ限ル、併シ老衰ニシテ、年齡七十歲ニ達シタルモノハ、勞働能力ノ如何ヲ論ゼズ終身年金ヲ得ルニアリ、又年齡ノ如何ヲ問ハズ、不具癈疾ノ場合ニ、保險金ヲ得ルモノハ、其以前五ケ年間繼續シテ、掛金ヲナシタルモノニシテ、此場合ニハ、更ニ分チテ二種トス即チ

(一)癈疾者、永久勞働ニ堪ヘザル場合、

(二)癈疾者、一ヶ年以上、勞働ニ堪ヘザル場合、

前者ノ場合ニハ終身年金ヲ得ベク、後者ハ其事故ノ繼續中年金ヲ得ルニアリ、

被保人ガ受クル其年金ハ二種ノ財源ヨリナル則チ一ハ國庫補助ニシテ、他ハ勞働者及ビ資本主ガ均等ニ負擔シ、掛金シタルモノヨリナル、則チ保險料ハ勞働者資本主、若クハ工場主ハ同額ノ負擔ヲナシ、國家ハ一定ノ金額ヲ補助スルニアリ、

今被保人ガ負擔セル負擔額ヲ示サンニ、其負擔額ハ勞働者ノ受クル賃銀ノ多少ニヨリテ、之ヲ類別シテ五級ニ別テリ、卽チ三百五十マルク以下ノ收入アルモノヲ第一級トシ、三百五十マルク以上、五百五十マルク以下ノ收入アルモノヲ第二級トシ、五百五十マルク以上八百五十マルク以下ノモノヲ第三級トシ、八百五十マルク以上、千百五十マルク以下ノモノヲ第四級トシ、千百五十マルク以上ノモノヲ第五級トス、右ノ賃銀等級ニ應ジテ勞働者保險料ノ負擔額ヲ定メ、而シテ其拂込ハ他ノ保險ト同ジク雇主之レヲ立替ヘ、其勞働者ノ賃銀ヨリ差引ク事トセリ、今每週其等級ニ應ジテ拂込ム保險料ノ額ヲ示セバ左ノ如シ、

第一級、十四ペンニッヒ、　第二級、二十ペンニッヒ、　第三級、二十四ペンニッヒ、

第四級、三十ペンニッヒ、　第五級、三十六ペンニッヒ、

國庫補助金トシテ、政府ノ負擔額ハ、老癈保險組合ヨリ、被保人ニ年金ヲ交附スル時ニ際シ、一人ニ付五十マルクノ補給ヲ交付スルコトヽセリ、而シテ年々交附ス可キ被保人ノ數ニ應ジテ、保險組合ニ交付スル事トセリ、這ハ保險義務ナキ勞働者階級以上ノ者ヨリ、社會的共濟ノ意味ヲ以テ、其負擔ヲ願ツモノナリ、

更ニ救濟ノ方法ニ就テ見ルニ、年金ヲ交附スルヲ以テ通例トシ、特ニ療養料ヲ給スル事アリ、勞働者若シ癈疾ノ爲ニ其勞銀ノ三分ノ一以上ヲ得ルコト能ハザルニ至リタル時若クハ七十歲ニ達シタル時ハ、其納付シタル保險料ノ割合ニ應ジタル年金ヲ附ス、而シテ別ニ政府ハ之等ノ年金者ニ各五十マルクノ年金ヲ補給スルハ前述ノ如シ、要之、救濟ノ程度ハ、其勞銀ヲ基礎トシテ差等ヲ設タリ、而シテ此等ノ差等ニ就テモ、老衰ノ場合ト、癈疾ノ場合トハ、多少其趣ヲ異ニセリ。

老衰ノ場合ニ於ケル、年金ノ定額ヲ分チテ左ノ五級トス、

第一級、六十マルク、
第二級、八十マルク、
第三級、百二十マルク、
第四級、百五十マルク、
第五級、百八十マルク、

癈疾ノ場合ニ於ケル年金ノ最低額ヲ分チテ左ノ五級トス、

第一級、六十マルク、
第二級、七十マルク、
第三級、八十マルク、
第四級、九十マルク、
第五級、百マルク、

然シテ此場合ニ於ケル增加率ハ左ノ如シ、

第一級、三ペンニッヒ、
第二級、六ペンニッヒ、
第三級、八ペンニッヒ、
第四級、十ペンニッヒ、
第五級、十二ペンニッヒ、トス

老癈保險組合ノ機關ハ、重役及參事會、仲裁役、及監査役ヨリナル、參事會ハ企業主ヨリ選擧セラレタルモノト、勞働者ヨリ選擧セラレタルモノヲ以テ組織シ、其職務ハ重役ヲ助ケ事務ノ管理ヲナスニアリ、然シテ重役ノ選任ハ政府之ヲ官吏中ヨリ任命シ、他ノ保險組合ノ如ク組合員ヨリ選擧スルモノトハ、其趣ヲ異ニセリ。

今獨逸帝國保險局調査ニヨル、千八百九十八年、老癈保險總成蹟ヲ見ルニ、

保險者	數	被保險者	年金受領者	收入額	支出額	國庫扶助額	財産額
保險局	三一	一二、〇七一、五〇〇	四九一、〇〇〇	一五二、三七〇、〇〇〇	四九、九三八、〇〇〇	二三、四一一、〇〇〇	六一七、〇四三、〇〇〇
特別組合	九	五八八、一〇〇	二、〇〇〇	一、一九四、〇〇〇	二、五一二、〇〇〇	九九〇、〇〇〇	五四、八六九、〇〇〇

											四〇
											一二、六五九、六〇〇
											五一二、〇〇〇
											一六三、五六四、〇〇〇
											五二、四五〇、〇〇〇
											二四、四〇一、〇〇〇
											六七一、九一二、〇〇〇
平均數											
被保險者ニ對スル										百人ノ被保險者ニ對スル	百マルク年金內譯
年數	總額	帝國扶助額	年金	管理	財產	老癈保險	養老年金	老癈年金	養老年金	年金總計	老癈年金	養老年金
一年間	八、二二	〇、五四	一、三六	〇、四〇	七、〇九	一一三、五一	一二五、〇八	一〇、〇〇	一、二〇	一、二〇	〇、〇〇	一〇〇、〇〇
五十年間	一八、〇〇	六、〇〇	二七、三四	〇、四〇	一二五、三三	二二五、六〇	一三五、〇〇	一四、四〇	一、二〇	一二、六〇	九四、〇七	五、九三

以上三種ノ保險ノ總成蹟ニ就テ、之レヲ見ルニ、獨逸ハ千八百九十八年度ニ於テ、人口約五千四百萬人ニシテ、日給勞働者ハ、約千四百萬人ナリ、今左ニ各種被保險者ノ員數、被保險事故、到着件數、及ビ之レニ關スル收入支出ノ金額ヲ掲記セン、

項目	疾病保險	災厄保險	老癈保險
被保險者數	九、二三〇、〇〇〇	一八、二四六、〇〇〇	一二、六六〇、〇〇〇人
被害者數	三、二七六、五〇〇	五八二、〇〇〇	六七三、五〇〇
收入金額（マルク）	一六五、八四七、五〇〇	八七、三八〇、五〇〇	一六三、五六四、〇〇〇
內 企業者納付額	四、八六二、三〇〇	七五、〇七二、五〇〇	五八、九七六、〇〇〇
內 勞働者納付額	一〇、九二三、六〇〇	—	五八、九七六、〇〇〇
支出金總額	一四五、六二六、〇〇〇	八三、七三一、八〇〇	七六、八五一、〇〇〇
內 賠償金	一三七、四一四、八〇〇	七、一七三、三〇〇	六八、九四〇、〇〇〇
內 經費	二、一一一、二〇〇	一一、九四八、八〇〇	七、九一一、〇〇〇
現財產	一六、三九二、九〇〇	一六一、四九九、二〇〇	六七、一九一、二〇〇

上述ノ如キ獨逸勞働保險事業ノ成蹟ヲ表字スル數字ノミヲ見テモ、吾輩ハ獨逸勞

働者ノ幸福ヲ羨望スルモノニシテ、國家社會主義ノ恩澤實ニ深シト云ハザル可ラズ、而シテ之ガ爲メニ要スル財源ノ多クハ、勿論勞働者ノ醵出ニヨルモノナリト雖、企業者又其ノ幾部ヲ負擔シ、政府又之レニ補助ヲ加ヘ、以テ茲ニ圓滿ナル發展ヲ來シ、獨逸政府ハ、之ヲ以テ、社會政策ノ樞石ヲ置キタルモノトヤ云ハン、彼等勞働者ヲシテ、病患、負傷、及老耗、心神喪失ノ不運ニ際會セバ、滿足ナル救護ヲ享受シ、飢エズ凍エズ、病癈ニ安臥スルヲ得ルガ如キハ、之レ勞働保險ノ賜ニアラズシテ何ゾヤ。

千八百八十七年、獨逸統計局ガ勞働保險ト貧民ノ關係ニ就キ、調査セル所ニヨレバ、此種保險施行ノ結果、明ニ貧民減少ノ傾向現ハレタリト。

由是觀之、勞働保險ハ勞働者ヲシテ貧民ニ陷入ルノ豫防策トシテ、最モ有効ナルコトハ、元ヨリ疑ヲ容レザル處ナリ。

第四章　我國ニ於ケル工業勞働者一般ノ狀態

第壹節　最近ニ於ケル工場工業ノ變遷

最近十年間ニ於ケル、我國ノ進歩發展ハ、各種方面ニ至リテ、實ニ驚クヘキモノアリ、之レヲ輸出品ノ價額ニ徵スルモ、之レヲ貨物ノ生産額ニ徵スルモ、今ヤ優ニ工業國トシテ遜色ナキニ至レリ、我國未ダ工業ニ關スル詳細ナル統計ヲ得ズト雖、今農商務省ノ調査ニヨル、統計表ノ示ス所ヲ見レバ、帝國ノ生産力ハ如何ナル發展ヲナセルヤト云フニ、

製造工業ニ於テハ、

明治二十七年十二月末日ニハ工場數、五千九百八十五箇所（一會社所有ノ工場ト、一個人タルニ係ラズ、職工十人以上ヲ有スル工場職工平素使用スル一日ノ現員）

原動力、四萬一千三十一馬力、

職工數、（男十四萬一千九百十四人、女二十三萬九千四百七十六人、）

合計三十八萬一千三百九十人、

三十五年十二月末日、工場數七千八百二十一箇所、

原動力、九萬一千五百八十五馬力、

職工數、（男十八萬五千六百二十一人、女三十一萬三千二百六十九人、）

合計四十九萬八千八百九十人、

斯ノ如ク工場ノ新設年々多クシテ、最近十年間ニ於テ、工場數十三割一分

原動力二十二割三分、職工數ニ於テハ十六割ニ增加セリ、而シテ其結果ハ各種製造

品ノ產額ニ於テ、之レヲ見ルヲ得可ク、就中

二十七年度ニ於テ、綿絲產額ハ九百九拾七萬七千貳百八圓ヨリ、

三十五年度　同　參千八百四拾五萬八千九百四拾七圓トナリ、

則チ三十八割五分ノ增加ヲ示シ、

二十七年度ニ於テ、織物產額ハ四千八百九拾四萬五百參拾六圓ヨリ、

三十五年度　同　壹億五千百拾八萬七千四百七拾參圓トナリ、

則チ三十割九分ニ增加シ、

二十七年度ニ於テ麥稈眞田貳拾五萬壹千五百七拾七圓ヨリ、

三十五年度　同　貳百五拾壹萬六千貳百拾九圓トナリ、

則チ百割ト云フ增加ヲ示シ、

其他漆器、銅器、製紙、油、等孰レモ二十割以上ノ增加ヲ示セリ、豈驚ク可キ進步ナラズヤ、之ヲ歐米ニ比セバ、元ヨリ我國現時ノ工業ハ未ダ小規模ノ工業ニシテ、大規模ノ工業ハ、猶未ダ發達ノ域ニ達セズト雖、次第ニ規模ノ擴張ヲ促シ、殊ニ著シキ現象ハ原動力ノ使用日ニ月ニ增加シ、其反對ニ原動力ノ應用ナキ工業振ハザルガ如キ、之ヲ統計ニ徵シテ明カナラズヤ、更ニ工業用石炭消費ニ就テ見ルニ、

二十七年度ニ百〇九萬二千六百五十六噸ヨリ、

三十五年度ニハ三百四十一萬九千六百十一噸ニ達シ、實ニ三倍强ノ增加ナリ、卽チ工場ノ石炭消費ノ增加著大ナルハ、實ニ其比ヲ見ズ、石炭消費額ノ多キハ、他ノ一面ニ於テ蒸氣力應用盛ナルコトヲ意味セルモノニシテ、工業ニ於テハ機械工業ノ進歩發達ヲ示セルモノナリ。

更ニ資本ニ於テ幾何ノ發達アリシヤヲ見ルニ、

二十七年戰爭當時株式組織ニヨレル、工業會社ノ資本金額　五千六百餘萬圓ニ過ギザリシガ、三十年度ニ入リテハ壹億五千餘萬圓ニ達シ、三十五年度ニハ貳億貳千拾貳萬六百九拾參圓ノ巨額ニ達シタリ、之レ會社自身定メタル資本高ナレバ、之ヲ以テ未ダ工業ニ幾何ノ資本運轉セルヤ知ルヲ得ズト雖、工業社會發達ノ一般ノ梗概ハ、之ニヨリテ知ルヲ得ベキカ、今實際ノ拂込高ヲ擧レバ、

二十七年度ニハ、參千六百餘萬圓、

三十年度ニハ、七千四百餘萬圓、

三十五年度ニハ、壹億七千參百貳拾參萬貳千六百八拾九圓ノ巨額ニ達セリ、

卽チ二十七年度ニ比シテ、壹億參千七百餘萬圓ノ增加ヲ示セリ、尙之ニ合資、合名、個人、企業等ニ投ゼル資本ヲ算出セバ、蓋シ巨額ニ達セルヤ必セリ、此ノ一事ヲ見ルモ、工業社會發達ノ如何ヲ推知スルニ足ランカ。

右ニ擧ル如ク急進ノ發展ヲ見シハ、之レ偏ニ日淸戰役ノ影響ニアラズシテ何ゾヤ、勿論戰爭ノ影響ヲ受ケシハ、獨リ工業ノミニアラズシテ、アラユル、他ノ各方面ニ於テ、發達進歩セルハ疑フ可ラザルモ、特ニ世人ハ工業ニ留意スルニ至リ、工業立國論ハ識者ノ多ク唱道スル所トナリ、我ガ政府モ又銳意之ガ注意ヲ怠ルナク、中央ニ工業試驗所、釀造試驗所、製鐵所、製絲講習所等ノ經營セルアリ、又實業練習生ヲ海外ニ派出シテ、工業ヲ研究セシメ、其他染織機械ヲ購入シテ、當業者ニ貸與スル等、工業保護ノ方法ハ、近時大ニ進メリ、又府縣ニアリテモ、勸業費トシテ、商工業ノ發達ヲ計ルガ爲ニ、支出セルモノハ、逐年增加セルヲ見ルモ、地方工業ノ逐次發展ニ向ヒツヽアル

ハ明カナル事實ニシテ、疑フ可ラザルモ、勞働者階級ノ上ヨリ見レバ、工業社會ノ發達ハ、彼等ニ對シ、著シキ變態ヲ惹起セルモノヽ如シ、茲ニ於テカ、政府ハ既ニ工場法（三十五年十一月五日付農商務省諮問ノ工場法案）制定ノ必要ヲ見認メタリト雖、未ダ帝國議會ノ討議ヲ經テ、之ヲ全國ノ工場ニ發布スルノ域ニ達セズ、之レ吾輩ノ慨ミトスル所、今ヤ戰局ノ前途ハ遼遠ナリト雖、既ニ大勢ハ決定セリ、今後我國ノ實業界ノ發展ハ、決シテ日清戰役後ノ比ニアラザルヲ確信スルモノナリ、工業社會ノ發達變遷ハ、如何ニ勞働者社會ニ變態ヲ及スモノゾ。』

第貳節　勞働者ト貯金

近世物質的社會ニ於テ、特ニ之ニ由リテ、强弱ヲ世界ニ爭フ時代ニ於テ、貯蓄心ガ一國ノ盛衰ニ、至大ノ關係ヲ有スルハ、言ヲ俟タズ、如何ナル社會ニテモ、貯蓄心ナキ人民ニハ、發展スル機會ナシ、實ニ貯蓄心ノ發展ハ、一國產業ノ基本ヲナスト云フモ敢テ不可ナキナリ、試ニ見ヨ、現時ノ如ク、萬事經濟ヲ基礎トスル時代ニアリテハ、勤儉貯蓄ハ、實ニ國民道德ノ最モ重要ナルモノニシテ、然カモ我國民ノ最モ缺如セル所、從來我國民ハ、世襲相食メル、封建制度ノ遺風ヲ受ケ、勤儉貯蓄ノ念ニ乏シク、之レ我國ガ未ダ世界ノ舞臺ニ現レテ、經濟的獨立ノ地位ヲ占ル能ハザルニ因スルカ、十年前我ガ國民ニシテ、貯蓄心相當ナル程度ニアランカ、清國ヨリ得タル償金ハ雲散シテ、跡ヲ止メザリシ事ナカラン、獨リ無智ナル勞働者ニ限ラズ、教育ヲ受ケ、社會ノ指導者タルモノト雖、他ノ文明國ニ見ル可ラザル現象ニシテ、近時經濟學者、社會論者、及政治家ガ、國家社會ノ施治經營ニ、之ガ必要ノ切ナルヲ感ズルヤ、誘導勸奬ニ意ヲ用フルニ至リタルハ、吾人ノ頗ル意ヲ得タル所ナリ、試ニ見ヨ、我國現時勞働者社會ノ狀態ハ『宵越シ』ノ錢ヲ持タザル弊風、一般ニ行ハレ、舊錢ヲ貯ヘザルヲ以テ、一種ノ俠氣トナスモノヽ如ク、不幸ニモ、此惡弊ハ、未ダ蟬脫セラレズ、男勞働者ハ、飲ム、打ツ、買フ、ノ三道樂、女勞働者ハ食フ、見ル、着ル、ノ三道樂アリテ、豪放無謀、今日アルヲ知リテ、明日アルヲ知ラザルモノ多キハ、我國一般勞働者ノ狀態ニシテ、然シテ貯蓄ヲ輕視スルノ弊アルハ、明カナル事實ナリ、近時工業會社ニ於テ、企業主又ハ工場主ハ、其

貯蓄ノ必要ヲ感ジテ、職工ニ貯蓄ヲ勸奬シ、其成蹟稍々見ル可キモノナキニシモアラザルモ、一般ニ幼稚ニシテ、到底滿足スルノ地位ニ達セズ、卽チ紡績工場ニ於テハ、保信金、信認金、保證金、又ハ積立金等ノ名稱ノ下ニ貯蓄ヲ强制シ、又ハ勸奬方法ヲ講ジテ、之ガ爲ニ、力ヲ用フルモノアリ、サレドモ職工一般ニ貯金ヲ以テ減給セラル如ク思考シ、非常ニ嫌フノ風アルハ、一般ノ傾向ニシテ、小工場ニアリテハ、概シテ未ダ全ク何等ノ設備ナク、サレバ實際何等効果ノ徵スルモノアルナク、偶々工場主ガ貯金奬勵ノ下ニ、年玉又ハ年末賞與トシテ、物品ヲ給與スル代リニ、貯金通帳ヲ渡シテ、貯蓄勸奬ノ方法ヲ取ルモ、多數職工ハ期月ヲ出デズシテ、引出シ、引續キ貯蓄スルモノハ稀ナリ、要スルニ大工場ニアリテハ、近來貯蓄勸奬ノ方法稍々備ハリ、來リタルノ感アレドモ、實施後日未ダ淺クシテ、成蹟ノ大ニ見ル可キモノナシト雖、種々ノ名義ノ下ニ、毎月賃銀ノ百分三、乃至百分ノ五若クハ毎月各自日給ノ一日分ヲ義務貯金トシテ徵收シ、六朱乃至八朱ノ利子ヲ附シテ、之レガ奬勵ニ汲々タルモ、工場主ノ都合ヨリ見レバ、職工ノ轉業逃亡ヲ豫防スルノ方法ト云フ可ク、名ヲ貯金ニ托シテ、職工ノ移動ヲ防止セントスルノ傾向、動モスレバ、現出スル如キ感アリ、何トナレバ若シ期限中不都合ノ行爲アリタルカ、又ハ無屆缺勤數ケ月ニ渡ルカ、又ハ契約期限中雇主ノ許諾ヲ經ズシテ、轉業シタル時、故意ニ雇主ニ損害ヲ蒙ラシメタル時、逃亡歸國數ケ月ニ渡ル時等ノ場合ニ其貯金ヲ沒收スル如キ規定ハ、各工場ニ於テ、寬嚴其度ヲ異ニスト雖、多少其規約ナキハ稀ナリ、之レ工場主ヨリ觀レバ、固ヨリ當然ノ處置ナランモ、之レ勞働者ノ堪ユル能ハザル所ナランカ、義務貯金(所謂强制貯金)ハ、貯蓄心ナキ彼レ等ニ對シテハ、好組織ナリト云ハザルヲ得ズ、强制貯金ニ對スル、一般勞働者ノ感想ヲ見ルニ、恰モ稅金ヲ徵收セラル如ク、思惟セラル、斯カル狀態ノ下ニアル、一般勞働者ニ對シテ、任意貯金ヲ勸奬シテモ、其成蹟ノ擧ラザル、敢テ怪ムニ足ラズ、今農商務省商工課ノ調査セルモノニヨリ、其成蹟ノ顯著ナルモノヲ擧ンカ、

會社名	貯金仕組ノ要領		
		貯金積立率	利子歩合
攝津紡績	職工貯金ハ、毎月各自、給料ノ一日分ヲ、保信積立トシテ、會社ヘ預ケ入レシム、	給料一日分	一ケ年七朱

會社名	貯金仕組ノ要領	貯金積立率	利子歩合
泉州紡績	職工ハ雇傭契約ノ履行、及ビ身元信認擔保トシテ、入社ノ翌月ヨリ、毎月月給者ハ月給三十分ノ一、日給者及ビ受負者ハ、日給一日分ヲ會社ニ預ケ入ルヽモノトス、但シ見習中ハ之レヲ免除ス	月給者ハ月給三十分一日給者及受負者日給一日分	一ヶ年七朱
三重紡績	毎月給料拂渡ノ男工ハ、壹圓ニ付貳錢、女工ハ壹圓ニ付參錢、ノ割合ヲ以テ、銀行ニ預ケ入レシム、	男工給料壹圓ニ付貳錢 女工給料壹圓ニ付參錢	
日本紡績	職工貯金ハ毎月給料ノ日給一日分ヲ會社ヘ預ケ入レシム、	一ヶ月日給、一日分、	一ヶ年七朱
天滿織物	職工ハ其收入ニヨリ、一定ノ率ヲ以テ貯金ヲナサシメ、之ニ利殖金トシテ、毎月五錢宛ヲ、附與保管シ滿期退社、若クハ不得已退社ノ際ハ下附ス、男工日給參拾五錢以上、金參拾錢參拾四錢以下、貳拾錢拾九錢以下、拾錢、女工一ヶ月收入金五圓以上參拾錢、五圓以下貳拾錢、日給拾錢以下拾錢、		
明治紡績		毎月日給一日分	
日本鐵道	皆勤者ニハ精勤費トシテ請取額ノ一割ヲ給與シ之レガ半額ヲ積立テシム、		一ヶ年八朱
九州鐵道若松製造所	職工貯金ハ、社則ニヨリ、一人一ヶ月日給額ノ二日分ヲ本社ニ積立テシム、	一ヶ月日給二日分	
北海道炭礦鐵道	本社身元保證積立金規則ノ設ケアリテ、臨時雇入ノ者ヲ除キ、從業者一般ニ積立金ヲナサシム、日給一日分ヲ左ノ制定額迄ハ、必ズ積立テシム日給五拾錢以上者金五拾圓、同參拾錢以上者金貳拾圓、參拾錢未滿者金拾圓、尙本人ノ望ニ依リ毎月積立ノ割合ヲ增加シ、定額以上ノ積立ヲナスコトヲ得ルナリ、		一ヶ年七朱貳厘

會社名	貯金仕組ノ要領	貯金積立率	利子歩合
富士製紙株式會社	職工ノ貯金ヲ奬勵スル爲メ、本社積金規則ヲ設ケ、給料又ハ賞與金ニ對シ、其給與ノ際、前者ハ百分二、後者ハ百分ノ二十、ノ割合ニテ積立シメ、利息ヲ附シ、事業年度毎ニ、利息ヲ精算シテ、之レヲ元金ニ加算ス、積金五拾圓ニ滿チタル者ハ公債證書又ハ株式ヲ預ケ入レ、積金ニ交換スルコトヲ得セシム、	給料ハ百分ノ二 賞與金ハ百分ノ二十	一ヶ年七歩
小田機業場	貯金奬勵法ハ當場ニ賞與法四種アリ、織工賞、年末皆勤賞、月次賞、臨時特別勉勵賞ニシテ、其内臨時特別勉勵賞ハ、全部貯金トシ、織工賞ハ賞與金ノ半額ヲ貯金セシム、其他賃金ノ内モ可成督勵シテ、貯金セシムル法ヲ講ズ、		一ヶ年六分四厘八毛
精工舍時計製造所	一般職工ハ、支給金ノ五分宛ヲ、東京貯蓄銀行ニ積立テシメ、又徒弟ハ毎月手當四拾錢以上、五圓未滿ヲ與ヘ、其手當ノ三分ノ二宛ヲ、滿期迄、銀行ニ積立テシム、		

任意貯金制

工場名	貯金奬勵ノ仕組ノ要領	貯金積立額及人員	利子歩合
日本紡績	職工日常收得金ノ餘裕ヲ預リ、之レヲ貯金帳ニ記入シ、本人ニ交付ス、而シテ隨時其必要ニ應ジ、其需要ヲ記シ、金額ヲ下附ス、其貯金額或ル程度ニ上ル時ハ、直チニ國許ニ送附セシム、近來稍々其必要ヲ感ジ來リタル傾向ケリテ其レガ爲メ自然用ヲ節シ、費ヲ省キ、素行修マリ、勤勉事ニ從ヒ、久シク勤續スルノ風ヲ起スニ至レリ、	一、五八四、〇〇〇円 人員　三〇九人	一ヶ年八分四厘
平野紡績	寄宿舍ニハ、特ニ賃銀仕拂ノ際貯蓄ヲ勸誘シ、貯金者ニハ奬勵ノ爲メ年末ニ賞品福引ヲ與フ、	一、〇三〇、〇〇〇 人員　三四八人	一ヶ年七分二厘

工場名	貯金奬勵ノ仕組ノ要領	貯金積立額及人員	利子歩合
三菱造船		八二六、九九〇円 人員　四〇人	一年 六朱
第一絹絲紡績		一四、六二七、七七〇 人員　四五五人	一ケ年 六朱
富士紡績	貯金ハ高利ヲ支拂ヒ尙掛員ニ於テ奬勵ス	三、二三五、〇〇〇 人員　九一〇人	
知多紡績	寄宿女工ニ限リ、本人及父兄ノ申込ニ依リ毎月所得高ノ內參拾錢乃至壹圓ノ小使錢ヲ控除シ、殘餘ヲ悉皆預ケ入レシム、	一、〇〇〇、〇〇〇 人員　一八〇人	一ケ年 一割
富士紡績	貯金ハ高利ヲ支拂ヒ、尙掛員ニ於テ奬勵シ、追々增進ノ形勢アリ	三、二三五、〇〇〇 人員　九一〇人	
名古屋製絲	職工貯金ハ奬勵ノ途ヲ講ジ貯金セシム	四九三、〇〇〇 人員　六一二人	一ケ年 一割

義務貯金制ニ於テ、之ヲ見ルニ、一般ニ各設備セル大工場ニ於テハ、日給一日分、又ハ月給三十分一、多キハ日給二日分ヲ、毎月積立トシテ會社ニ預ケ、之レニ銀行預金利子ト同率又ハ七朱乃至八朱ノ利子ヲ附シテ、之レヲ預リ、滿期若クハ退社セルモノニ下附セルモノヽ如ク、小工場ニ至リテハ、未ダ何等ノ設備ノ徵スルモノナク、任意貯金モ、漸ク各工場ニ於テ、勸奬ノ方法ヲ取レドモ、上述ノ外、他ニ博ク、其成蹟ノ見ルモノナシト雖、多少ノ効果アルモノヽ如シト雖、其引出ノ速カナル、到底其目的ヲ達セザルガ如シ、サレバ一朝彼等經濟的不幸ニ遭遇セバ、何ゾ哀訴ノ聲ヲ發セズシテ止ム可キ、之レ必竟勞働者自助ノ精神ニ乏シク、獨立自營ノ心、甚ダ薄ク、從テ勤儉貯蓄ノ念、缺如セルニ因セルニヨラズンバアラズ、何ゾ勸奬ノ方法ヲ講ゼズシテ已ム可キ、戰後工業ノ進歩發展ハ、益々勞働者社會ニ金錢散布ノ增加ヲ來シ、現時我ガ職工ノ無教育無道義ハ、益々不知不識ノ間ニ、濫費飲食遊惰ノ氣風ヲ馴致シ、之レガ爲ニ大ナル物質的ノ貢獻ヲ得ル能ハズトセバ、吾人豫メ之レガ、勸奬保護方法ヲ講セズシテ可ナランヤ。

第參節　勞働者ト生命保險

我國生命保險事業ハ、未ダ幼稚ニシテ、其區域廣カラズ、中等階級以上ノ爲ニスルモノハ、漸ク其端緒ヲ開キ、發展ノ域ニ進マントスレドモ、勞働者階級ノ保險ニ至リテハ、未ダ論ズル人サヘ稀ナリ、中等階級以上ノモノハ、我レニ多少ノ財産アリ、敢テ保險ノ庇蔭ニ依ラズトモ、大ナル困難ヲ感ズルニアラザルモ、勞働者ニシテ、勞働不能トナランカ、忽チ無資産者トナリ、忽チ他ノ救濟ヲ仰ガザル可ラズ、之ヲシテ保險ヲ利用セシメバ、以テ其安全ヲ期シ得ベク、終ニハ相當ノ資産ヲ構成シ、國民ノ獨立心ヲ涵養シ、之ヲ保險ニ附セザリシ場合ニ比セバ、社會風敎上、國家ニ損益スル處、雲壤ノ差アルニアラズヤ。

我國保險開始以來、既ニ二十有餘年ヲ經タリ、決シテ短シト云フ可ラズ、然ルニ國民ノ保險思想ハ頗ル幼稚ニシテ、近年漸ク其事業發達ノ趨勢ヲ見ルニ至リタルハ、悅ブ可キ現象ニ屬ス。

今左ニ、統計年鑑ヲ參照シテ、會社現況ヲ數年間對照スレバ、左ノ如シ

年末	社數	資本金	拂込資本金	責任準備金	收入金	支出金
二十四年	一	一〇〇、〇〇〇円	一〇〇、〇〇〇円	一六八、一二九	八六、一三五	三九、九三一
二十六年	四	八〇〇、〇〇〇	三〇五、〇〇〇	一四五八、〇〇八	一〇八九、二一四	三八二、五六七
二十七年	八	一八〇〇、〇〇〇	五三九、〇四〇	二〇七五、三四八	一三五六、二三五	六〇五、三九三
三十年	一五	六八〇〇、〇〇〇	一八八〇、〇〇〇	二一五七、七八五	五七五二、七一八	四〇一二、一八一
三十二年	二五	七一五〇、〇〇〇	三〇五二、五〇〇	九五六、六二四	九五八七、六二七	七四二四、四三六
三十四年	四三	九三五五、〇〇〇	二七四〇、五〇〇	一二九四三、一五三	八〇〇二、五九七	四六七、八五六
三十六年	三八	八七九五、〇〇〇	二六九八、八六六	二一九六八七、三九九	八八三四、四六一	五四八四、三四四
						一五七、〇〇八
						五一〇、二九〇
						六八〇、〇五三
						八〇三、四五八
						七二七、八二八

此表ニヨレバ、資本金額及拂込ハ、二十七年及三十年ニ於ケル、暴進ヲ除キテハ、年々着實ナル進歩ヲ示スモノヽ如キハ、實ニ悅ブ可キ現象ニ屬ス、三十七年末日刊行二

十三次統計年鑑ニヨレバ、三十六年末日會社總數三十八ニ達シ、被保人七十二萬七千八百二十八人ニ達シ、責任準備金千九百六拾八萬七千參百九拾九圓ニ達シ、去ル二十七年ノ被保人十萬三千九百二十七人、責任準備金貳百七萬七千參百四拾八圓ニ比シ、被保人ニ於テハ七倍强、責任準備金ニ於テハ九倍半强ニ達シタルヲ見ルモ其進歩發達ノ趨勢ノ一斑ヲ窺フ事ヲ得ベシ、然レドモ之レヲ我人口四千八百五十萬人ニ對比スレバ、僅ニ百五十分ノ一ニ充タズ、豈ニ驚ク可キノ少數ニアラズヤ、之ヲ他ノ事業ニ比スレバ、慨然タラザルヲ得ズ、

今第十九次統計年鑑ニヨリ其職業別ニ就キ、被保人ヲ見ル時ハ左ノ如シ、

職業別	結約	死亡	解約滿期	末日現在
官吏	一七、〇一三	一三一	二、一八三	一四、五九八
公吏	五、八一八	五〇	七九四	四、九七四
議員	三六七	三	三七	三二七
軍人	六、八八八	六六	九三四	五、八八八
裁判官警察官	五、四七四	三五	八五九	四、五八〇
教導職	九、四一九	七八	一、二四〇	八、一〇一
教員	一七、〇七七	一〇三	二、一六三	一五、四四一
學生	三、二〇一	一八	五一〇	二、六七三
醫師藥劑師	一五、四四〇	一五八	一、六六五	一三、六一七
辯護士公證人	一、二八八	一一	一四四	一、一三三
技術員	二、五四三	一二	三七九	二、一五二
海員	四、五二一	四六	七八一	三、六九四
機關士	五八九	六	一二六	四五七
漁業者	五五、六〇六	四七	一、〇八九	四、四七〇

職業別	結約	死亡	解約滿期	末日現在
新聞記者及著述者	六五一	七	一二二	五二二
銀行會社員	二一、六九〇	一四四	三、五一七	一八、〇九二
農業	三二、一六〇	九二二	二〇、六九七	一一〇、五四一
工業	六四、三七八	五三五	一〇、九九七	五二、八四六
商業	二一三、六五一	二、一二一	二九、八七八	一八一、六六二
其他	一六七、二五三	一、四一七	二九、〇一〇	一三六、八一七
合計	六九五、六五八	五、九〇一	一〇七、五三五	五八二、五二二

我ガ人口ノ職業別ハ、之レヲ詳密ニ知ルヲ得ザルヲ以テ、單ニ上記數字ノミヲ以テスル比較ハ、固ヨリ完全ナラズト雖、其一端ヲ見ルヲ得ベク、官吏、教員、醫師等ノ比較的多クシテ、國民ノ最多數ヲ占ムル、農商工人民ノ甚ダ多カラザル、之レ保險思想ノ普及セザルニ因スル所以カ、而シテ此統計ニ現ハレタル工業者中ニハ、工業ニ從事スル職工勞働者ニシテ、保險ニ加入スルモノ幾何アリヤ、之レ吾輩ノ知ラントスル所、然ルニ之レニ對スル、各工場及保險會社ニ於テハ、之ニ對スル、調査及統計ノ徵スルモノナク、余ハ數多ノ會社及工場ヲ歷訪シテ、實地得タル調査ニヨレバ、職工ニシテ保險ニ加入スルモノハ、殆ンド絕無ノ狀況ニシテ、中ニハ千有餘人ノ職工中一又ハ二人ノ加入者アルナランノ答辯ヲ得タルモノアリト雖、之レ又疑シキモノアリテ存ス、茲ニ於テカ、又數多ノ生命保險會社ニ就イテ、之ガ現狀ヲ調査セシモ、別ニ統計ノ徵スルモノナシト雖、勞働ニ從事スル職工ニシテ被保人タルモノハ、絕無ノ現狀タリトノ答辯ヲ得タリ、茲ニ於テカ、余思フニ、我國ノ生命保險ハ、中流階級以上ノ特有物ニシテ、最モ保險ノ必要ヲ感ズル、勞働者階級ニハ、絕無ノ現狀ナリト、斷言スルモ敢テ不可ナキナリ、統計ノ示ス處ニヨリ、之ヲ見ルニ我國現時ノ保險契約高ハ平均一人四圓內外ノ比例ナリ、之レヲ各國ニ徵スルニ、亞米利加ハ百八拾貳圓餘、英吉利ハ百五拾圓、獨逸ハ五拾八圓餘、其他佛蘭西ハ四拾圓ニシテ、此等ノ諸國ニ比

スレバ、我國ノ保險高ハ、其ノ十分ノ一乃至四十分一ニモ、當ラザルヲ見レバ、我國保險思想ノ幼稚ナル一般ヲ知ルニ難カラシカ、我國維新以來文化ノ發達、比較的顯著ナルニ似ズ、生命保險ハ識者ノ間ニモ、閑過セラレ、當ニ生命保險ハ、金融機關トシテハ、銀行業以下ニ目セラレ、慈善事業トシテハ教育事業以下ニ目セラレシニアラズヤ、果シテ然リトセバ、其振ハザル蓋シ故ナキニアラザルナリ。

第四節　各種工場ニ於ケル一般救濟法

抑モ機械ヲ工業ノ生産上ニ利用シ、多數ノ勞働者ヲ工場ニ集メ、一定ノ規律ノ下ニ、之レヲ使役スルハ、今日工業經營ノ狀態ニシテ、其組織ノ生産上ニ與ヘタル利益ハ、資本主ト其勞働者トニ分配スルコト同比ナラズ、素ヨリ勞働者之ガ爲ニ受取リタル利益ハ鮮少ナラズト雖、又曾テ見ザルノ劇變ヲ被リテ、損失セルモノ多シ、例ヘバ機械ノ爲ニ、其勞働ヲ支配セラレテ、自然ノ活動ヲ失シ、或ハ危險及ビ有害ナル業務ニ從事スルモノ增加シ、衞生上及ビ智德上ニ於ケル、不具者ヲ出スコト多ク、彼ノ工業組織ノ爲ニ、勞働者ガ資本主ガ利益シタルヨリモ、寧ロ其効益少キヲ見ルガ故ニ、未ダ全ク勞働者ノ滿足ヲ充ス能ハザルナリ、況ンヤ危險ナル機械ハ、勞働者ヲシテ致命罹傷セシメ、又有害有毒ナル業務ハ、彼等ヲシテ、不知不識ノ間ニ其壽命ヲ短縮セシムルノ證跡アルニ係ラズ、爾來我國ノ工業經營者ハ、一般ニ其弊害ヲ救濟豫防シ、勞働者ヲ保護救濟スルノ措置ヲ解セザルノ觀アリシガ、近時之ガ保護必要ヲ感ヲ來リ、大工場ニ於テハ、之ガ設備ノ稍々見ル可キモノナキニシモアラザルモ、未ダ以テ完備ノ域ニ達シタリト云フヲ得ズ、小工場ニ至リテハ、未ダ全ク之レガ保護救濟方法ニ於テハ、絶エテ之レナシ、今試ニ其設備ノ稍々完備セル工場ニ於ケル、職工ニ對スル農商務省ノ調査ニ係ル救濟的施設及扶助方法ノ梗概ヲ左ニ述ブル所アラントス、

日本紡績株式會社

扶助仕組ノ要領

業務上負傷者ニハ、相當出費ノ科目ヲ存スルモ、未ダ著シキ支出ヲ要シタルコトナシ、半ケ年五六百圓程ナリ、

業務上ノ負傷者、又ハ一般ノ負傷疾病ニ際シテハ、其職工ヲ救濟セシムルニ、保護基金ヲ以テシ、治療費ハ勿論死亡等ノ際ハ、其實狀ヲ審査ノ上規則ニ照シ扶助ヲ行フ

扶助ヲ受クルヲ得ベキ場合

業務上死傷シタルトキ、及職工ニシテ疾病ニ罹リタル時、其他通勤職工ニシテ、重病ニ罹リ、又ハ同居ノ家族重病ニ罹リ、又ハ非常ノ災害ニ遭遇シ事實困難ト見認ムル場合ハ、

(一)、治療ハ社費ヲ以テス、

(二)、休業中ハ、負傷ノ原因、及症狀ヲ審査ノ上、給料ノ金額又ハ幾部ヲ給與シ、尙別ニ手當金ヲ附與スルコト、

(三)、不具癈疾トナリタルモノニハ、相當ノ業務ヲ授ケ、相當業務ナキ時ハ契約ヲ解除シ、十日以上ノ日給ヲ給與ス、

寄宿職工ノ病傷ニ關スル扶助方法及金額

祭祀料拾圓以上五拾圓以下、

遺族扶助料、貳拾圓以上百圓以下、

(一)、社費ヲ以テ治療セシム、

(二)、病狀ニヨリ相當手當ヲ給シ、鄕里ヘ送還ス、

(三)、寄宿職工、死亡シタル時ハ、社費ニテ葬祭ヲ行フ、故ニ別ニ祭祀料ヲ給セズ、

其他ノ場合ニ關スル扶助方法

通勤職工ノ爲メ、家計困難ニ就キ扶助ヲ願出タル時ハ、平素ノ勤惰及其實狀ヲ審査シ、本人給料、八分以下ノ範圍ニテ一ケ月以内扶助ス、

職工分損シタル時ハ、其配偶ノ正否ヲ審査シ、正當ト見認ムル時ハ、前記同樣ノ範圍ニテ扶助スルコトアリ、

同居ノ家族、重症ニ罹リ、若クハ死亡シ、其他非常ノ災難ニ遭遇シ、事實困難ト見認ムル場合ハ、相當扶助ヲナス。

職工死亡シタル時ハ、壹圓以上五圓以内、葬式料ヲ給與シ、尙事情ニヨリ貳圓以上五拾圓以内ノ遺族扶助料ヲ給與ス。

自明治三十三年十一月三十四年十一月一年間患者及負傷者給與金統計表、(日本紡績會社)

扶助金及之レヲ受タル人員ノ實例、

項目＼年月	卅三年十一月	同年十二月	卅四年一月	同年二月	同年三月	同年四月	同年五月	同年六月	同年七月	同年八月	同年九月	同年十月	同年十一月	小計
公傷手當 金額	二〇〇	一五四〇	一六九四〇	二一二〇	九五四〇	六九〇〇	七四六〇	九〇九〇	二二〇〇	一〇二四〇	一〇一四〇	六二一〇	三三二〇	九九八五〇
公傷手當 人員	一	一〇	八	二	五	四	六	八	二	八	四	三	四	六五

入院費	金額	二、〇〇〇																
	人員	一																
患者旅費	金額		一、三五〇	九〇〇			三、〇〇〇	一、二〇〇	四、三〇〇			一、〇四〇	一五、五〇〇	二、八四〇	一四、二〇〇	一八、二〇〇	一三、四三〇	四三、五三〇
	人員		一	一			二	一	三			一	一	一	一四	九	六三	六
葬祭費	金額	二〇、〇〇〇	五、三一〇						五、八八〇	六、六九〇	七、九四〇	六、二三〇	二六、〇五〇	一〇、一〇〇	七、〇二〇	八八、五三〇	一四六、一〇	
	人員	一	一						一	二	二	二	八	四	一	一九		
病院費	金額									五、七一〇		四七、九三〇						
	人員											一三						
藥品滋養品	金額									一三、六一〇	五、六二〇	七、〇九〇	六、五四〇	二、三四〇	三、二四〇	三八、五四〇		
救助金	金額		二、〇〇〇															二、〇〇〇
	人員		一															一
合計	金額	二二、三〇〇	二、九八〇	一九、八四〇	二、一九〇	二、五四〇	一四、八四〇	一四、三七〇	三九、五七〇	七、八二〇	八二、六三〇	九五、三〇〇	五八、三四〇	三二、二七〇	四二、八九〇			

〔備考〕入院費ハ、社外病院費用、患者旅費ハ、病氣歸國旅費、葬祭費ハ、祭祀料、葬送費共、病院費ハ、寄宿病院入院患者賄料、其他藥及滋養品ハ入院患者牛乳及藥代救助金ハ病氣退職者ニ給與金、

平野紡績株式會社

扶助仕組要領

扶助ヲ受クルヲ得ベキ場合

會社ノ費用ヲ以テ扶助ヲ行フ、

業務上負傷シタル時、

(一)負傷者ハ社費ヲ以テ治療セシム、

(二)負傷者休業ニ至ルモノハ、其原因症狀ヲ審査シ、給料ノ全額又ハ幾分ヲ給ス、尙別ニ手當金ヲ附與スルコトアリ、

(三)負傷ノ結果、癈疾トナリ、業務ニ堪ヘザルニ至リタルモノハ、會社內ニテ、相當ノ業務ヲ授クルカ、又ハ契約ヲ解除シ一時金ヲ給與スルコトアリ、

死亡者ノ扶助

負傷ノ爲メ、死亡シタル時ハ、社費ニテ葬祭ヲ行ヒ遺族ニ祭祀料ヲ與ヘ尙扶助料ヲ給與ス、

明治紡績株式會社

扶助仕組要領

扶助ヲ受クルヲ得ベキ場合

會社ノ費用ヲ以テ扶助ヲ行フ、

業務上ノ負傷疾病及寄宿女工ノ負傷疾病ニ罹リタル時、

負傷者ニ社費ヲ以テ治療セシム、

寄宿女工疾病ニ罹リタル時ハ、社費ヲ以テ治療セシム、

岡山紡績株式會社

扶助仕組要領　會社ノ費用ヲ以テ扶助ヲ行フ、

扶助ヲ受クルヲ得ベキ場合　業務上負傷シタル時、
(一)負傷者ハ社費ヲ以テ治療セシム、
(二)負傷者ノ輕重ニヨリ、相當ノ扶助料ヲ給與スルコトアリ、
死亡者ニハ埋葬料、遺族扶助料ヲ給與シ、遺族ナキモノハ相當ノ祭祀料ヲ給與ス、
已往一ケ年間ノ扶助、人員、及支出金額、貳百七拾五圓、
人員、八十六人、

攝津紡績株式會社

扶助仕組要領　會社ノ費用ヲ以テ、扶助ヲ行フ、

扶助ヲ受クルヲ得ベキ場合　就業中負傷又ハ疾病ニ罹リタル時、
(一)負傷者ハ會社ノ費用ヲ以テ、治療ヲナサシム、
(二)負傷者、療養中ハ給料ノ半額ヲ給ス、
(三)不具トナリタル者ハ、終身現在ノ給料ヲ給與ス、

就業中疾病ニ罹リタルモノハ、社費ヲ以テ治療セシム、
外ニ重役職工、一般ヨリ、應分義捐金一人ノ得ル所貳拾圓以上、百圓以內ヲ追加給與ス、

大阪紡績株式會社

扶助仕組要領　會社ノ費用ヲ以テ扶助ヲ行フ、

扶助ヲ受クルヲ得ベキ場合　業務上ノ負傷及寄宿女工ノ疾病ニ罹リタル時、
業務上ノ負傷ハ寄宿所、病室ニテ治療シ、重傷ナリト診斷スル時ハ、之レヲ大阪病院ニ入院セシム、其費用ハ一切社費ヲ以テ支辨ス、
寄宿女工、疾病ニ罹リタル時ハ、社費ヲ以テ治療セシム、

泉州紡績株式會社

扶助仕組要領　會社ノ費用ヲ以テ扶助ヲ行フ、

扶助ヲ受クルヲ得ベキ場合　業務上ノ負傷ハ、其輕重ニヨリテ、寄宿職工、通勤職工ノ如何ヲ問ハズ、
囑托醫院、ノ病室ニ入レ治療セシム、
(一)業務上ノ負傷ハ、會社ノ費用ヲ以テ治療セシム、
(二)負傷者全癒マデ日給ノ半額ヲ支給ス、

三十四年一月ヨリ六月マデ扶助金ヲ受タルモノ、　人員　二十五人
此金額　四拾八圓拾壹錢

名古屋紡績株式會社

扶助仕組要領

扶助ヲ受クルヲ得ベキ場合

會社ノ費用ヲ以テ扶助ヲ行フ、
業務上負傷シタルモノハ事情ニヨリ、會社之レヲ治療セシム、
(一)、負傷者ハ其事情ニヨリ、醫藥費ヲ給ス、
(二)、其療養中ハ日給半額以下ヲ給與スルコトアリ、
(三)、死亡者ニハ、埋葬料、及遺族扶助料ヲ給與ス、
(四)、寄宿女工ニシテ、疾病ニ罹リ、治療ヲナストキハ、藥價ヲ補助ス、

扶助金ヲ受タル實例

補助支出金額、百拾七圓九拾貳錢、人員寄宿、百五十一人、
上半期扶助支出額、百九拾壹圓、人員通勤、十九人、

東京モスリン紡績株式會社

扶助仕組要領

扶助ヲ受クルヲ得ベキ場合

會社ノ費用ヲ以テ扶助ヲ行フ、
業務上負傷シタル時、
(一)負傷者ハ社費ヲ以テ治療セシム、
(二)負傷者休業中ハ、給料全額ヲ支給ス、愈傷ノ後、患部ノ模樣ニヨリ、五圓以上貳百圓以下ノ扶助料ヲ附與ス、

扶助金及之ヲ受タル實例、

一般ノ負傷疾病ニ際シ、救濟シタル一ケ年千貳百圓
人員　百二十人

金巾製織株式會社

扶助仕組要領

扶助ヲ受クルヲ得ベキ場合

會社ノ費用ヲ以テ扶助ヲ行フ、
業務上負傷及寄宿女工通勤職工ノ疾病ニ罹リタル時、
(一)、會社ノ費用ヲ以テ治療セシム、
(二)、負傷休業中ハ給料全額ヲ支給ス、
寄宿女工疾病ニ罹リタル時ハ、會社ノ費用ヲ以テ、診察服藥セシム、
通勤職工疾病ニ罹リタル時ハ、一日參錢ノ藥價ヲ徵收シテ診察服藥セシム、

扶助之レヲ受タル人員ノ實例、

負傷疾病ヲ合シ既往半ケ年
治療シタル患者數、七百十一人ニシテ、費用壹千貳百圓餘、

北海道製麻株式會社	扶助仕組要領	會社ノ費用ヲ以テ扶助ヲ行フ、
	扶助ヲ受クルヲ得ベキ場合	業務上ノ負擔、及寄宿職工ノ疾病ニ罹リ、病室又ハ病院ニ收容サレタル時、 業務上ノ負傷者ハ、凡テ社費ヲ以テ治療ヲナサシム、 寄宿職工疾病ニ罹リ、病室又ハ病院ニ收容サレタルモノニ限リ、一切社費ヲ以テ治療ス、 一般ノ疾病負傷ニ罹リ、一周間以上、休業スルモノハ、職工共濟組合ヨリ救濟ス、
京都綿ヲル株式會社	扶助仕組要領	社費ヲ以テ扶助ヲ行フ、
	扶助ヲ受クルヲ得ベキ場合	(一)業務上負傷シタル時、 業務上負傷セシ時ハ、豫メ定タル醫師、又ハ病院ニ於テ社費ヲ以テ治療ヲナサシム、 (二)休業中ハ賃銀全額ヲ支給ス、

		(三)治療後不具トナリタル場合ニ於テハ、左ノ手當ヲ給與ス、 (1)、一等手當、…終身自用ヲ辨ズル能ハザルモノ、終身年金額、現給額四分ノ一トス、 (2)、二等手當、…自己ノ動作ヲ得ルト雖、終身事業ヲ營ム能ハザルモノ、現給五ケ月分トス、 (3)、三等手當、…例ヒ事業ヲ營ムモ、身體ヲ毀損シ、給與ノ必要ヲ見認ムルモノ、現給二ケ月分トス、 適當ノ業務ニ從事スルコトヲ得ルモノハ、終身雇トナスコトアリテ此場合右手當ヲ給セズ、 負傷死ニ至ル時ハ、弔慰料、及遺族扶助料ヲ給與ス、 但シ遺族扶助料ハ死者ノ妻子又ハ死者ニ依テ、生活ヲナセシ家族ニ限ル、
死者ノ扶助		
日本鐵道株式會社	扶助仕組要領	會社ノ費用ヲ以テ扶助ヲ行フ、
	扶助ヲ受クルヲ得ル場合、	業務上負傷シタル時、 (一)業務上負傷者ハ社費ヲ以テ治療ヲナサシム、執業シ能ハザルモノニハ、其休業中毎日各自現給金五時間分、(卽チ普通日給ノ半額)ヲ支給ス、

職務上ニアラザル負傷、又ハ疾病ニ關シテハ、職員救濟規則ニヨリ救濟金ヲ支給ス、
三十四年七月ヨリ十二月マデ　治療人員一千十八人　金額貳千五百四拾壹圓七拾九錢　休業手當參百九拾七圓九拾錢　人員二百六十五人

三菱造船所職工救護法

職務上ノ負傷ニ基キ、死亡セル時、其遺族又ハ同原因ニテ造船所ノ傭使ニ勝ヘザル時、本人ヘ手當金、

一等、職工小頭并小頭心得、　金貳千五百圓、
二等、職工組長等、　金千五百圓、
三等、日給六拾錢以上職工又ハ組長、　金壹千圓、
四等、日給參拾五錢以上職工、　金五百圓、
五等、日給參拾五錢未滿職工、　金參百七拾五圓、
六等、見習職工日給貳拾錢未滿、　金五拾圓、

職務上負傷療養中日當手當金、

一等、　金壹圓、
二等、　金六拾錢、
三等、　金四拾錢、
四等、　金貳拾錢、
五等、　金拾五錢、
六等、　日給同額日給拾五錢以上ノ者ハ拾五錢ニ止ム、

病氣一週間ヲ過ギタル時日當手當金、

一等、　金五拾錢、
二等、　金參拾錢、
三等、　金貳拾錢、
四等、　金拾錢、
五等、　金八錢、

六等、　日給半額日給金拾六錢以上ノモノハ八錢ニ止ム、

滿六十年以上勤續セル職工ニテ、一等ハ滿六十歳、二等ハ五十五歳、三等以下ハ五十歳ニ達シタル時、又ハ身體ノ健康ヲ害シ業務ニ堪ヘザル時退隱ヲ許シタルモノ、又ハ造船所ノ都合ヲ以テ解傭シタルモノハ、退隱手當料ヲ給シ六十ケ月以上勤續セル職工死去ノ時ハ、其遺族ニ退隱料及同額ノ手當金ヲ給ス、

○退隱料及死去ノ手當金ハ左ノ割合ニヨリ勤勞ノ日數ニ應ジテ給與ス、

年數	一等	二等	三等	四等	五等及六等
滿五年	三〇一・〇九一円	一七七・八二二円	一二三・二六九円	五四・六二三円	四四・六三五円
滿五十年	一六、三四三・五二五	九、六五二・三四七	六、六九一・一七八	二、六九一・一七八	二、三九〇・二五〇

以上掲記スル如ク、我國各工場ニ於テハ、業務上ヨリ起ル負傷及死亡、其他疾病ニ關シテハ、一般ニ救濟方法行ハルヽ如シト雖、老癈ニ關スル設備ハ、三菱川崎其他二三ノ工場ヲ除ク外、一般ニ行ハレザルモノヽ如シ、

要之ニ、紡績工場、其他大工場ニアリテハ、職工救濟方法トシテハ、恩給金、制葬祭料、遺族扶助料、賜金等アリテ、之レガ救護ノ方法ヲ講ズレドモ、他ノ小工場ニアリテハ、這般何等ノ設備ナキモノヽ如シ、此レ工場ニ於ケル、一大缺點ナリ、之レ畢ニ職工ヲ憐ムノ私情ヨリ出ヅルニアラズシテ、前途我國工業ノ健全ナル發達ヲ欲セントスル、至情ヨリ出デタルモノナリ、

頃者、我國紡績界ノ泰斗、鐘淵紡績會社ガ、從來會社ガ施行シ來レル、職工救濟方法ノ組織ヲ一變シテ、事業ノ大擴張ト共ニ、其設備ヲ大ニシ、其濟組合ナル名義ノ下ニ、自活的救濟機關ヲ組織シテ、強制的ニ、之レニ加入セシメ、各自ノ給料百分ノ三ヲ保險料トシテ、拂込マシメ、組合員ノ疾病災厄及死亡等ヲ救濟スルノ方法ヲ設ダリ、是レ即チ勞働保險ノ先驅ニシテ、該問題研究上好箇ノ資料ナルヲ以テ、左ニ掲記スル所アラントス、

○鐘紡共濟組合定款

第一章　總則

第一條　此定款中ノ用語ノ意味ハ、左ノ通解釋ス可シ、

一、會社トハ鐘淵紡績株式會社ヲ謂フ、

一、醫師トハ鐘淵紡績株式會社、醫局所屬ノ醫師、又ハ特ニ會社ヨリ指定スル醫師ヲ謂フ

一、平均日給トハ請負收入金ヲ日給ニ換算シタルモノニシテ、計算ノ便宜上會社ノ定ムル處ノ平均日給ヲ謂フ、

第二條、本組合ハ組合員ノ病災ニ罹リタルモノヲ救濟シ、又ハ老衰及ビ負傷ノ爲メ、勞働ニ堪ヘザルモノ、或ハ規定ノ勤續年限ニ達シタルモノニ年金ヲ給與スルヲ以テ目的トス、

第三條、本組合ハ鐘紡共濟組合ト稱ス、

第四條、本組合部會ハ、本社營業部內ニ同支部ヲ各店內ニ設置ス、

第五條、本組合ハ會社保護監督ノ下ニ、會社使用人及ビ職工ヲ以テ組織ス、

第二章　組合員

第六條、組合員ヲ分チテ名譽組合員、特別組合員、及通常組合員ノ三種トス、

第七條、名譽組合員トハ、會社使用人、及職工以外ニシテ、會社ニ關係アル人々ガ、本組合ノ事業ニ、贊成同情ヲ表シ、之ニ寄附金ヲ義捐シタルモノヲ云フ、

第九條、通常組合員トハ、會社使用人、及職工ノ、中、月給金五拾圓未滿、又ハ月給金貳圓未滿ノ雇入レノ日ヨリ、勤務中必ズ加入セザルベカラザルモノヲ云フ、

第十條、通常組合員ニシテ、第八條ノ資格ヲ具備スルニ至ルトキハ、當然特別組合員トナルモノトス、

第十一條、通常組合員ニシテ、在社中一回ノ救濟ダモ受ケズ、契約滿期ニ至リ會社ヲ退キ、同時ニ組合ヲ脫退シタルトキハ、委員ノ審査ニ基ヅキ、既ニ拂込ミタル保險料金額ヲ返戻ス可シ、

第十二條、特別組合員ハ、前條ノ場合ト雖、一切保險料ノ拂戻シヲナサヾルモノトス、

第三章　組合員ノ待遇

第十三條、組合員ニシテ、病氣ニ罹リ、缺勤後四日ニ至ルトキハ、醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ、組合ヘ通知ス可シ、

第十四條、組合員病氣ニ罹リ、又ハ負傷ヲナシ、若クハ死亡シ、又ハ老衰ノ爲メ、勞働ニ堪ヘズシテ退社シ、又ハ規定ノ勤續年限ニ達シタルモノ等ニハ、本定款第四章以下ニ定ムル救濟ヲ爲シ、又ハ年金ヲ給與ス、

第四章　病氣ノ場合ニ於ケル救濟

第十五條、組合員病氣ニ罹リタル時ハ、本組合ハ左ノ扶助料ヲ給ス、

一、病氣ノ爲メ勞働不能トナリタルトキハ、醫師ノ證明ニ據リ、會社缺勤四日目ヨリ、一勞働日ニ付從來ノ給料ノ半額ヲ給ス、其給料ノ金額一定セザルモノハ、平均日給ニ據ル。

一、組合員ニシテ、會社ヨリ月給、又ハ日給全部ノ支給ヲ受クル間ハ、前項ヲ適用セズ。

一、寄宿女工又ハ其他ノ組合員ニシテ、特ニ會社ノ許可ヲ受ケ會社所設ノ病院、又ハ會社指定ノ病院ニ入院スルトキハ、其費用ハ會社ニテ負擔シ、本人ノ支拂ヲ要セザルモノナルヲ以テ、本條規定ニ據リ給スル病氣扶助料ハ本組合ヨリ、直接會社ニ支拂ヒ、本人ニ給與セザルモノトス、

一、組合員ニシテ、姙娠中及分娩後勞働スルコト能ハザル場合ニハ、醫師ノ證明ニ據リ、或時期ヲ限リ扶助料ヲ給スルコトアルベシ、

第十六條、病氣ノ原因ガ、本人過度ノ飲酒、其他ノ不品行ヨリ、起リタルモノナルトキハ、前條ノ救濟ヲナサズ。

第十七條、家族アル組合員、病氣ニ罹リタル時ハ、前條規定ノ外、若干ノ增扶助料ヲ給ス。

第十八條、前條ノ增扶助料ハ、本組合ニ加入後三ケ月ヲ經過シタルモノニアラザレバ、之レヲ給與セズ。

第十九條、病氣扶助料ノ給與ハ、三ケ月ヲ限リトス、五ケ年以上引續キ本組合員タルモノニ對シテハ、特ニ其期限ヲ五ケ月トス。

但兵役又ハ會社ヨリ休暇ヲ與ヘタル爲メ、一時組合ヲ脫シタルモノハ、前後五年以上會社ニアリ、本組合員タルモノニ限リ、特ニ五年以上引續キ、本組合員タルモノト同一ノ待遇ヲ與フ。

第二十條　前條ノ期間ヲ經過シ、猶病氣快癒セザルモ、全癒ノ見込アルモノ、又ハ簡易ナル業務ニ堪ヘ得ルモノニ對シテハ、本部委員會ノ決議ニヨリ、更ニ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十一條　特別ノ場合ニ於テ、會社ハ社員ヲ以テ、規定期間經過後、尙從來本組合ヨリ與ヘタルト、同額ノ病氣扶助料ヲ給スル場合ニハ、本部委員會ハ、一ケ年以內ノ期間ヲ定メ、第二十二條第一項ニ準ズル、待遇ヲ與フルコトヲ得。

第五章　負傷ノ場合ニ於ケル救濟

第二十二條　組合員職務ノ爲メ負傷シタル時ハ、本組合ハ左ノ負傷扶助料ヲ給ス、

一、負傷シタル日ヨリ、無料ニテ診察及治療ヲ受ケシメ、又ハ醫師ノ認ムル所ノ藥劑繃帶等、必需品ノ額ヲ給ス。

一、負傷ノ爲メ勞働不能トナリタル時ハ、醫師ノ證明ニヨリ、負傷シタル當日ヨリ、一勞働日ニ付從來ノ給料ノ金額ヲ給ス、其給料ノ金額、一定セザルモノハ、平均日數ニ據ル。

但負傷ノ場合ニハ會社ヨリ受クル特遇ノ如何ニ係ラズ、尙各前項ノ救濟ヲナスモノトス。

第二十三條　負傷ガ本人ノ故意、又ハ重大ナル過失ニ基クモノナル時ハ、前條ノ救濟ヲ爲サズ。

但其事情ニ依リ、本部委員會ノ決議ヲ以テ、第十五條ノ規定以內ニ於テ救濟ヲナスコトアルベシ。

第二十四條　負傷ニ對シテハ、別ニ增扶助料ヲ給與セズ、

第二十五條　負傷扶助料ノ給與ニ關シテハ、第十九條第二十條及第二十一條ヲ適用ス。

第二十六條、負傷ニ因リ終身勉働ニ從事スルコト能ハズ、又ハ終身勞働ノ能力ヲ減ズベキ不具癈疾トナリタル時ハ、本部委員會ノ決議ニ依リ、本人退社ノ際左ノ救濟ヲナス、

一、負傷手當トシテ、給料ノ二ケ月分以内ノ金額ヲ給與ス。

但金五百圓ヲ以テ最高トス、

一、引續キ會社ノ事務ニ從事スルモノハ、其再勤後受クル給料ト負傷前ノ給料トノ差額ヲ補給ス、其後昇給スルモ、補給ヲ減給セズ、

第二十七條、負傷ニ因リ、治療後不具トナラザルモ、傷痍ノ爲メ、普通ノ勞働ヲナス能ハザルモノニシテ、引續キ、會社ノ業務ニ從事スルモノハ、本部委員會ノ決議ニ依リ、左ノ救濟ヲナス、

一、負傷手當トシテ、金五圓以上五拾圓以下ヲ給シ、且ツ勤務中負傷後、受クル給料ト負傷前ノ給料トノ差額ヲ補給ス、

但其後昇給スルモ補給金ヲ減少セズ、

第二十八條、前條ノ場合ニ於テ、本人會社ノ業務ニ從事スル事ヲ欲セズ、退社スル時ハ、本部委員會ノ決議ニ依リ、負傷手當金トシテ、金參百圓以下ヲ給ス。

第六章　死亡ノ場合ニ於ケル救濟

第二十九條、組合員病氣ニ罹リ、死亡シタル時ハ、本部委員會ノ決議ニ據リ、左ノ救濟ヲ爲ス、

一　葬式料、　金拾五圓以内、

一　遺族扶助料、金百　圓以内、

第三十條、年金ヲ受ケツヽアル組合員ニシテ、死亡シタル時ハ、本部委員會ノ決議ニ據リ、當人ノ拂込金額ノ多少、及年金ヲ受ケタル、年月ノ長短等ヲ斟酌シ、金參百圓以内ノ範圍ニ於テ、其金額ヲ定メ遺族扶助料ヲ給ス、

但葬式料ハ前條ノ規定ニ準ズ、

第三十一條、組合員ノ夫、又ハ妻病氣ニ罹リ、死亡シタル時ハ、本部委員會ノ決議ニ據リ左ノ救濟ヲナス

一、葬式料、金拾五圓以內、

第三十二條、組合員負傷ノ爲メ、卽死シ、又ハ負傷ノ爲メ治療中死亡シタル時ハ、本部委員會ノ決議ニ據リ、左ノ救濟ヲ爲ス、

一、葬式料、金拾五圓以上參拾圓以下、

一、遺族扶助料、金壹百圓以上五百圓以下、

第七章　年金

第三十三條、特別組合員ハ、年金給與ノ待遇ヲ受ケザルモノトス、

但本部委員會ノ決議ニヨリ、特ニ年金ヲ給與スルコトアルベシ、

第三十四條、通常組合員ニシテ、左記ノ各條項ニ該當スルモノハ、年金ヲ給ス。

一、男子ニシテ、滿十ケ年間、女子ニシテ滿五ケ年間、勤務シタル時ハ、退社スト雖、尙向ヲ滿十五ケ年間ハ年金ヲ給ス。

一、第二十六條規定ニ該當スル負傷ノ爲メ、不具癈疾トナリタルモノ、引續キ會社ノ業務ニ從事スル時ハ、在社中年金ヲ給ス。

但此場合ニハ醫師ノ證明ヲ要スルモノトス。

一、第一項ノ勤續年限ニ達セザルモ、男子ニシテ滿五ケ年間勤續シ、年齡滿五十歲ニ達シタルモノ、及女子ニシテ滿三ケ年以上勤續シ、年齡滿四十五歲ニ達シタルモノニシテ、病氣ノ爲メ會社ノ業務ニ從事スルコト能ハザルニ至リタル時ハ、滿五ケ年間年金ヲ給ス、

但此場合ニハ醫師ノ證明ヲ要ス、

一、第一項ノ勤續年限ニ達セザルモ、病氣ノ爲メ、又ハ會社ノ都合ニヨリ、休職ヲ命セラレタル時ハ、其休職年限中年金ヲ給ス、

但本部委員會ノ決議ニヨリ、年金給與ノ年限ヲ多少延長スルコトヲ得、

第三十五條、第一項ニ該當スルモノ、病氣又ハ負傷ノ爲メ、勞働不能トナリ、退社スル時ハ、本部委員會ノ決議ニ依リ、十ケ年以內ノ範圍ニ於テ、退社後年金ヲ給與スルコトヲ得、又第二項ニ該當スルモノニシテ、前記ノ場合ニハ、本部委員會ノ決議ニヨリ、退社後年金給與ノ年限ヲ延長スルコトヲ得。

第三十六條、年金額ハ男子ニ在リテハ、當時ノ給料百分ノ十五、女子ニアリテハ百分ノ十ヲ以テ最低額トシ、定規ノ勤續年限以上一年ヲ增ス毎ニ百分ノ一ヲ加給ス、

但退社後ノ年金ニ對シテハ、之レヲ增率セザルモノトス、

第三十七條、組合員ノ年金ヲ受クル資格ニ就テハ、第三十四條規定ノ如シト雖、本組合設立ノ當初ニ於テ、會社ニ勤續セルモノニ限リ、左ノ特典ヲ與フ。

但此特典ニヨリ給與スル年金ハ、會社ガ本組合ニ補給スル金額ノ範圍內ニ於テ支出ス、萬一其支出ノ金額、補給額ニ超過スルトキハ、會社ハ特ニ其不足額ヲ支出ス可シ、又此特典ハ退社ニヨリテ消滅スルモノトス。

(一) 組合員ノ男子ニシテ、本組合設立ノ當初ニ於テ、勤續年限十ケ年以上ノモノハ、爾後六ケ月間、保險料ヲ拂込ム時ハ、年金トシテ當時ノ給料百分ノ七半ヲ給與シ、七ケ年以上勤續ノモノハ、爾後一ケ年間五ケ年以上勤續ノ者ハ、爾後二ケ年間二年以上勤續ノモノハ爾後三ケ年間、六ケ月以上勤續ノ者ハ爾後五ケ年間、保險料ノ拂込ヲ爲ス時ハ、前記ノ割合ヲ以テ年金ヲ給ス。

(二) 組合員ノ女子ニシテ、本組合設立ノ當初ニ於テ、勤續年限五ケ年以上ノ者ハ、爾後六ケ月間保險料ヲ拂込ム時ハ、當時ノ給料百分ノ五ヲ給シ、三ケ年以上勤續ノ者ハ爾後一ケ年間、一ケ年以上ノ者ハ爾後二ケ年間、六ケ月以上勤續ノモノハ、爾後三ケ年保險料ノ拂込ヲ爲ス時ハ、前記ノ割合ヲ以テ年金ヲ給ス。

(三) 組合員ノ內男女職工以外ノ使用人ハ、總テ本組合設立ノ當初ニ於テ、勤續年限十ケ年以上ノ者ハ爾後二ケ年間、勤續七ケ年以上ノ者ハ爾後三ケ年間、勤續五ケ年以上ノ者ハ爾後四ケ年間、勤續二ケ年以上ノモノハ爾後五ケ年間、勤續二ケ年未滿ノ者ハ爾後六ケ年間、保險料ノ拂込ヲナス時ハ當時ノ給料百分ノ七半ヲ年金トシテ給與ス。

第三十八條、前三章ノ場合ノ外、或特別ノ事情ニ依リ、組合員ノ一家非常ノ困難ニ陷リタル場合ハ、本部委員會ノ決議ニ依リ相當ノ救濟ヲナス。

第九章　保險料

第三十九條、組合員ノ保險料拂込金ハ、毎月月給額又ハ日給額ノ百分ノ三トシ、會社ハ別ニ拂込金總額ノ半額以上ヲ補給スルモノトス、

第四十條、組合員ノ拂込金ハ、會社ニ於テ給料支拂ノ際、差引本組合ヘ拂込ムモノトス。

但退社後年金ヲ受クルモノハ拂込ヲ要セズ。

第四十一條、組合員ニシテ、勞働不能ノ爲本組合ヨリ救濟ヲ受クルモノニハ、其期間保險料ノ拂込ヲ免除ス、

第四十二條、通常組合員ニシテ、滿五ケ年間引續保險料ヲ拂込ミ、一回モ救濟ヲ受ケザルモノハ、其以後ハ保險料三分一ヲ免除シ、十ケ年間引續キ保險料ヲ拂込ミ、一回モ救濟ヲ受ケザル者ハ三分二ヲ免除ス、

第十章　役員

第四十三條、本組合ニ左ノ役員ヲ置ク、

本部、委員長、一名、委員、四名、會計監督、一名、

支部、委員長、一名、委員、四名、

第四十四條、本部委員長、委員、及會計監督ハ、會社支配人ノ選任スルモノトス。

第四十五條、支部委員長ハ、各店工場長ヲ以テ、之ニ當テ、委員ノ内一名ハ委員ノ指名ニ依リ、他ノ三名ハ、各店組合員ノ互選ニ依リ之ヲ定ム。

第四十六條、本部委員ハ本組合ニ關スル一切ノ事務ヲ處決遂行シ、會社及組合員ニ對シ其責ニ任ズ、

第四十七條、本組合役員ハ總テ無給トス、

第四十八條、支部委員長及委員ハ本部委員ノ職務ヲ補佐シ、其委任ヲ受タル事項ニ就テハ、之レヲ處決遂行シ、本部委員會及其一店ノ組合員ニ對シ其責ニ任ズ、

第四十九條、會計監督ハ基金ノ會計ヲ管理シ、毎月收支ノ計算表ヲ調製シ、之ヲ本部委員ニ提出スルモノトス

第十一章　基金ノ保管

第五十條、基金ハ現金ニテ、一切之ヲ會社ニ預ケ入ルヽモノトス、

但預金利子ハ年八朱トス、

第十二章　準備金

第五十一條、本組合ハ準備金トシテ、毎年拂込金額ノ少クモ十分一以上ヲ積立テ置クモノトス。

第五十二條、準備金ハ會社ノ承認ヲ經ルニ非ラザレバ、之ヲ使用スル事ヲ得ズ、

第十三章　雜則

第五十三條、毎年ノ支出及準備金ニ對シ、基金不足ヲ告グル時ハ、本部委員會ノ決議ニ依リ、會社ノ承認ヲ經テ、保險料ノ增額又ハ組合員待遇ノ縮小ヲナス事アル可シ、

第五十四條、毎年ノ收入ガ、其支出ヲ償ヒ、且準備金ガ前三年間平均支出額以上ニ上リタル時ハ、本部委員會ノ決議ニ依リ、會社ノ承認ヲ經テ、保險料ノ減額又ハ、組合員待遇ノ擴張ヲナスコトアル可シ、

第五十五條、前條ノ場合ニ於テ、毎年ノ收入支出ヲ償ヒタル上準備金ガ平均一年間支出額ノ二倍以上ニ達セル時ハ、會社ノ承認ヲ經テ其以上準備金ノ積立ヲ停止スルコトヲ得、

第五十六條、通常組合員ニシテ特ニ會社ノ命ニ依リ會社以外ニ轉勤スル時又ハ會社ノ都合上解雇セラレタル時ハ、組合員タリシ間、一回モ救濟ヲ受ケタル事ナキモノニ限リ、已ニ拂込ミタル保險料ノ全部ヲ返却スルモノトス。

但不都合ノ行爲アリテ會社ヨリ解雇サレタルモノハ此限リニアラズ。

第五十七條、通常組合員ノ內男子ニシテ、家督相續ノ爲メ、又ハ女子ニシテ結婚ノ爲メ、歸國スル場合ニハ、戶籍謄本ヲ以テ、證明シタル後、本部委員會ノ、決議ニヨリ、保險料ノ幾分ヲ拂戻スコトアルベシ。

第五十八條、本組合ノ事務及會計ニ關スル廣告ハ、鐘紡ノ汽笛、又ハ女子ノ友ニ掲載シ、或ハ各店工場所定ノ場所ニ掲示ス可シ。

第五十九條、本組合ノ事務施行ニ關スル細則ハ別ニ之レヲ定ム。

此ノ新制度ヲ初メテ施行シタル本年六月ノ成績ヲ見ルニ、此ノ組合ニ加入セルモノ、一萬二千八百二十三人ニシテ、保險料ノ收入、參千五拾圓六拾貳錢ニシテ、同月ニ死亡セシモノ六名ニ對シ、貳百參拾四圓七拾錢、年金トシテ支出セルモノハ八百七十七名ニ對シ、此金額九百六拾九圓四拾貳錢ニシテ、差引千八百四拾六圓五拾錢ノ剩餘ヲ生ジ、會社ヨリ總收入料金ト同額ヲ補助スル事トナレバ、一ケ月ニシテ、既ニ四千八百九拾七圓拾貳錢ノ基金ヲ得タリ、七月末ニハ更ニ增加シテ八千有餘圓トナレリ、斯カル狀態ヲ以テ基金ヲ蓄積シ得テ、其組合ノ基礎ハ年ヲ逐フテ鞏固トナルニ至ルヤ必セリ、吾人ハ各種工場ガ範ヲ茲ニ取リ、競フテ之レニ倣ヒ、事情ノ許ス限リ、金錢ト勞力ヲ惜マズ、銳意熱心職工ノ幸福ヲ計ラバ、獨リ勞働者ノ幸福ノミニ止ラズ、健全ナル發達ヲ遂グルコトヲ得ベシ、』

第五節　勞働者ト同盟罷業

勞働者自衞方法ノ最大武器トシテ、世人ニ認識セラルヽモノハ、同盟罷工ナリ、其罷工タルヤ、各國ノ刑法ヲ通覽スルモ、之ニ對シテ法律ニハ何等ノ制裁ナク、之ヲ處罰セズ、學者又止ムヲ得ザル方策トシテ之ヲ默許ス、蓋シ勞働者ガ自己ノ意ニ滿ザル所アリテ、傭主ニ訴フルモ、之ヲ容レラレザル時ハ、彼等ノ微力ナル、他ニ依ルベキノ途ナキヲ以テ、自己ノ業務ヲ休止シ、同盟罷工ノ途ニ出デ、以テ傭主ニ對抗ス、然リト雖、其資力ノ微弱ナル到底對抗スルコトヲ得ズシテ、忽チニシテ、降ヲ資本主ニ乞ハザル可ラズ、故ニ同盟罷工ハ、決シテ勞働者ノ利益ヲ保護スル所以ノ途ニアラズ、若シ不幸ニシテ、勞働者其目的ヲ達シ、其要求ヲ遂ゲ得ルコトアリトスルモ、同盟罷工ノ結果、資本主ノ受クル損害ノ莫大ナルコトハ、勞働者ノ比ニアラザルコトハ、識者ノ見認ムル所ニシテ、其影響ヲ受クルコト大ナル社會ヲ攪亂シ、經濟界ヲ紊亂ス、曾ニ一個ノ同盟罷工トシテ、默視シテ已ムベキモノニアラザルナリ。

今彼等同盟罷工ノ重ナル原因ヲ指摘センカ、

(一)賃銀增加ノ請求、

(二)賃銀減少ニ對スル抵抗、
(三)賃銀ノ前借又ハ支拂等、
(四)勞働時間短縮ノ請求、
(五)勞働者再雇入ノ請求、
(六)監督者ノ排斥ノ請求、

等ハ其重ナルモノナリ、去ル二十七八年戰役後、我國商工業ノ大勃興ハ、至ル所ニ同盟罷工ノ嘆聲ヲ洩シキ。

今試ミニ農商務省ノ調査ニ係ル、同盟罷業ニ關スル、三十年度ヨリ三十五年ニ至ル統計表ヲ掲記セン、

同盟罷業者ノ請求要點調

罷業者請求ノ要點	二十年白七月至十二月		三十一年		三十二年		三十三年		三十四年		三十五年		計	
	回數	人員	回數	人員	回數	人員	回數	人員	回數	人員	回數	人員	回數	人員
賃金增加	一八	二、〇一七	四、九七〇	四、六一八	四	一三、九五三	一三	△二七七	六	△一〇七	六	△一、六二七	六六	△五〇八
賃金增加其他ノ事項	三	△四四 二五	△八〇	△一二二	二	二、九二五	一	一、一五〇	八	△八一七	△一七〇	二、九二五	二八	二、九二五
賃金ノ前借又ハ支拂	六	七七九	二二〇	△七	一	一、一五九	一六〇			△一〇六			一一	一、一五九
賃金外ノ金錢又ハ物品給與若クハ改良及過怠金廢止			三六	一二五	三三五	△一七五	△五〇	一五二	一四七				三三五	△一七五
勞働時間ノ短縮其他事項					四二	△二一二			一〇二				四二	△二一二
監督者ノ排斥其他	一	一五五				不明		一	八〇				九	五八五
解雇	二	一八八											八	一六六
一定ノ要求事項ナキモノ	二	△一四〇	一四五	一	二四	二一	一	△四五	一				三	二一二
計	三二	三、三二六 △一八四	六、〇八八 △二〇五	四、八二七 △七	一	四、八三四	一	二、三一六	一八	一、九四八	八	一、六二七	一二七	一、九五四七 △二、二〇三
合計	三二	三、五一〇 四三	六、二九三 一五	四、八三四 一一	一	二、三一六 一八	一八	一、九四八	八	一、六四九	一二七	二〇、七五〇		

備考人員欄中△ハ女ノ數ヲ示シタルモノナリ

同盟罷業日數調

同盟罷業落着調

罷業日數別	三十年自七月至十二月		三十一年		三十二年		三十三年		三十四年		三十五年		計	
	回數	人員	回數	人員	回數	人員	回數	人員	回數	人員	回數	人員	回數	人員
一日乃至三日	一八	一、八六五	二五	二、五六二	九	四、一二五	四	六七〇	四	四二四	二	二一四	六二	九、八六一
四日乃至六日	四	五五一	三	一、九六〇	内一回不明 三一四	内一回不明 八四	三	二八七	七	八五三	二	九五	二〇	二、一八四
一週間以上	五	六四三	四	二八五	一	一二〇	一	五二	四	四三一	一	一、〇〇〇	一六	四、二〇六
二週間以上	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	二	四八八	三	七七三
三週間以上	一	六二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	六二
不明	四	三八九	一〇	一、一七二	四	五〇五	三	一、三〇七	三	二四〇	一	五二	二五	三、六六四
計	三二	三、五一〇	四三	六、二九三	一五	四、八三四	一一	二、三一六	一八	一、九四八	八	一、九四八	一二七	二〇、七五〇

同盟罷業結果調

落着別	三十年自七月至十二月		三十一年		三十二年		三十三年		三十四年		三十五年		計	
	回數	人員	回數	人員	回數	人員	回數	人員	回數	人員	回數	人員	回數	人員
仲裁ニヨリ落着シタルモノ	七	四九八	九	九〇七	一	三、六〇〇	一	一六〇	四	二四三	四	五八四	二六	五、九九二
相對ニテ落着シタルモノ	一二	一、七〇八	一七	三、〇八二	七	六九一	六	七六七	八	六九一	二	九五	五二	七、〇三四
官公吏ノ說諭又ハ仲裁等ニヨリ落着シタル者	五	七八三	七	一、〇一三	四	一回不明 三五一	二	一、〇三二	三	七七四	一	一、〇〇〇	二二	四、九五三
首唱者又ハ重立タル者ヲ解傭シ落着シタル者	二	一六四	五	五八六	三	一九二	—	—	一	二六	一	一七〇	一二	一、一三八
罷業者ノ全部又ハ過半ヲ解傭シテ落着シタルモノ	六	三五七	一	二五〇	—	—	—	—	—	六〇	—	—	八	六六七
落着顚末不明ノモノ	—	—	四	四五五	—	四、八三四	二	二、三一六	一	一、九四八	—	—	七	九六六
計	三二	三、五一〇	四三	六、二九三	一五	四、八三四	一一	二、三一六	一八	一、九四八	八	一、八四九	一二七	二〇、七五〇

結果別	三十年自七月至十二月		三十一年		三十二年		三十三年		三十四年		三十五年		計	
	回數	人員	回數	人員	回數	人員	回數	人員	回數	人員	回數	人員	回數	人員

全部又ハ一部ノ目的ヲ達シタルモノ	一七	二、一四五	一七	二、一四八	八	二回不明	八五九	四	六八四	八	一、二〇〇	三	一、〇九五	五七	八、一三一
條件附又ハ期限附ニテ目的ヲ達シタルモノ	五	四三八	五	一、四三二	一	三、六〇〇	—		—	二	一二四	二	四八八	一五	六、〇八二
目的ヲ達セザリシモノ	九	八八七	一一	一、九六〇	六	三七五	五	一、二七五	六	三八二	三	二六六	四〇	五、一四六
結果又ハ目的不明ノモノ	一	四〇	一〇	七五三	—	一回不明	—	三五七	二	二四一	—	—	一五	一、三九一
計	三二	三、五一〇	四三	六、二九三	一五	四、八三四	一一	二、三一六	一八	一、九四八	八	一、八四九	一二七	二〇、七五〇

其原因ノ重ナルモノハ、賃銀增加ノ請求問題ニシテ、是レ必竟自活ノ途ヲ得ル能ハザルニ存スルニアラザルカ、勞働者ハ現時資本制度ノ恩惠ヲ蒙ルコト比較的少シト予輩ハ考量スルモノナリ、故ニ現時ノ社會ヲ顚覆セントスルニハ、彼等ハ一種ノ熱情ヲ以テ贊同ヲ表スル所ナリ、サレバ一朝革命ノ曉光ヲ社會ノ一隅ニ見ルコトアランカ、彼等ハ決起喜ンデ薪ヲ加ヘ、油ヲ注ギテ、焰々天ニ揚ルヲ見テ、快哉ヲ叫バンヤ必セリ、幸ニ現時勞働者、未ダ自助ノ行程ニ達セズ、其力微ニシテ其勢弱ク、資本制度ノ堅甲利刃ニ敵スル能ハザルヲ知リテ、呑怨袖手スルノミ、一朝機ノ乘ズ可キアランニハ、彼等ハ同志ヲ糾合シ、旗鼓整々堂々、陣ヲ構ヘテ資本主ト輸贏ヲ決セン、言頗ル詭辯ニ失スト雖、豫メ防備ノ術ヲ講ゼサレバ臍ヲ噬ムノ悔ヒアラン、即チ資本主ト勞働者ノ衝突ハ、之レ社會變革ノ兆ナリ、勞働者ノ來リ加フルモノ愈々多カランカ、空前ノ大激戰ハ、茲ニ開始セラレ、慄然恐ル可キモノ、茲ニアリテ存ス、カーライル曰ク『勞働者ハ巨人ナリ、彼ハ將ニ王タル可シ、未來ノ世界ハ勞働者ノ物ナリト』言聊カ虛大ニ過タルガ如シト雖、亦大ニ眞理ナキニアラズ、勞働ハ神聖ニシテ生産ノ一大要素タリ、將來ノ世界ニ於テ國民ガ精勵盡瘁ス可キモノハ、生産的事業ナリ、而シテ生産ノ要素ハ勞働者タルコトヲ知レバ、勞働者ハ將來社會ノ覇者タルコト豈ニ期シ難カランヤ、勞働者ハ商工業ノ骨髓タリ、勞働者ノ利害休戚ハ、實ニ國家ノ消長ニ關ス、然ラバ即チ國家ガ勞働者ノ爲メニ是ガ施設經營スベキハ、至當ノ事タルヲ信ズルモノナリ。

第五章　結論

保險ニ關スル一般概念、勞働保險ノ梗概、獨逸强制保險ノ實例、及我國現時工業勞働者一般ノ狀態ニ就テハ、既ニ其梗概ヲ論述セリ、此ヨリ此種ノ保險ヲ我國ニ於テ如何ニシテ經營ス可キヤノ問題ニ入ラントス、

我ガ國ノ保險事業ハ、前述ノ如ク未ダ幼稚ニシテ、其範圍廣カラズ、或ル點ニ於テハ、寧ロ弊害ヲ見認ム、サレバ勞働保險ノ如キ、特種ノ保險事業ヲ經營セントセバ、宜シク其民情ヲ精細ニ考察調査シ、其組織方法ニ至リテハ、宜シク我國情ニ適スルモノヲ選定セザル可ラズ、徒ラニ歐米ノ組織制度ヲ模倣ス可キニアラズ、サレドモ多年ノ經營ヲ積メル良法ヲ參酌スルハ、敢テ不可ナキナリ、余ハ勞働保險ノ經營ニ關シテハ、獨逸ノ制度ニ鑑ミ、我國現時ノ狀態ヲ考察シテ、私見ヲ述ブル所アラントス、唯ダ憾ムラクハ、我國現時未ダ諸種ノ調査統計備ハラザルヲ以テ、深ク之レガ討究ヲ試ムル能ハザルハ切ニ吾人ノ遺憾トスル所ナリ、サレバ余ハ其大綱ニ就キ、聊カ論究ヲ試ミ、斯業ノ研鑽ニ身ヲ委ヲ之レガ解決ヲ得ント欲スルハ、蓋シ故ナキニアラザルナリ、

此種ノ保險ヲ開始スルニハ、先ヅ試ミニ工業工場ニ從事スル勞働者ニ實施シ、然ル後ニ、獨逸ノ如ク各種ノ勞働者一般階級ニ實施セン事ヲ切望スルモノナリ。

今其私案ニヨレバ、

〔第一〕保險ノ目的、

(一)勞働者ノ疾病、

(二)業務災厄、

(三)老衰(六十五歳以上)及不具癈疾ノ場合ニ適當ノ救濟ヲナス事、

〔第二〕被保人ノ種類、

被保人ノ種類ハ、工業勞働ニ從事スル勞働者ニシテ、一ケ年收入貨銀參百圓未滿ノモノニ限ルヲ原則トシ、必要ニ應シテ、之レト同等ノ地位ニアル工場使用人ヲモ加フル事、

〔第三〕保險料ノ負擔、

保險料ノ負擔ニ關シテハ、疾病保險ニアリテハ、勞働者工場主之レヲ分擔シ、

災厄保險ニ於テハ資本家ノミ之レヲ負擔シ老癈保險ニ於テハ勞働者及ビ工場主同額ノ負擔ヲナシ國家ハ一定ノ金額ヲ補助スル事。

〔第四〕保險料拂込、

保險料ノ拂込ハ一切工場主又ハ資本家ヨリ拂込マシメ勞働者ニ支拂フ賃銀ヨリ引去リ月末又ハ毎月二回國庫ニ拂込マシムル事。

但取扱機關ハ地方所在ノ郵便局ニテ取扱ハシムルコト。

〔第五〕保險事業ノ經費、

保險事業ノ經費ニ關シテハ日露戰役結了後當然露國ヨリ獲得ス可キ償金ノ一部ヲ以テ之レガ基金ニ充當シ大ニ其目的ヲ達セントセシガ今ヤ屈辱的平和締結ヲ以テ終了シ余輩ノ希望ハ水泡ニ歸シタリサレバ余ハ富者ノ義務トシテ相續財産稅ノ一部ヲ毎年蓄積シテ之レヲ以テ之レガ基金トシ補助經費ニ充當スルコト。

〔第六〕保險事業ノ經營ハ政府ヲ以テ之レニ當ラシムル事。

〔第七〕被保人ノ加入ニ就テハ放任主義ニヨラズシテ强制主義ヲ執ル事。

第一項ヨリ第四項ニ至ル事項ニ就テハ前述諸國ノ立法例ヲ基礎トシテ立論セシモノナレバ更ニ之レガ辯明ヲ要スル必要ナシト雖第六項第七項ニ至リテハ我國現時ノ狀態ヲ鑑ミ聊カ卽見ヲ述ブル所アラントス、

保險制度ヲ實施スルニハ前述ノ如ク國家奬勵ノ下ニ任意保險ヲ行フカ國家監督ノ下ニ强制保險ヲ行フカ此ノ二個ノ形式何レヲ採用スルヲ以テ最モ適當トスルカ余ハ我國現時各般ノ事情ヲ洞察シテ强制保險制度主義ヲ採用スルヲ以テ適當ナリト斷ズルモノナリ。

强制保險ハ任意保險ニ比シテ最モ迅速ニ最モ簡便ニ其ノ組織方法ヲ庶幾シ得ベク殊ニ本邦ニ於テハ前述ノ如ク我國ノ勞働者ハ今日アルヲ知リテ明日アルヲ知ラザル棄放無謀ノ徒ニシテ貯蓄心ニ乏シク且ツ勞働ヲ輕視スル惡弊アル此ノ如キ事情ノ下ニ於テ任意主義ヲ施行セントスルガ如キハ百年河清ヲ俟ツノ迂ニ同ジ且ツ之レニ加フルニ邦人一般ニ保險思想ニ乏シク教育アリ財産アリト稱スル、

上流社會ニ於テスラ、一般保險思想ニ、缺如セルハ、會社ノ營業成績ヲ一覽セバ、如何ニ多クノ解約、如何ニ多クノ保險不拂ヨリ、生ズル失効アルヲ見ル時ハ、以テ其保險思想ノ幼稚ナル一般ヲ立證スルニ足ル可ク、況ンヤ、無教育ニシテ、保險ノ何タルヲ知ラザル、勞働者階級ノ社會ニ於テオヤ、斯カル事情ノ下ニ、任意主義ニヨリテ、其保險ノ目的ヲ達セントスルハ、恰モ木ニ縁リテ魚ヲ求ムルト一般ノミ、何ゾ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得ンヤ、今彼レ等ガ保險ヲ厭忌セル、重ナル口實ノ一般ヲ列擧センカ、勞働者ノ大多數ハ、保險セズシテ、疾病、災厄、及ビ負傷ノ場合ニハ、公ノ救助、又ハ工場主ノ慈善心ニ依賴シテ、之レガ救助ヲ受ケントスルモノヽ如ク、或ハ勞働者ノ一部ハ、賃錢少クシテ、保險料ヲ拂フニ足ラズ、故ニ保險スル能ハズ、他ノ一部ハ保險シ得ベキ、餘金存スルニ係ラズ、保險思想ナキ爲メ、多クハ左ノ原因ニヨリテ、等閑ニ附スルモノアリ、卽チ保險思想ナキ爲メ、保險ノ事ヲ思ヒ及バズ、或ハ支拂ヲ恐レ、又ハ疾病、及ビ災厄負傷ニ遭遇セザルコトヲ僥倖スル等ノ諸原因ヨリシテ、被保人タルモノナカラン、サレバ無智ナル民衆ヲ保險ノ恩惠ニ浴セシムルハ、強制主義ニ若クモノナシ。

或者、強制保險ノ不利ヲ論シテ曰ク、強制保險ハ、強制ノ結果、保險技術上、被保人タルコトヲ得ザル程度ノ者ヲモ、被保險者タラシムルコト、多キヲ以テ、保險ノ純理ヲ脫却シテ、全ク保護救助ノ主義ニ近ケルモノナリト、難ンズルモノアレドモ、保險ハ各被保人ガ、衡平ノ危險分擔ニヨリテ、相互損害補償ヲ目的トスルモノナケレバ、絶對的ニ保護救助ト見ルヲ得ザルハ、自明ノ理ナリ、如何ニ強制主義ナリト雖、勿論法律ノ力、或ハ其ノ他ノ方法ニヨリテ、豫カジメ、之レガ危險ヲ豫防スルヲ得ルニアラズヤ。

要之、現今我國ノ勞働者ハ、未ダ自助ノ行程ニ達セズ、又之ニ加フルニ、完全ナル職工智腦ヲ有セズ、企業家ノ利己心ニ強キ、未ダ其迷夢ヨリ醒メザル、斯カル事情ノ下ニアリテハ、彼等ニ對シテ、眞正ノ價値ヲ了解セシムルハ、啻ニ強制アルノミ、強制ハ時勢ヲ矯正シ、臨機健全ノ良策タル可シ。

以上強制ノ要ヲ說キタリ、サレバ此種保險事業ヲシテ、公的經營（官業）トス可キ乎、私

的經營(民業)トス可キヤノ論題ニ入ランドス。

余ハ我國刻下ノ現狀ヲ考察シテ、官業ノ可ナルヲ論セントスルモノナリ、既ニ論セシ如ク、我國ノ保險事業ハ、未ダ幼稚ニシテ、漸ク近年ニ至リ、發展ノ兆ヲ現ハスト雖、一般ニ保險民業ノ惡弊ハ、我ガ保險界上ニ、幾多ノ障害ヲ與フルモノト云フ可キカ。

今試ニ、我國現時保險界ノ振ハザル、其原因ノ重ナルモノヲ指摘センカ。

(一)保險會社ノ競爭、

(二)會社營業費用ノ過夥、

(三)保險料高價ナル事、

(四)保險技師養成ノ設備ナキコト、

(五)保險事業ニ從事スル適當ナル從事者ナキコト、

(六)保險法令未ダ完備セザルコト、

(七)類似保險ノ處分未ダ確立セザルコト、

各保險會社競爭惡弊ノ增加ハ、實ニ同業者ノ多數其重ナル因ヲナセルニアラザルカ、同業者ノ多數ハ、互ニ多クノ被保險者ヲ得ンガ爲ニ、全國到ル處、僻邑ニ到ルマデ、多數ノ募集機關、及ビ代理機關ヲ設ケ、數多ノ社員ヲ派出シテ、日ニ劇甚トナリ、其手段方法、遂ニ卑劣ヲ極メ、德義ヲ沒却シテ、其結果善良ナルモノヲ驅テ、生存競爭上、善良ナル部分ハ、或者ノ爲ニ、壓セラレ、加之、無益ノ失費ハ、著シク、增大ヲ來シテ、保險金收入額ハ、少キニ比シテ、會社營業費ノ夥多ナルハ、最モ確實ナル證據トシテ、會社營業ノ決算報告書ヲ一見センカ、實ニ總收入ノ三割、乃至四割ヲ消費スルヲ見テモ明カナリ、保險業者ガ、其保險料ノ低率ヲ以テ、世人ノ希望ニ添ハントスルモ、之レ到底得ベカラザル事ニ屬ス、試ニ思ヘ保險事業ハ、他ノ生產事業ト異リ、偶然ノ事故ニヨリテ、生ズル經濟的損害ヲ互ニ塡補スル、特種ノ業務ナリ、然ルニ、此ノ中間ニ立テルモノガ、其少カラザル部分ヲ消費シ去ランカ、會社ノ基礎確立スルコトヲ得ズシテ、失敗ヲ蒙ルハ、元ヨリ異トスルニ足ラザルナリ、余驕カニ思ヘラク、我國生命保險ノ保險料率ハ高キニ失セザルノ感ナキヤ、

我國保險業開始以來、既ニ二十有餘年ノ歲月ヲ經タリ、決シテ短シト云フヲ得ズ、然

ルニ未ダ保險技師養成ノ設備ナク、一般ニ斯界ニ從事スル斯業者其智識ノ缺乏セル、實ニ驚ク可キモノニシテ、其智識缺如ノ結果ハ徒ラニ、募集ニ對スル、組織方法ヲ缺クニ於テオヤ、殊ニ我國一般事業家ニ公德ナク、會社ナルモノヲ利用スルニ組織シ、若クハ經營シ、殊ニ保險界ニアリテハ、株金保險金ヲ喰ヒ物トシ、被保人ノ死亡、又ハ他ノ支拂條件來ルモ、會社ニ於テハ、種々ノ口實ヲ構成シテ、保險金ヲ支拂セズシテ、法廷ノ手數ヲ煩ハシ、世人ヲシテ、却テ保險ノ効能ヲ沒却セシメ、却テ保險無能ヲ呼バシムルニ至ルハ、往々見ル所、之レニ加フルニ、保險法令、未ダ完備セザルヲ以テ、法令ノ不完全ハ、類似保險ノ處分未ダ確立セザルヲ以テ、保險ニ類似セル事業ヲ企テ、自己ノ野心ヲ充實セントスルモノヽ輩出スルハ、實ニ斯界ノ爲ニ惜ム可キ恨事ニアラズヤ、我國ニ於テハ、民事訴訟法、第六百十八條ニ、債權ノ差押フ可ラザルモノヲ列擧スルニ係ラズ、一種ノ遺族扶助料、又ハ恩給金トモ見ル可キ、保險金ニ於テハ、絕エテ之レガ差押ヲ禁止セザルニ至リテハ、吾國ノ法制ガ、全然生命保險ノ觀念ヲ度外視シタルノ感ナクンバアラズ、獨逸ノ如キハ、法令ヲ以テ、之レガ差押ヲ嚴禁シ、其他和蘭之レニ倣ヒ、其他歐洲各國ハ法律ノ下ニ、或ハ判決例ノ下ニ、保險金差押ヲ禁止スルニ傾ケリ、然ルニ我國ニ於テハ、此點ニ關スル法制ノ不備ヲ、余輩ハ慨ニ見認ムルモノナリ、我國保險事業、開始以來、既ニ二十有餘年、政府之レニ對スル、監督方法ヲ深ク講セザリシハ、我國ノ經濟、行政、法律上ノ沿革ニ、顯著ナル特異ヲ示スモノニシテ、其創設一ニ民業ニ委ヲ、其發達ト共ニ、益々其弊害ヲ示サントスル傾向ヲ生ズルニアラザルカ。

今試ミニ官業ノ利益ノ重ナルモノヲ指摘センカ、

(一)同業者ノ競爭ナキコト、

(二)保險率ノ低廉ナルコト、

(三)最モ便利ナル保險ノ實施ヲ得ルコト、

(四)便利ナルコト、

(五)支拂ノ確實ナルコト、

既ニ官業ニシテ、强制ナランカ、之レニ對シテ、同業者ノ競爭スルモノナキヲ以テ、多

數ノ募集機關又ハ代理機關ヲ設クルノ必要ナク從テ種々ノ失費ヲ省略スルコトヲ得ルハ自明ノ理ニシテ之レニ加フルニ斯界ニ對スル適切ノ材料ヲ蒐集シ速ニ損害ノ淵源ヲ遂究スルコトヲ得爲メニ隨時之レニ適スル法令ヲ改正シテ危險ヲ減少セシメ他ノ行政機關ト種々ノ氣脈ヲ通シテ之レガ施行ニ大ナル便益ヲ得ベク例ヘバ保險料ノ徵收又ハ保險金拂渡等ニ郵便機關ヲ利用シ又危險發生ノ際ニ地方警察官ヲ派出シテ以テ充分ニ其眞想ヲ取調ブルコトヲ得ベク其業務ノ統一迅速正確ヲ期シ得ベキコトハ到底民業ノ比ニアラズ從テ被保人ニ對シテハ安全ニ保險ヲ實施シ得ベク其信用ノ確實ハ支拂ノ確實ヲ期シテ始メテ其保險ノ保險タル目的ヲ確實ニ期シ得ベキカ。

或者官業經營ニ反對シテ曰ク官業ハ徒ラニ形式ニ拘泥シ不親切ニシテ改良進步ノ遲キハ之レ保險獨占ノ結果他ニ競爭ナキ爲メ知ラズ識ラズ其弊ニ陷入リ易シト余輩ハ斯カル些細タル弊害敢テ一顧ヲ値セズ之レガ矯正決シテ難事ニアラザルニ於テオヤ、

又曰ク公的經營ハ政府ノ管掌ニ屬スルヲ以テ安全確實ハ之レアリト雖之レガ保險料ハ直チニ中央金庫ニ集中シテ蓄積若クハ運轉セラルヽガ故ニ直ニ之レヲ其地方ニ於テ需要スル資金トシテ支出運轉スル能ハズ爲ニ地方ハ一時其資金ヲ中央ニ襤ハレテ金融ニ變調ヲ來ス恐アリト論ズルモノアリ之レ首肯ス可キ說ナリト雖其中央金庫ニ吸收セラレタル保險料ハ絕エズ再ビ散逸歸來スルヲ以テ余ハ地方ノ金融ニ大ナル變調ヲ來ス恐ナシト思料スルモノナリ若シ地方ノ金融ニ變調ヲ來スコトアリトセンカ之レガ豫防方法ヲ講ズル敢テ又至難ノ事ニアラズ其方法タルヤ種々アリト雖其保險料ノ集積ヲシテ其地方ノ確實ナル公共團體ニ貸與スル方法ヲ取ルモ又一法タルニアラズヤ獨逸ノ如キハ强制保險法施カレテ以來幾多ノ歲月ヲ經タリ然リト雖未ダ其地方ノ金融ニ變調アリシヲ見ズ此レ散逸歸來速カナル所以ナルガ故ニアラズヤ。

我國保險事業創始以來既ニ二十有餘年之レヲ他ノ事業ニ比セバ未ダ以テ元ヨリ長大足ノ進步ト云フ可ラズ政府ノ保險事業ニ對スル感想ハ又厚カラズ其保護監

督ノ方法ヲ講ジタルハ、二十七八年戰役諸會社ノ勃興ト共ニ、類似保險會社ノ設立相次デ起リ、主務官廳タル農商務省ハ、之レニ對スル法律ノ制定幷ニ監督機關ノ設置ト調査ニ着手シ始タリ、然リト雖、未ダ完備ノ域ニ達セズ、之レニ加フルニ、我國現時ノ事業家一般ニ公德ナク、世ヲ詐リ當局者ヲ欺キ、其紛糾ハ頻々トシテ、吾人ノ耳朶ニ達ス、世人ハ斯クノ如クシテ、以テ能ク保險ヲ以テ、安心ヲ購ヒ得ルト云ハンカ、保險契約ヲ締結シテ、安心ヲ得ル能ハズトセバ、業ニ已ニ保險其物ノ價値ハ失却シタルナリ、保險民業ノ弊ハ、徒ラニ保險無能ヲ叫バシムルニ至レリ、或者論ジテ曰ク、基礎ノ確固トセル會社ヲ選定シテ、被保險者タレト、余思フニ是レ頗ル難事ニ屬ス、何トナレバ、政府ハ保險事業ニ關シテ、既ニ特別ノ法律ヲ設ケ、多年之レガ監督ヲナシ來ルモ、未ダ充分ニ、其內情ヲ熟知スル能ハザルニアラズヤ、況ンヤ保險思想ナキ一般世人ニ於テオヤ、假令當時全盛ヲ極メ、完備ヲ極ムト雖、星移リ時變ジテ十年二十年、五十年、其歲月經過ト共ニ其會社ヲ司掌スル、人物ノ如何ニヨリテ、又變遷ヲ來スヤモ計ラレザルナリ、試ニ見ヨ、十年以前一時盛大ヲ極メタル、彼ノ百三十銀行ハ、現今安田氏ノ配下ニ營業ヲ豫想セザリシナラン、特ニ保險業ノ如キハ、銀行業務ト其性質ヲ異ニシ、銀行ハ惡シキ風說ヲ聽ケバ、預金者ハ忽チ之ヲ引キ出ス可キ、急策ナキニアラザレドモ、保險會社ハ然ラズ、長期間ノ契約ニシテ、過半ノ掛金ヲ損失シテ、解約スル場合ヲ除キテハ、多クハ其條件ノ到來ヲ待タザル可ラズ、現時民業保險界ノ紊亂ヲ極メタル狀態ニアリテハ、十年、二十年、三十年、後ニ於テ自己ノ契約ガ安全ニ實行サルヤ、否ヤヲ疑フハ、敢テ理ナキニアラザルナリ、サレバ余ハ我國刻下ノ現狀ヲ洞察シテ、民有生命保險業ヲ移シテ、悉ク保險官有ヲ叫バントスル、蓋シ故ナキニアラザルナリ、況ンヤ慈善的社會的事業ノ意味ヲ包含セル、勞働保險ニ於テオヤ。

聞クナラク、我政府ハ、此等勞働民ノ保險必要ヲ感ジテ、郵便保險法ナルモノヲ、議會ヲ提出セントセリ、(明治三十四年)之レ煙草及鹽專賣ト共ニ、一國ノ政治ガ、社會的ニ傾向シ來リタルモノニシテ、吾人ノ意ヲ强クスル現象ニアラズシテ何ゾ、今其要領ヲ述ブレバ、

一郵便保險トハ遞信大臣ノ管理スル生命保險ヲ云フ、

一保險ノ種類ヲ別チテ、有期年金、終身年金、及生命保險ノ三種トス。

有期年金トハ、一定ノ期間ヲ限リ、年金ヲ拂渡スモノヲ云フ、例ヘバ二十歳迄即チ十ケ年間、若干宛受取ル可キ契約ニシテ、被保人二十歳ニ達シタル時ヲ以テ、年金拂渡ヲ開始スルガ如シ、教育保險ノ類之レナリ。

終身保險トハ、一定ノ期間ノ期間ヲ限ラザルモノニシテ、被保人指定ノ年齢ニ達シタル時ヨリ、年金ヲ拂渡スモノヲ云フ、例ヘバ被保人四十五歳以後毎年若干圓宛ヲ終身受取ル可キ事ヲ契約スルモノ、即チ被保人四十五歳ニ達シタル時ヲ以テ、年金拂渡ノ開始期トシ、其生存中指定ノ年金ヲ拂渡スモノ、即チ養老保險ノ類、之レナリ、生命保險ハ、是レ迄普通行ハレタル方法ニテ、別ニ特種ノモノニアラズ。

一掛金ノ拂込ハ、一時拂込ト、一定ノ期間ノ拂込トノ二種アリ、何レモ別ニ定ムル方法ニヨリ、郵便貯金ニ預ケ入ルヲ以テ、其拂込濟ヲ證明スルモノトス。

之レ遞信大臣ノ管理スル保險事業ナリ、然レドモ此法令ノ目的ハ、表面人民ノ貯蓄奬勵ニアレドモ、其裏面ヲ尋ヌレバ、國庫ノ預金吸收策ナリ、ヨシ預金吸收策ノ魂膽ナリトスルモ、決シテ、我國勞働者階級ノ預金ヲ吸收スル能ハザルハ、識者ヲ俟タズシテ、知ル可キナリ、然リト雖、斯カル問題ハ慥ニ現今ノ要件ナリ、サレドモ其手段ヤ姑息ナリ、何ゾ更ニ進ンデ勞働者階級ヲ保護スル目的ヲ以テ、政府自ラ強制保險ヲ實施セザル。

頃者傳フル所ニヨレバ、我ガ政府ハ日露戰役後、勞働者保險法案ヲ、帝國議會ニ提出セントノ意アリト、而シテ其方法制度ニ至リテハ、未ダ其內容ヲ知ル能ハズト雖、余輩ハ我ガ政府ガ、此ノ點ニ注視セラレシヲ多謝スルト同時ニ、賢明ナル兩院議員諸氏ハ、滿腔ノ熱誠ヲ以テ、滿場一致之レガ通過ニ力ヲ注ガレンコトヲ熱望スルモノナリ。

抑モ國家ハ單ニ人民ノ生命財產自由ヲ保護スルノミナラズ、人民ノ福安ヲ圖リ、其發達ヲ計ル爲ニ、其力ヲ盡ス可シトハ、近世一般學者ノ唱道スル所ナリ、彼レ勞働者困弊ノ原因ヲ尋ヌレバ其社會ノ組織不完全ニ因ス、彼ノリーカードノ地代則チサ